

Kambara "Miraiha..." 1925

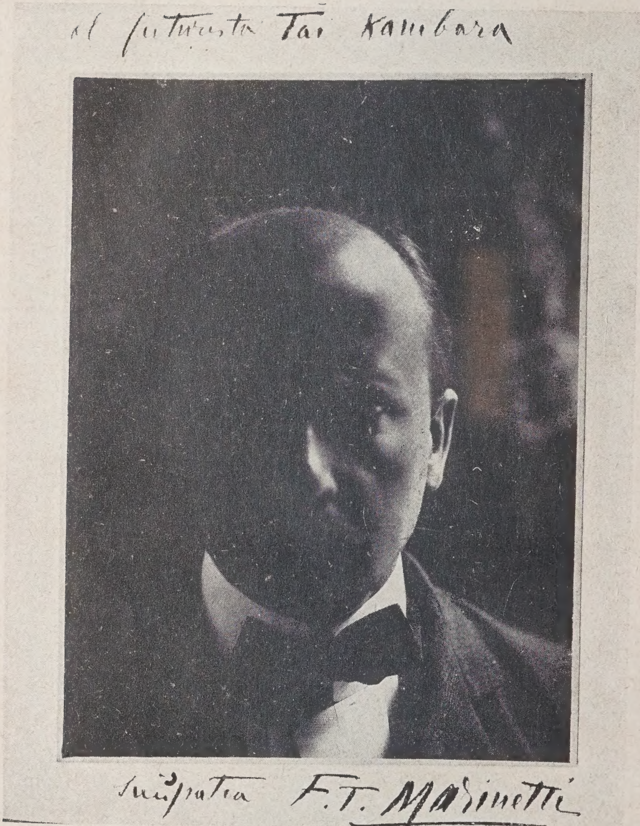
10A B61001-1
$1,500.

2612-532

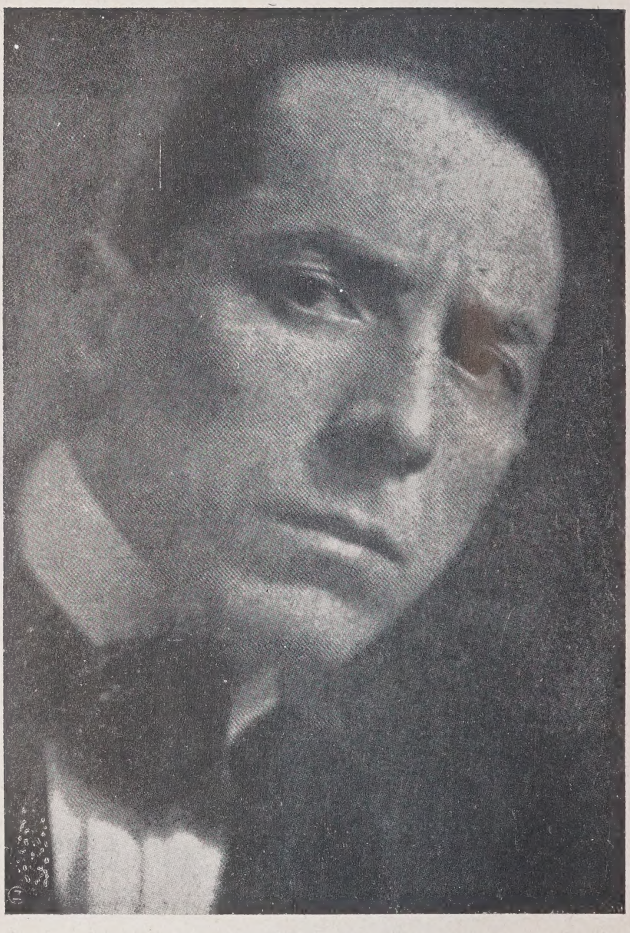
神原泰著

未來派研究

東京 イデア書院



マ リ ネッ ツィ



ボッチヨニイ



ルイヂ・ルッソロ



ロ ペ デ



神原　泰

序

藝術研究には二つの途がある。

一は內容を直接に批判する事による價値の研究で、二は歷史的考察に基く事實の確定である。

この本は、第二の目的の爲めに今後不定期に書かれる未來派研究の第一卷をなすものである。

事實は論義に先立ち、鑑賞は理解に續いて來ると信ずるからである。

本書は大部分新たに書かれたものであるが、震災の爲めに絕版となつた拙著「新しき時代の精神におくる」から轉載された箇所も少しある。

歷史上の事實の日などは未來派自身の記錄と大變異る所が多いが、私はなるべく多くの材料を參照して信じ得られるものだと思つたものだけによつた。この點では私の記錄が未來派自身發表した記錄より正しい場合もあらうと思ふが、反對に私のが間違つて居るのも無いとは云へ

ない。御遠慮なく御叱りと御教示を受けたい。

飜譯は意味が通じ得る限度に於てなるべく字について行ふやうにした。この種の研究には、それが當然だと信じたからで、かつて「ビリツィスの歌」の優雅な譯(?)を過賞され、今また未來派言說の醜譯、難譯を云々されても筆者は少しも意に介しない。但し誤譯はどんな細い點も訂正したいから、御教示を辱くしたい。

私達は淡白でありたい。

私達はスポーツ・マンだ。

未來派研究目次

2 Le Roi Bombarce の最初の上演について……………………三一
3 ツゥリエストのロセッツィ座に於ける未來派の第一回の夜の會合の日について……三三
4 アルド・パラッエスキの詩集「煽動」について……………………三五
5 「ローマ法王の飛行機」について……………………三七
6 「アシナリ・ヅィ・ベルネッツォ將軍の讃歌」ついて……………………三八
7 未來派が合衆國の文學に及ぼした影響の一例として(譯)……………………三九
8 眞晝の街道……………………四三
9 未來派繪畫展覽會の惹起した樣々な評判……………………三四六
10 よき兵士ギーヨーム・アポリネイルについて……………………三四九

挿畫及び寫眞目次

未來派の歴史

未來派の歷史

——この稿は未來派の發端から、未來派がその最大の目的の一つであつたオーストリアの征服の爲めに祖國を聯合國側に立たせるに至つた迄の間に起つた未來派各部門の發達史である。從つて、政治的色彩には重きを置かれては居るが、オーストリアの征服に殆んど直接關係のない事も、未來派の歷史として必要な事は記錄しようとした。なほこれは、舊稿「未來派の勝利」の不完全なりしに代る爲めに新しく書かれたものである。——

一九〇九年二月二〇日のル・フィガロで未來派宣言書（拙者「藝術の理解」所載）が、首將マリネッツィの署名で發表された。それは彼自らの言葉を借りると

「——私はル・フィガロで有名な未來派宣言書を發表した。それは過去崇拜や、アカデミイの暴虐や、現代の文學を苦しめる卑しい金づくに對する吾々の反逆の口火であつた。」

と書いて居る。
それ故、其の他の所でも彼自らいろいろと說明して居る通り、未來派は最初は純然たる藝術運動、就中詩及び文學の運動であつて、意識的にオーストリアを征服しようとして立つたものではなかつた。
私は未來派の發端をその宣言書の發表の日卽ち一九〇九年二月二〇日に求めようとするものであるが、それは現在の未來派の凡ての人によつて支持されて居る。
卽ちマリネッツィの Futurismo e Fascismo には
「未來派は一九〇九年二月二〇日愉快なイタリアの詩人及び藝術家の一團によつて始められた所の、革新者、純化者、先驅者、快速者の思想、理解、直觀、拳固、群集、平手打の反哲學的、反教養的な一大運動である。」
と明記されて居り、又一九一〇年四月一一日ボッチョニイ、カッラ、ルッソロ、バッラ、セベリニの五人の未來派畫家によつて發表された未來派畫家宣言書(後出)の中にも
「一九一〇年三月八日、トリノのキアレルラ座の舞臺から、吾々は三千の公衆――藝術家、

文學者、學生、彌次馬――に向つて第一回宣言書を投げつけた。その第一回宣言書は、野卑や官學的及衒學的凡庸や、古いものや虫ばまれたものなら何んでも盲目的に有難がる事やに對する吾々の深大な嘔吐と、尊大な輕蔑と反逆とを含む所の亂暴にして抒情的な塊であつた。

それによつて吾々は、一年前フィガロ紙上でエッフェ・テ・マリネッツィによつて始められた未來派詩人の運動に加盟したのである。」

と云つて居る。

然し「未來派」(Futurismo)の語源を求めるならば、吾々はその前年卽ち一九〇八年一〇月一一日迄遡らなければならない。卽ちその日マリネッツィは彼の友達である詩人パオロ・ブッヂ・コッラド・ゴボニ、エンリコ・カバッキオリ・アルマンド・マッツァ、ルチアノ・フォルゴーレと一緒に自分達の運動に冠する名稱を探がした。その事をマリネッツィは

「――力動主義(Dinamismo)と云ふ言葉と未來派(Futurismo)と云ふ言葉で、私は一寸の間ためらつた。しかし吾々の唇が高聲で未來派と云ふ言葉を出した時、私のイタリア人の血は更に高く跳つたのだつた。」

と書いて居る。

印象派にせよ立體派にせよ、多少冷笑的心持をまぜた第三者を名付親としたに反して、未來派はその出生の初めから尊大であり勇敢であり確信に滿ちて居た。

さらに翌三月二六日のコメヅィアには、訪問記者に對するマリネッツィの答辯が載つて居るし、その說明乃至辯明は、未來派宣言書發表後最初のものであると云ふ點で主要視されるものの、內容としては、「婦人の輕蔑」と云ふ簡易表現法(ラコニズム)に對して少しく敷衍し解說した所があつたのみで、他は殆んど全部宣言書中

「——吾等、世界の唯一の衞生なる戰爭を、軍國主義を、愛國主義を、無政府主義者の破壞的行動を、人を殺す所の麗しき觀念を、而して婦人の輕蔑を讃美せんとす。」

と云ふ第九條及び

「——吾等、美術館を、圖書館を破壞し、道學主義と婦人主義とすべての筒井順慶主義的並びに功利主義的怯懦と戰はんとす。」

とある第十條の文字の說明であつた。そして彼は

「――一體に人々は、愛國主義と無政府主義者の破壞的行動の讃美が、如何にして吾々の心の中で折合ふ事が出來るかと云ふ事を、殆んど理解して居ないか或は誤解をして居ます。多少哲學的な長たらしい無味乾燥な枝葉の論議に耽る事なしに、貴方達は此等二つの本質卽ち集團及び個人が、相互に密接に浸入し合ふものだと云ふ事を、私達と共に認めるでせう。團體の進步は個人の努力及び事業の結果として生ずるものではないでせうか？ 同時に國家の繁榮も、國家を構成する多數の分子の拮抗及び競爭によつて爲されるものです。同樣に民族間の產業及び軍事上の競爭は、人類の進步には必要な要素です。强い國家は、愛國的熱情に醉つた聯隊と、謀反に夢中になつて居る徵兵忌避者を、同時に包含出來ます。此等は、勇氣と力と精力の同一の本能の二つの異つたはけ口です。」

と云ひ、戰爭と云ひ軍國主義と云ひ、無政府主義者の破壞的行動と云ひ、彼が讃美するその主要目的は、國家及び國民の健康を增進し、回復する事にある事を說明した。

そして未來派宣言書と、この訪問記とを卷頭に揭げた三幕物 Poupées électriques は間もな

くサンソォ書房から出版された。これは私が電氣人形と題して日本語に移植したものである。

同年電氣人形の出版に先だつて、第一回宣言書を卷頭にのせた Enquête internationale sur le Vers libre et Manifeste du Futurisme が發行せられたが、それは一九〇五年マリネッツィによつて發せられた自由詩に關する質問に對する回答が、集められて發表される時にたまたま未來派宣言書の發表を見たので、その宣言書を卷頭にのせたまでであつて、發行日からのみ見てこれをも未來派の作物に數へようとするのは、內容からも年代學からも、誤謬だと云はなければならないと思ふ。

未來派宣言書の發表から二ケ月たつた一九〇九年四月に、マリネッツィは

「――おゝら！　偉大な煽動詩人よ、未來派のわが兄弟達よ！……おゝら！　パオロ・ブッチよ、ヂャン・ピエトロ・ルチニよ、パラツェスキよ、カバキオリよ、ゴボニよ、アルトマーレよ、フォルゴーレよ、ガルディレよ、ボッチョニイよ、カッラよ、ルッソロよ、バッラよ、セベリニよ、

プラテッラよ、ダルバよ、マッツァよ、カリエリよ、フロンツィニよ!! 中風症を出で、脚痛風を荒らし、世界の頂なるゴリサンカールの横腹に、偉大なる軍用軌道を敷かう!」

と云ひ始めた第二回未來派宣言書 Uccidiamo il Chiaro di Luna! を發表し、彼はその中で中風症の住民に向つて叫ぶ。

「——見苦しい! 見苦るしい!……何んだつてそんなに生きながら皮を剝れた臭猫のやうに泣き叫ぶんだ?……御前達の荒屋に火を付けるつて怖れてるのか?……未だだ! 俺達は次の冬を溫めたいんだ! で、冬の來るのを待ちながら、虫ばまれた橋を爆破するやうに、すべての因襲を破壞するんだ!……戰爭か? さうだとも……戰爭こそ俺達の唯一の希望であり吾々の生きる理由であり、俺達の唯だ一つの意思だ……さうだ、戰爭だ! 餘りに靜かに死んで行く御前達や、吾々の途を邪魔する凡ての死人に對する戰爭だ!……」

と云ひ、更に未來派の兄弟達をふり返つて

「——おゝ俺の氣狂達よ、おゝわが愛する兄弟達よ、われにつゞけ! 山と云ふ山の頂上、海まで遠くレールを敷かう!……君達は幾人だ?……三千か!……未だ不足だ!……おまけ

に倦怠と單調は君達の熱情をぢきに涸しちやう！……首府の入口にたむろして居る動物園の野獸に相談に行かう！……それ等こそ、たゞ一つの生物だ、傳統破壞者だ、非植物だ！……前進め！……痛風の國へ！……痛風へ！……」

と叫び、三千の同志をひきいて立つた。

かくて一九〇八年に書かれたパオロ・ブッヂの自由詩は未來派なる銘の下に、第二回宣言書を載せ、「吾等がやがて回復す可きツゥリエストの旗に」と云ふ捧げの言葉を附し、Aeroplani の題で出版された。

後年同志のマリオ・デッシィはこの本について

『パオロ・ブッヂは宣言書を書かない……中略……しかし此の本は、正當にもヂャン・ピエツゥロ・ルチニをして、イタリアの詩の表現樣式に對して大膽な解放を宣言した宣言書中の宣言書だと云はしめた。「吾等がやがて回復すべきツゥリエストの旗に」と云ふ捧げの言葉それ自體、全然計畫書であり且又政事論である。』

と云つた。

この年マリネッツィはアフリカの小説と銘打つた Mafarka le Futuriste を發表した。

この壯大なる文學——若しもこれをしも文學と云ひ得るとしたら、文學は何んと云ふ榮光(はえ)ある藝術であらう——この壯大なるオーケストラに序して、彼自ら

「偉大なる煽動詩人よ！

未來派のわが兄弟達よ！

ヂャン・ピエツゥロ・ルチニよ、

パオロ・ブッヂよ、フェデリコ・デ・マリアよ、

エンリコ・カバキオリよ、

コルラド・ゴボニよ、リベロ・アルトマーレよ、

アルド・パラツェスキよ、

これこそ私が貴方達に約束した偉大な火繩小說である。
吾々の心が吾々にとつて多音であるやうに、これも亦多音である。
これは抒情歌であり、叙事詩であり、冒險小說であり、同時に劇である。
私はこの傑作を書く事を敢てし得た唯一の人である。そして世界の一日一日と增大し行く榮光が、この小說の榮光と等しくなり從つてそれを最早入用としなくなつた時には、私の手によつてこそ此の傑作は死ぬのである。」
と云ひ始め、更に「戰爭の讚美」を主唱したあとで
「――此等平和の讚美者こそ奇妙な卑しい迄に不合理な人種だ！……あいつ達には戰爭が世界の唯一の衞生だと云ふ事は、決してわからないだらう。古のローマ人に似ない爲めに每日の入浴をやめる事で滿足して居るやうなにせ物の進步崇拜者の眼から見れば、少くとも俺は野蠻人ではあるまいか？」
と云ひ、更らに彼が愛する兄弟達を振り返つて、
「――おゝ未來派の兄弟達よ！　みんな前を向け！……みんなあいつ達に似て吳れるな！…

…そんなら君達は、あいつ達みたいに陰門のみぢめな子供となつてじつとして居るのか？吼える所の「未來」や量る事の出來ない「流轉」を締殺したいのか？』

と叫んで居る。

その著書は、單に未來派の傑作であるばかりでなく、二十世紀の最大な文學作品の一つであるし、未來派初期の思想の一つの重要な解說書である。

この詩であり論文であり音樂であり煽動である作品は、戰爭を主題とした文學中殆んど最大なる傑作ではあらうが、その中では未だオーストリアの征服は意識的には主張されて居なかつた。

此の年十二月未來派音樂家バリッラ・プラテッラの La Sina d'Vargöun がボローニァのコミュナレ座で演奏されて大きな反響を得た。その曲はプラテッラ自身の言葉によると

「――音樂家のピエッツゥウロ・マスカーニ、ヂァコモ・オレフィチェ、グイエモ・マッツィオリ、ロドルフォ・フェルラリ及び批評家のヂャン・バッティスタ・ナッピから成る委員會は、私が自分の自由詩に

基いて作つた作品 La siga d'Vargöun を選んで、ボローニァのチンチナト・バラッチの遺産で優秀な作品の上演費に當てる一萬リレの第一等賞金を與へた。」

と書いて居るものであつた。この作品をも未來派に數へるについては、異論もあらうが、後年彼自ら公然未來派の名を冠して發表した Manifesto dei Musicisti futuristi の中に、この曲を云々して居るによつても、これを未來派の記錄に收めても不當ではないと思ふ。

さあれ未來派宣言書が發表された年は、未來派運動にとつて準備の年にとどまつたと云ふ事が出來る。然し翌一九一〇年は來た。

一九一〇年一月一二日、マリネッツィは僚友アルマンド・マッツァとアルド・パラツェスキと共にツゥリエストへと汽車を走らした。

同行する筈のパオロ・ブッデとエンリコ・カバキオリはミラノを離れる事が出來なかつた。

晩む時、ロセッツィ座に溢れるばかりな聽集は、この未來派の前衞詩人を迎へた。

マリネッツィはその美しい聲と、魂を魅し去る力强い不思議な辯舌もて聽集の心を過去派の世界から未來派の世界へと運んだ。續いてアルマンド・マッツァはその巨大な身體と大きな聲とで未來派宣言書を讀み、激しい喝采と惡罵とを惹起した。

後年(一九一九年)アルマンド・マッツァの詩集 Firmamento 出づるに及んで、マリネッツィはそれに序して

「私は、ツゥリエストのロセッツィ座の喝采裡に於ける未來派の最初の戰爭の時のマッツァを思ひ出す。彈力的な足どり、力技者のやうな胸、快活な、大膽な、娛しげな、落着いたシチリア人の大きな顏。非常に有名なかの最初の宣言書を高聲に讀んだ時、彼の聲は鳴り響いた。」

と書き出して居る。

このアルマンド・マッツァに續いて現れたのはアルド・パラツェスキで、やさしい聲で彼自らの詩 La regola del Sole を歌ひ、續いてマッツァはマリネッツィの Canzone folle とヂャン・ピエッツゥロ・ルチニの Canto d'angoscia di speranza の一篇を高唱し、マリネッツィはリベロ・アルトマーレの I Desideri とフェデリコ・デ・マリアの歌 All'eroe che verrà とパオロ・ブッヂの Alla

Poesia 及び Canto dei reclusi 及び彼自らの有名な詩 All'Automobile を讀み。完全に滿場の聽集を魅了し去つた。

かくて、この記事及び諸家の批評、紹介、批判と、此時のマリネッツィの演説を卷頭にのせたアルド・パラツェスキの詩集は、L'Incendiario col Rapporto sulla Vittoria Futurista di Trieste の名の下に發刊された。（未來派雜錄參照）

ついで一九一〇二月一五日、單に未來派の歴史としてのみでなくて、世界歴史の上で忘れ得ない著名な夜の會合が、ミラノのリリコ座で開かれた。

マリネッツィ自身この異常な出來事を語つて

「――ロセッツィ座で得られたツゥリエストの勝利のあとで、突如として四千人の公衆の前に現はれ、最も傲慢な最も殘酷な眞實を、惜氣もなく彼等に與へたのは、ミラノのリリコ座に於てであつた。

私のまわりには旣に盛名ある二十臺の詩人のルチニ、ブッヂ、カバキオリ、ヂュセッペ・カリエ

リ、リベロ・アルトマレ、アルマンド・マッツァ、パラツェスキが居て、私と一緒に、或は散文で吾々の叡智を澁滯させる不名譽な現狀や、我國の外交を支配する筒井順慶主義や庸劣に對して宣戰し、如何なる犧牲を拂つても吾々は國家の威光を高めるのが緊急の必要であり、それなくしては何等の文學も藝術も生れないと云ふ事を主張した。

妨害や嘲罵の嵐を冒して、私はアシナリ・ヴィ・ベルネッツォ將軍を讃める詩を朗讀し終つた。その將軍は彼の兵隊の前で、オーストリアに反對する餘りに未來派的な演說をした廉で、不當にも退職を命ぜられたのである。(未來派雜錄參照)

政府や王室の怯懦に對する攻擊に滿ちたこの詩は、恐ろしい喧騷を惹起した。私は聖職者を好む保守黨や過度な平和論者から成る平土間の聽集に向つて代る代る話しかけ、また順々に、勞働組合の勞働者の集團が、水門でせかれた脅かすやうな水にさも似て怒鳴つて居る大向にも話しかけた。

その中の一人が突然「祖國なんかくたばつちまへ!」と叫んだ。

そこで私は聲を限りと『これこそ吾々の最初の未來派の結論だ!……戰爭萬歲! オース

トリアをやつつけろ！」となつた。そこで場内は卽座に二側に分れて戰爭となつて了つた。肩章をつけた臨席の警部達が舞臺に登つたが、吾々は、學生達の熱狂的喝采裡に、倦む事を知らない烈しさで、三國同盟に反對する宣言を續けた。巡査が舞臺に亂入して私は逮捕されたが、間もなく放免された。

此の記憶すべき會合は、オーストリアや獨逸の新聞雜誌に大きな反響をおこした。ウィンナの諸新聞紙は時を移さず一生懸命にイタリア政府に公式の謝罪を要求したが、それは承認されなかつた。」

と記して居る。

この會合は最初から幾分政治的色彩のあつた未來派の運動を激しく政事化したもので、未來派自身も心ある歷史家もすべて認めて居るやうに、今次の歐洲大戰に於けるイタリアの態度を定めさせた最初の運動であり、しかもそれは歐洲大戰の勃發前四年である。

この月卽ち一九一〇年二月ミラノで初めて未來派の繪畫展覽會が開かれ、前述のリリコ座での未來派の勝利に先立つ事四日、卽ち一九一〇年二月一一日ウンベルト・ボッチョニイ、カルロ・ダ

ルマッツォ・カッラ、ルイヂ・ルッソロ、ヂァコモ・バッラ、ヂノ・セベリニの五名の署名で、Manifesto dei pittori futuristi が發表され、此の宣傳を兼ねて未來派の主張を徹底させる爲めに、三千の聽集を前にして、一九一〇年三月八日トリノのキアレッラ座で、トリノの戰爭として有名な未來派の第三の夜の會合が開かれた。此の時聽集と未來派の人達との暴力の爭で殆んど殺されさうになつたマリネッツィは、自ら此の事を記して

「――トリノに於ける第三の未來派の夜の會合は實際エルナニの戰爭のやうであつた。町の最も廣い劇場の舞臺には、私や他の詩人と一緒に、非常に才能ある畫家ボッチョニイ、カッラ、ルッソロが現はれ、詩人の宣言書同樣、亂暴且つ革命的な畫家の宣言書を、高聲で說明し辯護した。

官學的な藝術に對し、美術館に對し、更に敎師や、考古學者や、骨董商や、考古家の天下に對する反逆の叫である此の宣言書を讀むと、藝術家が多數を占めて居る會場の中で、前代未聞の喧騷が起つた。

アッカデミア・アルベルツィナの生徒達は非常な熱心で未來派の人達を歡呼したが、また一部

の聽集はその人達を默らせようとした。

時を移さずその大きな會場は戰場となつて了つた。

平土間でも大向でも數へ切れない程の爭論や喧嘩がおこつて、拳固が飛び、杖が振り廻された。巡査が干渉し、拘引され、大騷ぎの裡に女が氣絕し、群衆は言葉では云ひ盡せないぐらひ騷ぐ。」

と書いて居る。

この年四月一一日、この宣言書を補ふ爲めに Manifesto tecnico della Pittura futurista が發表され、その兩者を併せて同じ日附で、Manifeste des Peintres Futuristes が前述の五人の署名で發表された。(後出) なほこの宣言書には英譯もある。

しかも宣傳の會はこの間でもどんどん續いてナポリやベネチヤやパドアなどで行はれ、更らに一日に十もの宣傳と爭鬪の會合が、あらゆる土地の談話會やクラブや街道や街角や劇場やで行はれ、あらゆる場所で、マリネッツィの言葉を使ふと、自由なものと奴隷と、生き生きしたものと死に瀕したものと、未來の構造者と死骸の剝製製造人の二組が出來て、思想上でも暴力に

於ても爭ひ鬪つた。然しそれ等の運動を通じて、警官が未來派の運動に好意を持つて居なかつたのは注意すべき事である。

この月の二七日マリネッティ以下十四人の未來派詩人及びボッチョニイ以下五人の未來派畫家は宣言書 Contro Venezia passatista（Premier manifeste futuriste aux Vénitiens）を發表し(後出)、その中で彼等は絶叫する。

「――吾等は、アドリアツィック海に於て吾等の永遠の敵なるオーストリアに挑戰し・進軍し得る産業的な軍事的なベネチアの誕生を計畫せんと欲する。

吾等、崩れかゝり癲病に罹つた古い宮殿の毀れで、臭氣紛々たる小運河を、いそぎ埋めよう。

癡人の鞦韆（ブランコ）なるゴンドラに火をつけよ！」

と。

この宣言書八十萬枚は、一九一〇七月八日未來派詩人及び畫家によつて撒かれたが、こえて八月一日詩人マリネッツィはベネチアのラ・フェニーチェ座に於て演說をした。即ち彼は先づ

『吾々が「月の光を打殺せ」（註第一回宣言書を云ふ。）と叫んだ時には、吾々はロマンツィシズムにぐつすり濡れて了つた古いベネチアの事を考へて居たのだ！』

と云つて中風患者に覺醒をすゝめ、遂に

『――おゝ！　恥ぢて顏赤らめう、國境に城砦を築くために、石や砂を一杯入れた嚢のやうに積重なつて上から上からと腹匍ひに倒れろ、その間に、吾々はこの大きなイタリア湖であるアドリアツィック海で、オーストリアの傲慢に挑戰すべき軍事的な產業的な偉大にして而も强大なベネチアをつくるだらう。』

と叫んだ。

ラ・フェニーチェ座に於ける演說の約一ケ月前即ち一九一〇年六月二日マリネッツィはナポリのボルサ・デル・ラボロで「狂暴の美しさ及びその必要についての演說、即ち英勇的な市民、警官の

廢止及び勇氣の學派」と題する長時間の講演をなし、その中で彼は

「――吾等、世界の唯一の衞生なる戰爭を、軍國主義を、愛國主義を、無政府主義者の破壞的行動を、人を殺す所の麗しき觀念を、而して婦人の輕蔑を讃美せんとす。」

と云ふ第九條を高唱し、なほ

「――吾等未來派の主張は、進歩と自由と危險の愛や、勇氣の宣傳や、日常生活の勇武主義である。

吾等の大なる敵は、因襲主義、凡庸主義及び怯儒である。」

と云つて、この爲めに、イタリアをば中風病から救つて、危險を愛し進歩を謳歌し、狂暴と勇武に生きる若々しき國家と國民であらせる爲めに、彼は

「――現在の秩序維持の組織は凡て、全々不適當であり、反動的であり、實效なく、低能であり、甚だ犯罪的である。

だから出來るだけ早く、それを廢止しよう。」

と云ひ、更に

「私は現在の警官の廢止を提言する。そしてそれに代るに市民から選拔された小數な高給な一團體を以てする。そして彼等は職權は持つて居るが、人に手錠をはめる權限などは絕對になくたゞ例外的な場合にのみ、人民に干涉する仕組みにする。」

と主張した。

この年、マリネッツィがそれ以前の自作の凡てに增して愛し自負して居つた傑作 Mafarka le futuriste（註、マリネッツィは自らその序で傑作と呼んで居るのみか、一九一〇年一〇月八日ミラノの地方裁判所第三部で開かれた公判の時も、自らその作を辯護して

『詩及び散文の本を數冊出したあとで、私は一年前パリーに於て「未來派のマファルカ」を發行した。それは私が他のどんな自作のものにもまして愛して居る作物であり、その中で私は未來派の偉大な夢を表現したのである。』

と誇つて居る。）がデチオ・チンツィの譯で發行された。そしてマリネッツィは風俗壞亂の廉で訴へられた。

一九一〇年一〇月八日ミラノの地方裁判所でこの公判が開かれた。畫家ボッチョニイ、ルッソロ、カッラ、詩人ブッチ、パラッツェスキ、マッツァ其他の未來派の僚友を初めとして多數の傍聽者は朝五時からつめかけた。傍聽禁止の命は下されたが、辯護人の主張によつて公開の裡にその公判は行はれた。それで第一にマリネッツィは單に自らの小說を辯護するのみか、未來派の主張及び自ら履歷、信念、希望を高唱し、爲めに傍聽者中に未來派に對する新たなる共鳴者を出すに至つた。

ついでマリネッツィを辯護する爲めにシチリアから來たカタニア大學敎授ルイヂ・カプアナは、彼の批評によれば小說でなくて詩であるこの作品を賞讃し

「マファルカに於ける創造力は眞にすばらしいものだ」

と云つたが、官憲は遂に四ケ月の入獄を求めた。

第二回の公判に於てはイノチェンツォ・カッパ先づ大いに論じ、次いで共和黨の首領なる代議員サルバトレ・バルチライの長時間に亙る辯論があり、次いでチェサレ・サルパッツィは單にその作者と作物を論じたのみでなくして、未來派詩人畫家を賞讃した。

かくて詩人マリネッツィは無罪の宣言を受け、大歡呼と熱狂の眞中に胴上げされ、未來派詩人畫家にまもられ、多數の共鳴者・共鬪者によつて從はれながら、ミラノの街をねり歩き、「マリネッツィ萬歲！　未來派萬歲！」の聲はミラノ街を響き渡つた。

しかし官憲はこれを不服として、なほも告訴を續け、遂にミラノの控訴院は二ケ月半の入獄（執行猶豫附）とこの本の發賣禁止を求め、大審院はこの判決を認めた。

この公判の第一日がミラノの地方裁判所で開かれたのは一九一〇年一〇月八日であつたが、二日置いた一〇月一一日にはバリッラ・プラテッラの Manifesto dei Musicisti futuristi が發表された。

かくの如く未來派運動が內面的にもどんどんと進んで行くと同時に、言論と暴力による宣傳も益々盛んになつて行つた。到る處に開かれたかゝる會合のうち「パルマの未來派革命」と未來派の人達が呼ぶ大混亂の原因は、主將マリネッツィの云ふ所によると

「――警察はパルマの或る劇場で吾々がやつて居た未來派の夜の會合を妨害した。又若く勇しいカプリッリ、タラマッシ、コペルツィニ、プロビンチアリ、ブルコ、ヨリ等を首領とする五十人の未來派の學生は、頑迷小心な教師の爲めに大學から退校させられた。これ等の論義の餘地もない不正當が大混亂の原因となつたのである。」

と云つて居るやうに、當時の官憲も政府も教育家も未來派を理解する事は到底できなかつた。それにも拘らず未來派は最も有爲な政治家や藝術家や青年を、どんどん味方にして行つた。

一九一一年三月一一日にはプラテッラは Manifesto tecnico della Musica futurista を發表し、こえて五月一一日には前述の二つの宣言書を綜合して Manifeste des Musiciens futuristes を發表した。

その二つの宣言書は餘りに眞理と安當性と常識とに滿ちて居て、少しく革命的色彩と熱情とに乏しいけれども。結論として第十一條に、

「一一、人間がその雜多な科學的發見によつて征服した自然、その絕へず又常に異(かわ)つて行く

自然の新しい變化の全部を、音樂に取入れる事。群集や、大工場や、汽車や、大西洋往復の大汽船や、甲鐵艦や、自動車や、飛行機やの音樂的生命を表現する事。最後に樂詩の偉大なる主要導調（モツイーフ）に機械の讃美及び電氣の勝利を加へる事」

と書いたのは、未來派らしいと思ふ。

音樂表現様式の宣言書が發表された日から二日前即ち一九一一年三月九日主將マリネッツィは彼が深く愛する都會パリー――かつて一九〇四年「パリーの街へ、この詩を捧ぐ」と書いて自らの第二詩集「破壞」をおくつたパリーのブッシェリー街にある會場で、Association des Etudiants de Paris の招待に應じて講演をし、未來派についての質問に應じた。

この席に於て、この偉大な詩人は未來派の各種の主張を表明し、宣言し、辯護しながら、力をこめて三國同盟や汎獨逸主義を攻擊した。そして、この詩人が走り行く自動車の詩を讀んで講演を了つてから、聽衆の熱狂的な賞讃と質問の爲めに、夜一時までも話がはづみ、其の日彼は滿場一致で名譽會員に推された。

翌朝マタンの彼に對する惡意ある虛僞な報道に對しては Président de la conférence des Lettres à l'Association des Étudiants であるラファエル・バルキッソォは、フランス人の氣持のいゝ明快さで

「――詩人マリネッツィ氏は吾々が招待した方である。だから如何なる場合でも笑や嘲罵で彼を迎へると云ふ事は、吾々には有り得ない事である。

正確に云へば、時々、殊にベネチア人に對する未來派の論議の時には反對の聲は聞こえはしたものゝ、如何なる時と雖ども吾々の僚友は詩人マリネッツィを嘲罵しなかつた。」

と云ひ、更に却つて詩人マリネッツィが熱狂と歡呼で迎へられ

『非常な喝采の裡に答辯(註、如何なる作品を未來派は同感するかと云ふ質問に對するマリネッツィの答)が終ると、吾々の僚友はマリネッツィ氏に「走り行く自動車へ」と題する未來派の詩を朗讀する事を求めた。そしてそれは偉大なる熱狂を惹起した。』

と記した正誤文をマタン紙にあてた。

この日から四日おいた一九一一年三月一四日のル・タン紙はマリネッツィとの會見談を掲げて

居るが、その談話の中でこの詩人は、かつてフェミニズムに對して彼がなしたと同じ明快さで、イタリアとフランスの相違を說き、未來派はイタリアなればこそ生れたのを力說した。

かくの如く未來派にとつては國籍の觀念は重大なものであつたが、首將は、彼の愛するパリーに於て、彼と血を同じくし（彼はエヂプトのアレキサンドリアに生れたが、典型的なラテン人である。）思を同じくする國民に向つて、彼とフランス人が共に抱く汎獨逸主義に對する嫌忌を高唱したのみでなくて、當時オーストラリアの軍港であつたツォリエストに出征してオーストラリアの征服を高唱して拘引された程の勇敢さを以て、彼はロンドンのライシーム倶樂部に於て、言葉を極めてラスキンと彼の嫌ふべき影響を攻擊し、Contro Roma Passatista 及び Contro Venezia Passatista 等の宣言書中に力說された

「吾等の半島（イタリア）の三つの化膿した傷であるフィレンツェ、ローマ、ベネチアを亂暴に近代化する事」

卽ち產業と軍隊と電氣（註、未來派詩人コッラド・ゴボニは後年詩集 Poesie elettriche を「電氣のベネチアに」と題して捧げて居る）とすべての近代の力動が支配する力强い街に化して了ふ

事を主張したあとで、その結論として

「――イタリア王室はこの偉大な夢の實現について吾々と協力するだらうか？　これはどうも怪しい。何故ならマチニ・ガリバルヅィ、カブールが獨立させ統一させたこの半島を王室に捧げた日以來ずつと保つて來た全然名のみな裝飾的な平和なやり方から、王室は一歩も離れたがつて居ないのであるから。それ故吾々は王室は國家に對し全然直接な權利を持つて居ると認めないのである。只王室は左の如き緊急な義務を果さなければならないので、若しさもしなければ王室は死期を早めるのを免れ得ない。即ち其の義務は、

第一、イタリア王室は何よりもさきに、戰爭を計畫して居る國民の自尊心を鞏固にしなければならない。

第二、王室は、吾々の意思に反して吾等の唯一の敵なるオーストリアと吾々を結び付ける恥づべき綱の三國同盟を斷切らなければならない。

第三、王室は、國内最大の敵である聖職崇拜者をたゝきつけ、首府からは法王宮を片づけてやらなければならない。

第四、王室は、ローマを再造して産業的に通商的に勢力を倍加させ、不名譽且つ僥倖的な外國人の産業から解放してやらなければならない。

かく此等の眞理を肯定すればとて、吾等は決して、社會主義者や共和主義者の通話管でないと云ふ事を、注意してほしい。

イタリアの凡ての政黨は現今では、順慶主義と怯懦との爲めに腐敗して居るから、吾々は彼等に對する未來派的消毒劑であり、革命的侵蝕酸なのである。

吾々は共和政體を理想的な決定的な目標であると考へて居ない。吾々は、共和政體は、當然王政に續くべき一時的政治形式の一つだと思ふ。そして吾々は共和政體より更に進むべきである。

解放及び知的刷新を目的とする吾々の大運動は、他のどんな國にもまして生きて居り、しかも他のどんな國にもまして賞讃すべき過去の重荷を擔つて居る國であるイタリアなればこそ、生れ得たのである。

強き力は、人類の死亡した感覺の凡てと、勝誇る偉大なる空中感覺とを明確に區別する所

の、歴史上の此の正確な瞬間に於て、過去の壓制的な教養に反抗して立つ要があつたのだ。
吾々は吾々の祖先と共通な物を殆んど持つて居ないのだ。だから勇ましく彼等を否定しよう。」
と叫んだ。
しかしオーストリアの征服は「吾等の麗しき火藥庫なるツゥリエスト」と題する節の中で、一層徹底的に語られて居る。（註、この講演の中 Trieste la nostra bella polveriera 及び La guerra, solaigiene del mondo はマリネッツィによつて一九一〇年八月ミラノのアバンツィ誌に載せられた同名の論文に基いて居る。）
卽ち
『――これ等の多様な理由の爲めに、吾々はすべての古代ローマ人よりも、すべての中世紀のフィレンツェの人々よりも、勢力を失つたすべてのベネチアの人達よりも、ツゥリエストの住民をより深く愛する。そのツゥリエストの住民の愛國的な美しい焦燥が、望むらくは、程なく火藥に火をつけるであらう。

吾々は曾つてツゥリエストの住民に向つて

「貴方達は敵に向いたイタリアの亂暴なそして眞赤な顏である。もつと適切に云へば、貴方達は用意して敵の方へ伸ばされた拳固である。それを忘れるな！……ツゥリエストよ！御前は吾々の唯一の火藥庫である！　吾々の全希望は御前にあるのだ！

だから平和論者や世界主義者の理論を輕蔑しろ。愛國主義や戰爭を愛する心は、何等空想に關するものではない。それこそ衞生の第一義であり。それなくては、力を失ひ死んで了ふ外はない！

イタリアの半島が小島の水雷艇隊を率ひた弩級艦の形をして居るのを忘れるな！」

と叫んだ事がある。

過去派の人達はすべての因襲を破壞するからとて吾々を非難し、一方にせの將來主義者は吾々が愛國主義を懷き、戰爭を愛するからと云つて、吾々を後戻りをするものだと見做す。吾々は將來に向つて斷乎として歩みながら。爭鬪と血まみれな水浴による日常衞生を續けたいと欲するものだと云ふ事を、誰彼の容赦なく答へる。

吾々は吾々の血の中で、二十世紀のイタリア人の主もな憎惡であるオーストリアに對する憎惡を育てる！　そして吾々は、ニイチエが夢みた歐羅巴人の唯一の典型の、確實ではなくとも可能な創造を、よし非常に遠くはあらうとも將來に期待するものだ。

この哲學者はラテン人種とチェルマン人種を區別する所の到底緩和出來ない生來の嫌惡を理解し得るには、もつと充分に獨逸タイプを嫌はなければならなかつた。」

と云つたが、更らに此の哲學者と未來派との差を論じて、彼は

『――吾々は吾々が主張するオーストリアとの戰爭を待ちながら、飛行家の屈托のない、そして絕えない美しい死より外には、現今地上で何等興味あるものを見出さない。

ブレリオが「進步にはなほ骸が必要だ！」と叫んだのは故ある哉である。』

と高言して居る。

此の年卽ち一九一一年五月二九日ボッチョニイはローマの Circolo Internationale Artistico で未來派の繪畫についての講演をしたが、その大體は本書に譯出されて居る。（「展覽者より公

衆へ」參照）

さて翌月卽ち一九一一年六月首將マリネッツィはマドリイのPrometeo誌に長文のProclama Futurista agli Spagnuoli を書き、未知なる國、未征服の土地、未だ發掘せられざる財寶、未だ文弱に流れない女を求めて、太洋へ太洋へと出でた征服者の子孫であるスペイン人に向つて、古の盛大にもまさる新しきスペインを作る事をすゝめた。それは取りも直さず古のローマの偉大さに壓倒されて居る現今の弱小國イタリアの思ひをそのまゝなのであつた。

卽ちマリネッツィは

「――貴方達、若い人よ、勇ましい人達よ、飛び越して行け！……ぢや何にか有るのか？未だ何の障害が有るのか？……そりや墓場に過ぎないではないか！……かけ足だ！　かけ足だ！……歡喜に滿ちた小學生の一隊のやうに、雀躍りしながらそれを橫切れ！草や十字架や墓を突き飛ばせ！　彼等は笑ふだらう、貴方達の祖先は答ふだらう……彼等の足よりも更に力强い足で踏み蹂られたのを感じて、彼等は狂のやうに喜び、未來派のやうに笑ふだらう。」

と云ひ、かつてローマやベネチアに向つて叫んだと同じ要求をこゝでも繰返した。

この年前述のパリーとロンドンでの講演を主とし、宣言書を附錄として Le Futurisme が出版され、其の本は一九一五年に至つて反オーストリア熱の宣傳用として、增補の上 Guerra sola igiene del mondo として發行された。

前述のスペインに對する宣言から僅か二ケ月を置いた一九一一年九月ツゥリポリの戰爭が初まつた。

未來派の人達が直ちに參戰したのは云ふまでもない事であるが、マリネッツィは喜び勇んで、「世界の唯一の衞生でありたゞ一つの敎育的道德である戰爭のために」と云ふ招集狀を書き、その中で彼は

「――ヘーグの奇妙な裁判所の奥深い穴倉に潜伏む平和論者なる穢らはしい人種が、此からずつと、苦しみ惱むのをよそにして、吾等――二年前から痛風病者や中風患者の非難を物と

もせずに、危險と暴力に對する愛や軍國主義や「世界の唯一の衞生でありたゞ一つの敎育的道德」である戰爭を讃美し來つた未來派は、遂にイタリアのこの偉大な未來派的時間を生き得るのを喜びとする。

近頃吾々は、街路に於て集會に於て、最もはげしい反對者の顏に次の斷乎たる原則を吐きかけながらそいつ達を拳固でなぐりつけて翻筋斗（トンボガヘリ）を打たせた。卽ち

一、箇人も國民もすべての自由を有つ。たゞ怯懦である自由だけは持たない。

二、イタリアと云ふ言葉は自由なる言葉を支配しなければならない。

三、古ローマの偉大さの無味乾燥な記憶は遂に百倍されたイタリアの偉大さで塗消されなければならない。

吾々にとつて最早イタリアは、小島の水雷艇隊をひきいた美しい弩級艦の力強い形としか見えない。國家の好戰的熱誠が遂に吾々の不斷に鼓舞して居るものと合一したのを感じ、吾々は心誇つて、未來派となつたイタリア政府を誘つて海賊的行動の愚にもつかない所罰を輕蔑し、汎イタリア主義の誕生を宣言しながら、すべての國家的野心を擴大するやうにさせる。

イタリア未來派の詩人よ、畫家よ、彫刻家よ、音樂家よ、この戰爭が終るまで詩を、筆を、鑿を、演奏場を捨てろ！　天才の眞赤な休暇が始まつたんだ！……今や吾等は、榴霰彈の猛烈な交響樂（シンフォニー）と靈感を受けたわが砲兵が敵の集團に霰彈もて刻む亂暴な彫刻のほかには、一物の賞讃し得るものを持たない。」

と云つて同志五萬を招集して直ちに戰線に向はせようとした。

かくて一九一一年一二月二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一日に亘つて l'Intransigeant に掲載された有名な一九一一年一〇月二六日の戰爭の記錄は彼の書いた純粹な音樂であつた。

彼は後年になつて Corrispondente di guerra di giornali francesi a Tripoli e all'assedio di Adorianopli と書いて居るが、私の記憶が誤りなければ、彼の云ふのは Gil Blas である。

かく彼はツゥリポリに從軍記者として行きながら、かの有名な Le Monoplan du Pape を書いた。それは彼が曾つてオーストリアの征服に題した文字をすぐに採り來つて A Trieste notre belle Poudrière！と云ふ「捧げの言葉」を附して翌年出版され、大論議をかもしたものである。そしてその本の內容については今是非一言しなければならない。

詩人マリネッツィはその第一編 En volant sur le Cœur de l'Italie の第一行を

ひつぎに似て六方の仕切の有る俺の部屋を怖れる！

地を怖れる！　鳥である俺の脚にとつて忌はしい黐竿の大地を怖れる！

逃げなきやならない！

飛びたいので夢中だ！……俺の飛行器よ！　わが單葉よ！

と云ふ節で始めて居るが、この政治家の詩人は、更らに

俺は太陽を戀し、太陽へと飛ぶ

あけ放たれた窓だ！

今晩、空間へ飛上らうと

家の古ぼけた壁から離れる

飽滿した張出しや

雲を渇望する窓を

誰が阻む事ができよう

植物である俺の二本の脚が
用心深い土地の中から
怖氣の保守主義な液を吸上げなくなつてから
俺は、充ち滿ちた勇氣を恢復したのだ。

と、思想史上、マリネッティが處女詩集 La Conquête des Étoiles 及び Destruction を經、遂いに Nous renions nos maîtres les Symbolistes, derniers amants de la lune に至つた彼の苦しみに結論を與へたが、更らに第二編の Les Conseils du Volcan となると、彼は勇ましくも

俺は
俺の心が、倦まず疲れずに飛ばせて呉れる强大無敵な未來派だ

と叫び、彼の愛する火山に向つて
（マリネッティ）

おゝ火山よ
燐の疣の有る御前の顏を露わせ！
御前の口の筋肉を動かし
御影石で包まれた小石だらけな唇を開いて俺にどなつて呉れ
何が俺の種族に課せられた義務であり
なにが使命であるかを。

——

と云つて居る。しかもその實力もて示される火山の愛に對して、この未來派の力强い巨人は
（マリネッテイ）
萬歲！　萬歲！
おゝ火山よ
吾等征服者の血を吸ふすべての高利貸の上に
俺は御前のやうに火を吐く、御前と一緒に火を吐きかける！

俺が、人間精力の吼え叫ぶ頂の上で

「世界の唯一の衞生なる戰爭を讃美す」と叫んだのは

御前を喜ばす爲めである。

樹穡を傳つて

やがては、星座まで延ぶべき

力強い葛であるイタリアから

寄生蟲なる平和を荒々しくもぎ取つてやるのは

御前を喜ばせたいからである！

と云ひ、國內のすべての平和論者を壓倒してどうしてもオーストリアと戰端を開く事を決心し

更らに第三編の Chez mon père le Volcan に於ては明確に第一行を

俺は了解した。俺の使命を了解した！……

御前の口吻(くちづけ)は俺に命令する

荒々しく立上り

オーストリアに飛びかゝらせる爲めに
　わが半島の山だらけな背骨を
　血もにぢめよとばかり咬みつけと。

と云ふ節で始めて居る。事實彼は、警察や過去派の迫害を物ともせずに。安逸を貪るイタリア人に咬みついて歩く山犬であり、更らに彼は當時未だオーストリア領で、しかも軍港であるツゥリエストに於て反オーストリアの演說をして拘引された程大膽不敵な犀である。しかもその怪獸は空中から見下して

　この黃色い大きな煙
　黃疸の色した襤褸の巨大な縒總(よりふさ)を
　風が引裂き荒々しく音を立てさせる。
　その縒總こそ
　山野を浸す
　銃劍の大海原の波を

煽り立てるオーストリアの旗だ。

と叫ぶ。かくて未來派の詩人は、イタリアの永遠の敵であり、當時未だ不合理にもイタリアの同盟國であるオーストリアを一日も早く擊破しなければならない事を痛感して

……そしてイタリアの大きな肉體目がけて遙か彼方に俺はとぶ。

そのイタリアを俺は起さねばならぬのだ。

立て！　立て！

戰爭は勃發した、戰爭は勃發させられた！

立て！　美しく力強い肉體よ、かじかんだ半島よ！

天頂の下に大きな身體をおこせ！

微塵になつた銀の寢間で

そんな風に眠つて居る何所がうれしいんだ？

發動機よ、わが心よ速さを倍加しろ！

俺達はイタリアの身體中をかけ廻つて

俺のつばさで
たゝき、惱まし、扇がなきやならないのだ。
と斷然たる決心を示して居るが、更らに第六編の Les Moucherons Politiciens では、オーストリアと宣戰すべきか？　或は仲裁人を選んで平和に解決すべきか？　を決する爲めに國會が開かれる。然しこゝに注意すべきは、この小說に於ては普通の假想戰爭小說の如く、何等戰爭が勃發すべき近因のない事である。換言すれば戰爭は唯一の必要であり、而してオーストリアは永遠の敵だと云ふより外に何一つの原因もない。しかしこの何も原因が無いらしい處にラテン人とゲルマン人種との相容れる事の出來ないうらみがあり、そこに未來派を理解する重大な鍵の一つがあるのである。
然し、マリネッツィは、しばしば云つて居るやうに從來の代議士や政治家を輕蔑し切つて居るが、こゝでも
（マリネッツィ）
そら！　そら！……

議會のガラス戸を粉碎する猛烈な礫は明快な言論だ。
何んと君達は答へるのか？
學生達は卽刻に行進しろと强要する！
決心しろ！　戰爭は始められたんだ！
何をぐづぐづ君達は待つてるんだ？
　――
と代議士達に云ふと、學生達は
（學生達）
さあ窓をあけろ、さもなくば露臺に出ろ
議員よ。國家のおいぼれた淫賣婦よ
君達の遊女屋を開け放なせ！……俺達は
議會を補充したいんだ。
俺達は民衆の他の代表者をよせ集めた

その代表者は戰爭についての會議に
參加したがつて居る！

ここには淫賣婦や襤褸を纒つた賤業婦や
親切なお喋(しやべ)りや、前科者や
前(ぜん)人殺や前泥棒や免狀附の乞食や
あらゆる種類の貧乏人が居るんだ
その人達は
いづれにしても貴方がたよりはずつとよく
俺達と同じく政治をする權利を持つてるんだ……

——と云つて居る。

すべての議員はしかたなく、學生達の聲に應じて出て來るので

窓も露臺も議員で一杯だ。
さあ
俺達は靑天井で會議が開ける
——
と書かれて居り、議事が始まるや否や
（人殺が拳固をつき出し、恐ろしい聲で）
俺は極めて自然に
議長となれと選定された！
（社會黨議員が露臺で）
議長は出來た。
オーストリアと吾々の間を
解決させる仲裁人が必要だ！
と云ふ事となり、いろいろな仲裁人が各種の代表者によつて推薦されるが、そのうちに

（辻君）

南京蟲がいゝわ！　あの方こそ私達の仲裁人よ！

南京蟲、あれこそ私達の大好きなお友達！

いくどもいくたびも

私達の逸樂の夜をあれは歌つて呉れましたね！……

あれこそ

臭い洋燈の月光に歌ふ

私達の戀の鶯だわ！……

（全部の人々）

南京蟲が多數で推された！

と云ふ事になつて、南京蟲が仲裁人になりさうなので、社會黨員は少し氣が氣でなく

（社會黨議員）

私に一つの異論を出させて下さい。

結局、もしも
すべての代表者より南京蟲がいゝとおつしやるのなら
貴方がたは
殆んど同じぐらゐによく出來る
一人物をお忘れになつて居るやうです
私達は聖なる法王陛下についてお話したいのです。
未だ血が流されたのではないんですから
ヘーグが申出る仲裁裁判を承諾しようぢや有りませんか？
私達の仲裁人には法王こそ！……
と云ひ出す。で多年國内最大の敵として破壞して了はなければならないと主張する法王を仲裁人にしようと云ふのであるから、マリネッツィはかんしやくを起して
（マリネッツィ）
ぢや法王宮(バツイカン)に探(さが)しに行け！

となり、其の叫びに應じて法王宮は探がされたが

（群集）

もう居ない！……逃げちやつたんだ！……

と云はなければならなかつた。南京蟲がオーストリアの征服には不用で、辻君の戀の伴奏者としてのみ有用なやうに、ローマ法王も未來派の詩人にとつては全然有害無益な而かも卑怯忘恩な寄生蟲にすぎなかつた。そんな騷ぎが限りないので待切れなくなつた未來派の首將は、

（マリネツテイ）

社會主義者よ！　議員よ大臣よ！

共和黨よ保守黨よ！

貴方がたは否でも應でも宣戰するんだ！

さあ！　ぢや默れ！　貴方がたの出る幕は終つたんだ！

だから

驚きの燒鋏で挾まれた貴方がたの心や

雜言の波で餘りに長く震はせられた蔓草の貴方達の舌を休める爲めに
ほら穴の底に身をかくせ！
と叫び、唯一人でも立ち、オーストリアを攻めようとすると、學生達は勇ましく
（學生達）
平和は腐敗させ！
戰爭は癒やす！
戰爭萬歲！　平和なんかくたばれ！
オーストリアの畜生を
吾々の中へ入り込ませろ！
あいつ達が
吾々の祖先の
塵を舐める爲めに
膝をつきたくないと

云ふのなら

吾々の天主閣や美術館を撃つので
彈藥を費ひつくしちやわなきやならないだらう！

と未來派宣言書に刺激された叡智を以て歌ふ。
しかるに否應なしな宣戰と共に一方には第七編 Les Syndicats Pacifistes が始まるが、それもとうとうマリネッツィの力强い實力と明快な言葉に降參させられて

（學生達）

未來派の飛行機に榮光あれ！
戰爭の勞働者に榮譽あれ！

平和論者よくたばれ！　あいつ達はどこへ行つたんだ！　消えちつたのか！

と云ふ學生達の喜びが凱歌とされて了つた。しかしいくらどなつても咬んでも煽いでも、イタリアの眠りは餘りに深く、あまりにだらしないので、第九編 L'Exécrable Sommeil の中で

（マリネッツィ）

――

戰爭だ！　戰爭だ！

この言葉、戰爭と云ふこの言葉が

聞こえるか？

わかるか？

さあ、至極簡單だ、跳ぶべしだ！……

立て！　御前達のガラス窓をひらき大きなバルコニーをあけろ！

戸をあけろ

そして

眠りの牢獄を出て

足なみ勇ましく

奴隷の救濟主なる戰爭に續け！

と書いて居るやうに戰爭はとうとう未來派の欲した通りに始まつて了つた。そして澤山の世に

も美しい戰爭詩のあとで凱歌をあげた結論 La Bataille de Monfalcone ou le Tombeau des Papes の最後を、彼は

俺は身輕で自由で力强い！……

俺は
キリスト教のおもりや
カトリックの重い足枷から
急に解放されたイタリア人だ！……

進めウィンナ目ざして！……進め！
怒り狂ふ大砲の爆音が俺を導く
火災、彼方に、はるか遠く！

わが二隊の軍勢は

あれ狂ふ我軍の探照燈に
暴露せられた
震へる街を
あてもなく扇ぎながら
夜の地平線を
掘るやうにして進んで行く

おゝ敗走するオーストリアの大軍よ
俺は御前が
恐怖から赤い恐怖へ
俺の血管を通つて
恐ろしく早く逃げて行くのを感ずる！……
と云ひ更らに、彼が愛する彼の國民をかへり見て、

俺の心の門へ
飛びかゝる血の波よ
それこそ貴方がただ
それこそ恐怖の色した落人(おちびと)の貴方達だ！……
ぢや死ぬ
血の新らしいスープの下の
わが心の大洋の中に
一緒こたに沈んで了へ！……
さうすれば貴方がた、ガリバルヅィの子等よ
俺が母性の迷ひの
熱で
しつかりと腹の中に
貴方達を抱いてあげるから！

俺は
貴方達の力強い足が
胎内のうつろの路で
轢(きし)るのを感ずるのだ！……

破壞だ！　破壞しなきやならない！……限りなく破壞しなきやならない！……

俺の指の燠(おき)は
端から
すばしこく
燃え、ぴちぴち動き、爆鳴し、煙を吐く！……
俺は顳顬(こめかみ)の上と云はず、咽喉の中と云はず
機械的な

激しい曳火(ひきび)を持つて居て
それがやがて俺の身體の砲彈に
火を
火をつけるんだ！

と歌つて居る。

彼がこの異常な作品を「征服せられたオーストリア」と云ふ文字で結んだのは一九一一年一一月二九日であつたが、翌一九一二年の初春には未來派は先づ、パリー、ロンドン、ベルリンブラセル、ハンブルグ、アムステルダム、ヘーグ、モナコ、ウィンナ、ブタペスト、フランクフルト、ブレスロー、ウィースバーデン、ツィユニス、ドレスデン等を持廻つたボッチョニイの所謂未來派作品の第一の組(セリエ)をひつさげて未來派繪畫の世界化を企て、先づ一九一二年二月ボッチョニイ、カッラ、ルッソロ、セベリニの四名はパリーのベルネイム・デュン畫堂にその作品を並べ、長文の序を添へたカタログの發行や、マリネッツィの Maison des Etudiants 及び展覽會場での

講演によつて、未來派及び未來派の繪畫を說明し、そのカタログで
「而して今や吾々は何等の傲慢なしに、このパリーに於ける未來派繪畫第一回展覽會は、ミケランヂェロから今日までに行はれたイタリア藝術の發表中最も重要なものだと確言し得る」
と云つた。そしてパリーの新聞雜誌は爭つて未來派の是非を論じ、未來派繪畫は新進畫家におびたゞしい影響を與へ、吾々はピカソオにすら未來派のピカソォと稱される時代があつたのを見るのみか、多數の有能の畫家、藝術家はこの驚嘆すべき新興藝術に甚しく感化された。
このセリエは翌月はロンドンの Sakville Gallery で並べられ、一九日には Bechstein Hall で畫の說明を兼ねて未來派の宣傳やマリネッツィの詩の朗讀が行はれ、序のあるカタログが發行され（その一部は本書に譯出されて居る）四月一一日から五月三一日迄はベルリンで第二回展覽會が行はれ、其時 Borchardt のコレクションはこのセリエ中二十四枚を購入した。
ブラッセルに於いては Galleria Giroux で展覽會があり、其所でマリネッツィとボッチョニイは講演をなし、かくて前述のやうな未來派繪畫の世界化は、後年マリネッツィをして
「――世界の繪畫は、私の友達であるボッチョニイ、ルッソロ、バッラが創めた造形的力動主義

に影響された。――ベルリンに於ても、ブラッセルに於ても、パリーに於ても更らにアムステルダムに於ても未來派の繪畫展覽會は引續き開かれた。」

と云はしめて居る。

未來派がロンドンに於て第一回の展覽會を開催して居た一九一二年三月二五日、未來派はラマルツィンの姪の女であり、有名な詩人であるバランツィン・ヴゥ・サンポアン（註、現在吾々は彼女の多數の作物を讀む事が出來る。然し當時でも旣に彼女は Poèmes de la Mer et du Soleil; Poèmes d'Orgueil; Un amour; Un inceste; Une mort; Une Femme et le Désir; L'Orbe pâle; La Soif et les Mirages 等八冊の著書を持つて居た。）の參加によつて單に Azione femminile と未來派が稱した部門を加へ得たのみでなくて、未來派の婦人觀は急な輝きを増し、未來派運動の內容は一人の天才を包含する事で急に倍加した。

卽ちこの日人類の生んだ世にもめでたい女詩人ビリツィス（拙譯「ビリツィスの歌から」を參照下されば幸甚）にも比ぶべきこの女詩人はパリーの Sala Gaveau に於て宣言書を發表した。

即ち彼女は

「吾等世界の唯一の衞生なる戰爭を、軍國主義を、無政府主義者の破壞的行動を、人を殺す所の麗しき觀念を、而して婦人の輕蔑を讃美せんとす。」

と云ふ未來派第九條を冐頭に掲げ、なほもそれを不徹底だとして

「人類は庸劣である。女の大部分は大多數の男に比べて優りも劣りもしない。兩者とも同等であり、二つのものは同一な輕蔑に價する。

まことの人類全體は耕作地であつて、そこから兩性の天才や英雄が迸しり出たのである。然し自然界と同じく、人類に於ても花を開くのに甚だ好都合な季節がある。土地が太陽の熱で燃える人類の夏には天才や英雄が輩出するのである。

今は人類の春未だ淺い時であつて、吾々に缺乏して居るものは太陽の亂費即ちおびたゞしい流血である。」

と書き、人間を外形的な見地のみから男女を分つ事を不合理だとし、人類は内的な意味からの

男女性からなつて居て、天才や英雄はこれ等の男女性の合一し完成したものだと見、
「女に最も缺けて居るもの、そして又同時に男にも一等缺けて居るものは、元氣だ。だからこそ、未來派はその誇張の凡てを以てしても、なほ宜なる哉である。」
と云ひ遂に
「道德や偏見の中に餘りにながく迷つて居た女達よ、貴女達の崇高な本能に、狂暴に、殘酷に歸れ。」
と主張した。

翌月即ち一九一二年四月一一日にはウンベルト・ボッチョニイは Manifesto tecnico della Scultura futurista を發表して居るが、五月一一日にはツゥリポリ戰爭の實感は遂に主將マリネッツィに Manifeste techenique de la littérature futuriste を發表させた。それは
「飛行家の頭で腹をあつくされながら、揮發油のシリンダーに腰かけて、飛行機に乘つて居た時、突然私はホーマーから受繼いだ舊式な文章法の愚にもつかない不甲斐なさを感じたの

である。言葉をばラテンの句切りの牢獄から引づり出して自由にしてやる事は絶對に必要である。勿論ラテンの句切りは凡ての愚劣なものと同じく、一つの慮りある頭と、一つの腹と二つの脛と二つの平らな足を持つては居るが、決して二つの翼を持つ事はないであらう。歩く事は出來る。更にしばしはかけれもするが、すぐにいきを切らして止つてしまふ!……」と云ふ言葉で始めて、文章法の全然な改新を主張したあとで

「吾々は自由な直觀の制限なき領域に入つて來た。自由詩のあとで、吾々は自由語へ來たのだ。」

と聲高々に云ひ切つた。

かくて自由語は、それ以來未來派運動の最大なものの一つとなつた。

此年コッラド・ゴボニは自由詩集 Poesie elettriche を、アルド・パラツェスキは未來派小說 I Codice di Perelà を、マリネッツィは La Battaglia di Triopli, La Bataille de Tripoli を、ルチアノ・フォルゴーレは自由詩集 Il Canto dei Motori を發行し、かくて未來派の陣容

大いにあがつたが、更らに七月一日には、バリッラ・プラテッラはLa distruzione della quadratura を發表し、それを包含する樂符 Musicaa Futurista di Balilla Pratella が發行され、また I Poeti Futuristi の名の下に十人の未來派詩人はその作品を集めた。

この年即ち一九一二年八月一一日有名な「戰爭、重さプラス香ひ」と題する自由語を添へた Supplément au manifeste technique de la Littérature futuriste が發表されたが、こえて一〇月にはアリドリアノープルの包圍に參加して居た主將マリネッツィは有名な自由語 Zang Tumb Tuuum を書終へた。（註、この本の中では前述の「戰爭、重さプラス香ひ」は Battaglia, Peso + Odore と題されて居たが、後ミラノの Istituto Editoriale Italiano から出版された「マリネッツィ詩抄」には Battaglia di Tripoli と題され、內容も少しく變つて居る。）

かくて未來派の過去派に對する鬪爭は最大の表題を得て、今迄の文學のすべての表現樣式を破つて自由語の勝利を得させる爲に、一時オーストリアの征服の聲はあまりきかれなくなつた程であつた。

そして主將マリネッツィは自ら出軍して自由語を宣傳すべく、イタリア內部に於ける何十もの

會のほかに翌一九一三年中だけでも、イタリア以外に於て（イタリア國内は除く）

二月一六日　ベルリン　(Choralion-Saal)
五月二〇日　ロッテルダム　(Rotterdamsche Kunstkring)
同　二二日　デルフト　(Università)
六月二二日　パリー　(Galerie La Boëtie)
一一月八日　同　(Théâtre Antoine)
同　一一日　ブラッセル　(Théâtre de la Gaîté)
同　一三日　同　(Atelier des Peintres Indépendants)
同　一四日　同　(Théâtre de la Gaité)
同　一六日　ロンドン　(Cabaret Club)
同　一七日　同　(Poets Club)
同　一八日　同　(Poetry Bookshop)
同　一九日　同　(Clifford Inn Hall)

同　二〇日　同　（Doré Gallery）

等でマリネッツィ自ら朗讀や講演をし、更に未來派詩人や音樂家や畫家の講演があつた。而して此等の會合のあるものは、後年に至つて未來派を生むに與つて力があつた。

然し未來派運動はこの間でも單に自由語に限られて居たのではない。即ち同年（一九一三年）一月一一日バランツィン・ヴゥ・サンポアンは先づ Manifeste futuriste de la Luxure を發表した。（註、Luxure を私は樂欲とかりに譯して置いたが、適譯を見出し得ない。性交の逸樂とか性的快樂とか云へば、少しは近いかとも思ふ。）

この世にもめでたい女詩人は前年三月の宣言書で

「樂欲は力である。」

と云つた思想を

「ある思想をひやかさんが爲めに、文句を毀損しその一部を捥ぎ取る破廉恥な新聞記者に對し、私が敢て云つた事を心の中で考へて居る人達に對し、樂欲が未だ罪惡に過ぎない人達に

對し、丁度自尊心から虛榮心しか見出し得ないやうに、樂欲から害毒しか見出し得ない人達の凡てに對して私がする答辯」

と銘打つたこの勇しい宣言書に於て、眉目美しく心やさしく才能あり天才豊かな詩人は、性や性交について僅かな表現をする事をも恥ぢて居た婦人の中から、歴史上初めて

「道德觀から離れ、人生の力動の要素として見られた樂欲は一つ力である。

力強き民族にとつては、自尊心が罪惡でないにもまして、樂欲は主要な罪惡ではない。自尊心と同じく、樂欲は人を勵ます所の德義であり、精力を燃やす爐である。

樂欲こそ、自分自らの彼方に投げ飛ばされたものの表現であり、完成された肉の惱ましい喜びであり、開花の娛しい苦痛であり、箇と箇を合一させる秘密の如何に拘らずそれは肉の合一であり、自らの精神のより大なる解放の爲めの箇の感覺的感能的綜合であり、人間の一小部分と大地の凡ての肉慾との交感であり、大地の部分の恐慌的戰慄である。

あたかも腦の働きが精神的探求であるやうに、樂欲は未知なるものの肉的探求である。樂欲こそ物を創造する擧動であり、創造である。

精神が創造するやうに、肉も創造する。其等の創造は、宇宙の前に於ては、平等である。一は他よりも優りはしない。そして精神的創造は肉的創造による。」

と云ひ始め

「藝術と戰爭は肉慾の偉大な表現であり、樂欲は藝術と戰爭との花である。かたよつて精神的な人民又は淫樂一方な人民は、ともに同一な缺陷卽ち不姙を免れ得ない。」

と揚言した。

翌二月にはローマで翌三月はロッテルダムで未來派はボッチョニイの所謂未來派作品の第二の組(セリエ)を並べたが、その三月一九日にはローマのコスタンチ座でバリッラ・プラテッラの未來派音樂が彼自らの指揮で四千人の聽集を前にしてオーケストラで演奏されて大騷擾をおこし、其所で非常な感激を受けた未來派畫家ルイヂ・ルッソロは、その日から一日おいた三月一一日、騷音の藝術を始める爲に L'Arte dei Rumori, Manifesto futurista を發表した。その中でルッソロはマリネッツィが塹壕から寄越した自由語による戰爭の手紙を引用したのみでなくて、內容的には全

然マリネッツィの思想に基いて、音樂の騒音化傾向が機械の發達に伴ふ事を言明し、騒音藝術について今後採らうとする途を表明した。

二ヶ月おいた一九一三年五月一一日、詩人マリネッツィが L'Imagination sans Fils et les Mots en Liberté と題する長文の宣言書を發表したが、その中で彼は

「教師達の馬鹿げた定義が何うだらうが、それを私は知らうともしないが、私は貴方達に云はう、リリズムは生命に醉ひ又生命を吾々自身で醉はせる世にもまれな機能であり、吾々をかこみ吾等をよぎる所の生命の濁水を酒に變へる機能であり、吾々の移り行く自我の特別な色で世界を彩る機能であると。だからかゝるリリックな才能を授かつて或るお友達が、革命や戰爭や難船や地震のやうな生命の殊に激しく燃へる地帶に居て、そのすぐあとで印象を語らうとした場合を想像して御覽なさい。」

と云つて自由語を說明し出した。

丁度音樂に於てもルッソロの騒音藝術が戰爭の一つのよりよい表現樣式であるやうに、未來派

文學に於ても、彼等が經驗した戰爭の實感も、彼等が日夜願望する所のオーストリアの征服も汎獨逸主義の壞滅も、從來の表現樣式では到底滿足に表し得ないのは當然であつて、自由語の誕生後なればこそ、伊土戰爭や今次の世界大戰が、從來其の類を見なかつた程壯大なオーケストラ的文學を生んだのは、吾等公平な第三者も、當然認めなければならない事と思ふ。そして翌六月二九日には立體派の美學者であり、すぐれた詩人であるギーヨーム・アポリネイルは L'Antitradition futuriste と題する宣言書を發し、未來派に大きな共鳴を示し、自由語による詩を書き始めた。

かくの如く自由語がフランスの若い人達に共鳴を得た以上に、後年歐洲大戰が勃發した時、アポリネイル初め澤山の若いフランスの藝術家は Lieutenant Français d'Infanterie en Campagne だとか、Soldat en Campagne だとか Soldat aux tranchées とかいろいろと銘打つて署名した自由詩や自由語や其の他の作品を發表したのは、一部分好戰詩人マリネッティの思想により、一部分アポリネイルの未來派に對する共鳴に源を發したものとも考へ得るが、アポリネイルのこの共鳴には、アンドレ・ビッリイが共著 Apollinaire vivant の中で

「貴方は喜びが好きでした。そして他人の喜びを見ただけでは貴方には滿足出來ませんでした。貴方はいつでもそれに參加しようとしました。」

と云つたやうな、アポリネイルの實に氣持いゝ性質も幾分混つて居る事は疑をいれない。

この六月二〇日から七月一六日に亙つて、畫家であり彫刻家であるボッチョニイはパリーのボエツィ畫堂で「作品（イシエメ）」を並べ、畫論を發表し、翌八月一日にはラチェルバでIl Dinamismo futurista e la Pittura francese を發表し、ルッソロは La Peinture des Sons, Bruits et Odeurs と題する宣言書を發表したが、マリネッツィは一一月二一日のデイリー・メイルで宣言書 Le Music-Hall を發表した。

しかし大體に云へば一〇月一一日に Programma Politico-Futurista を發表したのと一二月五日ローマ未來派畫堂の盛大なる開堂式や、一〇日のピサのロッシ座及び一一日のフィレンツェのスケーツィング倶樂部での未來派文學の宣傳及び翌一二日フィレンツェのヴェルヅイ座での好戰論（後にラチェルバ誌に轉載）を主な出來事として一九一三年を送つたが、翌一九一四年は先づ一

月一一日マリネッツィの A bas le Tango et Parsifal！ と題する宣言書の發表で口火を切られ、一九日から二一日まで三日に亘つてボロニアの大學ではマリネッツィの講演があつた。

その二月マリネッツィは長驅してロシアに未來派宣傳に行つた。彼は後年その事を記して

「私は豫期もして居なかつた程澤山の未來派の讃美者によつて王者の如くモスコオ停車場に迎へられた。モスコオ及びペトログラードでは八回の講演會が催された。この兩市のあらゆる飾り窓には二つのマリネッツィを表はした寫眞や戲畫が掲げられた。即ち一つはイタリアでトマトをぶつけられて居る圖で、も一つはロシアで心臟の奇妙な果樹園の攻擊にあつて居る所が描いてあつた。」

と記して居る。

この戲畫の據り所は、若し私の記憶にして誤りなければ、ナポリのメルカデンテ座での未來派の夜の會合の時の光景ではあるまいかと思ふ。即ちその會合の記事には

「馬鈴薯や腐つた果實をたとえに引いて話して居ると、突然私を目當てに蜜柑をぶつけた人

があつたので、すばやく私はそれを受取り、從容として皮をむき、食べ始めたのである」と記されて居る。(註、私はある外國人からマリネッツィのロシア行に際會した實驗談としていろいろ未來派詩人の偉大さを實證する逸話を聞いたが、餘りに話が上手に出來て居るので、この研究には納めなかつた。)

翌三月一一日主將マリネッツィは宣言書 La Splendeur géométrique et mécanique et la Sensibilité numerique を發表して未來派文學の表現様式を摘記し說明し、更に未來派感覺なるものに說き及んだ。

此の年マリネッツィの Zang Tumb Tuuum やボッチョニイの Pittura Scultura Futuriste やロンギの Scultura Futurista Boccioni 其の他の未來派の著書や作物が發表され、現代のイタリアが生んだ天才の一人であるヂョバンニ・パピーニが Antifilosofia なる部門を受持つなど、未來派は段々と其の勢力範圍を擴大して行つたが、遂に三月二九日にはローマの未來派畫堂で第一回の Declamazione dinamica e sinottica がマリネッツィやカンヂュルロ其の他の未來

派の人々によつて行はれた。

かくて其後益々盛んになつて行つた綜合劇の活躍に於ては、勿論プラテッラが主として音樂を受持ち、バッラ、フォルゴーレ、カンヂュルロ等がローマで、パピーニ、ソフィッツィ等がフィレンツェで活動したなどと云ふ事情はあつたが、彼等はみなマリネッツィ、ブルノ・コッラ、マリオ・カルリ、パオロ・ブッヂ、ボッチョニイなどと共にイタリア全國に於ける綜合劇の勝利に參加した。

第二回の Declamazione dinamica e sinottica がロンドンのドーレ畫堂で開かれたのは一九一四年四月二八日の事であつたが、同所では六月になると畫家ボッチョニイ、カッラ、ルッソロ、バッラ、セベリニ、ソフィッツィの展覽會が催され、同月一一日マリネッツィ及びネビンスンの署名を帶びた宣言書（後出）が共の畫堂でもケンブリッヂ大學でも朗讀された。マリネッツィがネビンスンを未來派に數へたのは未來派がいかに感覺及び物象に重きを置いて居るかを示すものであるのは勿論であるが、ネビンスンに與へた未來派詩人の好戰的態度の影響が、後にネビンスンをして一時有名な戰爭畫家たらしめたとも考へ得ると思ふ。

事實ネビンスンに與へた未來派の效果は甚しく皮相的であつたと同じやうに一時的なもの

て、彼が未來派の影響の下にあつた時にこそ、少しは批評家の賞讃に値するものも描いたが、彼はその影響から自由になると、忽ち凡庸の畫家となつて了つた。(註、彼については斷片的な研究は澤山あるが、まとまつた物としてはフランク・ルッターのSome Contemporary Artistsの公平にして妥當なのに據られたい。)

さてかくの如く未來派運動からオーストリアの征服が餘り主張されずに、純粹な藝術運動が主とされ來つた時、突如としてこの月の二八日オーストリアの皇儲フランソア・フェルヅィナンドは、敵愾心と復讐の念に燃えて居たセルビアの青年の手でボスニアの首府サラエヴォ市で暗殺された。(オーストリアは一九〇八年不當にもボスニアを奪取したのである。)

曾つてツゥレンテ及びツゥリエストをオーストリアに奪略されたイタリアが、更にオーストリアの征服を最大の信條として主張し來つた未來派が、この暗殺に共鳴したのは當然である。

然るにオーストリア政府は七月五日ポッダムに於いて獨逸政府の當局と協議し、同月二三日にはセルビアに最後通牒を發した。

セルビアは佛露の意見に從ひ、その最後通牒を大體承諾したが、オーストリアは獨逸の尻押しと强要の爲めに遂に二八日セルビアに宣戰した。

翌八月一日にはフランスの總動員があり、ドイツはロシアに宣戰し、且つルクサンブルグを不當にも占領し、二日には何等宣戰の布告なしにフランスに侵入し、ベルギーに最後通牒を送り、翌三日にはベルギー及びフランスに宣戰した。(註、この節の材料はフランス語で書かれたものに據つたから、他日公平な世界大戰史の出るを待つて訂正すべき所は訂正したいと思ふ。)

かくて戰爭は遂に始まつた。

マリネッツィの心臟が激しく激しくプラテッラのオーケストラよりも更に激しく鳴つたのは云ふ迄もない。それが同日(八月三日)マリネッツィとルッソロは Battaglione Lombardo Volontari ciclisti に志願し入營した。

しかし彼の永遠の敵であるゲルマン人は、多年計畫し計算した策戰の下に、永世中立國のベルギーを不當にもふみにじつた。

マリネッツィの心はいかりに燃えた。

幸にして、ベルアーランを生んだ勇ましい民族、ベルアーラン自らの言葉を使へば

「頭腦は齒よりも更に固く、更に烈しく、更に暴食である民族」

は中風患者ではなかつた。かくて悲慘な歷史は一つの悲壯美を加へた。

氣の弱い自分は開戰當初の獨逸の狂暴に對して筆を費す事をおそれる。然しかつて普佛戰爭の際「パリーに處女なし」と云ふ言葉を生ましめるやうにしたドイツ人は、今やまた、非戰論の爲めに祖國を追はれたロマン・ローラン、爭の上にあれと叫んだローランをさへ怒りに燃えしめた狂暴と文化の破壞を續けて、マーテルランクを生み、マリネッツィが愛し尊敬したベルアーランを生んだ美しい商業と工業の國家ベルギーを、ふみにじつた。

マリネッツィは居ても立つても居られなくなつた。

だから八月一二日に書いた手紙の中でマリネッツィは

「イタリアの空氣を導いて戰爭の準備をさせる目的でソフィッチと協力して、ラチェルバ誌を政事新聞に變へる爲めにフィレンツェに來ました。」

と書いた。

しかし今自分はフランス側の發表を基として所謂獨逸の狂暴のあとをたどりたくもないし、戰爭文學の敵慨心に共鳴して快哉を叫ばうとも思はない。たゞ自分は讀者とマリネッティと共に、ベルギーのマーテルランクが祖國のアルベール王をほめた言葉を、じつと拳こそ握りしめながらも涙を一杯ためて聞きたいと思ふ。

即ちマーテルランクは

「然し彼の今迄の苦しみや今の打續く苦惱は、この英雄を身親しく見た事のある人のみが了解し得るのである。此英雄こそ人間のうちで最も鋭感な最もしとやかな、愼しみ深い、默り勝ちな、心の中でのみ興奮し振へる、氣持のいい冷靜な內氣者であり、子供達を愛するお父さんよりはどつちかと云へば愛し敬ふお母さんを愛する子供のやうに彼の人民を愛する人である。この懷しい王國と、彼の誇りと喜びと、幸福の家と、信賴と愛の家庭の中で、今やいくつかの町が敵手にかからないだけで、その町々さへも、今まで地上で行はれたうちで一等穢らはしい侵入者から絕間なく脅されて居るのである。その僅かな町以外のすべての所、即ちかくも愛らしくかくも美しく、かくもほほゑみ、かくも靜かな、かくも幸多く平安に生き

べての所、即ち平和の冠の寶石であり、正しく明るい家庭生活の典型であり、誠實な表裏のない活力や心を爽やかにする始終ほほゑんだ柔和や、巧言のない厚遇や、始終出されて居る手や、常に開かれて居る心などの住家である凡ての所は、みんな死んで了つて跡痛ましく、この世の中でいとも美しかつた柔かな綠草敷く廣野さへも、恐怖の野と化して了つたのである。人類の最高な又最も心を動かす寶は破壞された。過去のしるしは消え失せて了つて、何物と雖どもそれに替はる事は出來ない。古からの飾らない習慣や、つつましやかな家庭に愛着して居る人民の一つであるこの國民は今やヨーロッパの街路を流離ひ、幾千もの無辜の民は虐殺され、生き殘つた人達は殆んど一人殘らず艱苦と餓のえぢきとなつて居る。然し生き殘つた人はその心を王の偉大な心に避難させて、たゞ一つのつぶやきもたゞ一言の批難さへも出さない。昨日、人口三萬の町は、今迄工業榮え、心はやさしく、人生が流れる水のやうに順潮に進んで來た白い家を、寺院を、數世紀の歷史ある場所を後にしろとの命令を受けた。三萬の女子供や老人達はあてもない隱れ場を求めに、危險の度は今出て來た自分達の町にも劣らない近隣の町へと、夜中に逃げた。而も其の近隣の町は、恐らく明日は我が身の上にな

つて何所とも知らず逃げて行かなければならなくなるであらう。何故と云ふのに祖國は敵がすぐに國境に達して了ふやうに小さく、さうすれば唯一つの身の寄せ場もないのである。然しかまふものか、國民は默々としてその元首に從ひ、みな彼を稱揚し、祝福する。」と書いて居る。

マリネッツィは直ちに、イタリアは卽刻聯合國に加擔して立ち、永遠の敵であるオーストリアとドイツとを降服させなければならない事を主張した。然るにドイツは毎日毎日聯合軍を敗つては進んだ。彼がかくも深く愛し詩集「破壞」を捧げたパリーの街から、フランス政府は逃れて政廳をボルドーに移した。マリネッツィが怒りに燃えてたまらなくなつて居ると、この月の二三日、日本はドイツに宣戰し、一日おいた二五日にはオーストリアは日本の宣戰に報いて居る。

とやかうするうちに、開戰の次の月卽ち九月六日から一二日に亘つて所謂マルヌの大戰として有名な戰爭があつた。この戰爭によつてのみ、フランスはその正義と自由と平等の美しい祖國を救つたので、マリネッツィは有名な「マルヌの戰後ヂョッフルが自動車で戰線を訪ねた」と云ふ

自由語を書いた程喜びに滿ちてをどつた。

マルヌの役のすぐあとで九月一四日マリネッツィは友達の一人に「私はモンテカツィニに於て未來派の夜の會合を催す計畫を引受けた。その會は藝術的文學的のプログラムを持つて居るのであるが、政治家達のその最も重大な公衆を前にして、吾々はその會を中立反對の亂暴な示威運動に變へて了ふでせう。」と書いた。

即ちイタリアに於ける最初の反中立示威運動はその翌日行はれた。

ダル・ヴェルメの夜の會合に於てマリネッツィは三色旗を持出すと、一方からボッチョニイは黃黑旗を持出して、それをずたずたにさいて公衆に投げつけた。

かくて警官の干涉裡に未來派はうむ事を知らない青年の元氣で、オーストリアの征服を高唱した。

前進だ！　前進だ！

翌九月一六日他の更に狂暴な示威運動がミラノのピアッツァ・デル・ヅゥオモ及びガレリアに於

て、マリネッツィ、ボッチョニイ、ピアッツィ達によつて行はれ、八本のオーストリアの國旗は燒かれ、未來派の人達は五日間拘留され、街は戰場と化した。

後年マリネッツィはこの事について

「――マルヌの役のあつた時に、私はボッチョニイとルッソロと一緒に第一回の反オーストリアの示威運動をした。その御蔭で私はサン・ビットーレの牢獄に五日つながれた。ローマでも又拘引された。其の後は毎晩毎晩私達は中立論者と戰つた。」

と書き、また

「――イタリアの未來派はイタリアが中立を保つて居た一九一四年九月一五日にミラノに於てオーストリアに反對する二回の最初の示威運動をした事を誇りとする。

この二回の示威運動は激げしい騷ぎと大きな反響をおこした。此の騷擾のさなかに未來派の人達は八本のオーストリア旗を燒きサン・ビットーレの牢獄につながれた。」

と書いて居る。この二つの引證中、前者は私に書いて送つて呉れたマリネッツィの自傳から、後者は戰後發表された Le Futurisme avant, pendant, après la guerre と題する一頁の短

かい宣言書（後出）から採られたが、マリネッツィのかいたもの、殊に後者には前述の引證文以外に時によると歴史上の誤謬があるので、私は自分の歴史の方が正しいと云ふ信念だけはある。

しかし、幸にして私達はもつと正確なもつと完全な記録を持つて居る。即ち一九一九年にマリネッツィが自由語で書いた爆發小説 8 Anime in una bomba の第七の心の中に於て彼は其の時の事を語つて居る。自由語を飜譯する事は出來ないし、單に概念を傳へるにはこの爆發小説の表現様式は餘りにもつたいないので、私は寧ろ讀者にこれをオーケストラ的效果の喜びを分ちたい。

即ちマリネッツィは

Fra un incendio d'arte e un incendio politico mi piace dar fuoco a gonne eleganti.

Entro con Boccioni e Armando Mazza nell'officina di Russolo. Giallo verde rosso rosa affastellamento d'intonarumori futuristi.

Ronzare scoppiare ululare fischiare.

L'inventore sorveglia la cottura d'una pelle rumorista.

—Alt ! Pianta gli acidi e i motori ! Questa sera faremo una violentissima dimostrazione contro l'Austria !

Teaaro Dal Verme rigurgitante. Ripresa della "Fanciulla del West." Formicolante mercato delle voci italiane. Palchi gallerie loggione scatenano 6000 mani applaudenti che sembrano 3000 becchi agitatissimi di oche selvaggie. Forbiciano la musica di Puccini : strascichi arpeggiati, lasagne scondinzolanti nervi isterici violinati e zuccheri-filati rosa.

Il primo atto è finito. Alla ribalta oscilla la ghirlanda cretina dei cantanti che domandano applausi con sorrisi da mendicanti.

Nel fondo del palco la pancia di Mazza partorisce una bandiera tricolore di 8

metri quadrati. L'attacchiamo all'a sta di 2 bastoni legati. Mi sporgo agitandola:

Abbassoooo l'Austriaaaa !……

Da un altro palco si sporge Boccioni con una bandiera austriaca. Un futurista la brucia. Un lembo vampante cade sulla crema dei décolletés in poltrona.

Urloooooo. Gesticalazione. Gorgo. Risacca. 200 500 600 facce inebetite. Basta!… …Fuori!……Sono i futuristi!……Viva Marinetti!……Abbasso Marinetti…… Bene!……Fuori!……Bravi!……Bbbassooo l'Austriaaa!……Imbecilli ……Pazzi! Pazzi!……Vigliacchi!……Silenzio!……(Puccini illuso si precipita alla ribalta).

No! No! No! Vogliamo la Marcia Reale!……Abbasso Puccini!……

Intanto Mazza col solo braccio destro teso tiene chiusa la porta trasparente del palco che 4 carabinieri + 2 delegati + 3 inservienti tentano disperatamente di aprire.

Io urloooo: "Abbasso l'Austria!……" 600 volte col ritmo e la voce di un

cannone da montagna.

と書き、更らにより激しい反オーストリアの示威運動も自由語によつて書かれて居る。

しかし拘留によつて自由を奪はれたとて、マリネッツィ達の熱情はかれるものではない。

即ちミラノの獄中からマリネッツィ、ボッチョニイ、カッラ、ルッソロ、ピアッツィの署名で Sintesi futurista della Guerra が發せられた。

其月二九日にはマリネッツィは長文の宣言書を出して學生達に向つて「クローチェ、デ・ロリス、バルツェロッツィ等を首領とする獨逸文化に對する反對」をすゝめた。(註、未來派のエミリオ・セッツィメルリには La Critica di B. Croce の著もあり、著書 Marinetti の第五編には Benedetto Croce il più antipatico denigratore di Marinetti の節があり著書 Inchiesta sulla Vitta Italiana には Futurismo e Crocismo の節がある。ついて見られたい。)

かくて一二月一日から二〇日迄ローマ大學に於ては「獨逸の教授に對する生徒の反逆」と云はれた騷動がマリネッツィとカンヂュルロの後援の下におこり、バッラは三色の反中立服を創り、カンヂュルロは其れを着たりして、百方オーストリアの征服の示威運動をするの外なほ、マリネッ

ツィはファエンツェ及びラベンナに於て中立反對の演舌をした。
この年マリネッツィはオーストリアの征服の豫言書「ローマ法王の飛行機」を「二年前パリーに於てフランス語で發行、今日一九一四年(宣傳の爲め)譯す」と銘打つてイタリア譯を發行した。

翌一九一五年が來た。
然し未來派の祖國は、マリネッツィの所謂オーストリアやドイツと依然として中立の名にかくれて曖昧な關係を維持して居た。しかもドイツの當局はイタリアとオーストリアの反感を融和させて、等しくラテン人種なるフランス人を裏切らせようと、イタリアを誘つてやまない。
そこで主將マリネッツィは、かつて「ローマ法王の飛行機」の中でもマリネッツィに從つてオーストリアを攻めた所の勇敢なるイタリアの學生に向つて一九一五年一月一一日ミラノから自由語による宣言書を發した。
不可能を冐し、大意譯を左に掲げる。
「——昨日までの平和論者は今日は幸にも好戰的になつて、ドイツ及びオーストリアと闘ひ

ながら、戰爭を野蠻の遺物と見做して殺して了ひたいと望んで居る。然し戰爭は死ぬことは出來ない。何故なれば戰爭こそ生命の法則であるからである。生命イコール攻擊であり、一般的平和イコール諸民族の老衰及び苦惱であり、戰爭イコール人民の力の必要且つ血まだらな證券(コルラウド)である。非聰明な愚鈍(ペコラドネ)や、衒學的及び教師的愚昧(バロールダデネ)や、いつも附纏ふ教養や、剽竊や、あくの抜けない傲慢や、組織的な間諜や、警察的愚劣等が生んだ事實であるチユートニックな過去主義こそ、殺さなければならぬものであり、また死んで了ふべきものである。吾等未來派は常に戰爭を藝術の唯一の靈感とし、唯一の純化道德とし、人間の糊の唯一の酵母と見做し來つた。實(げ)にたゞ戰爭のみが人間の睿智を改新し、速くさせ、とがらせ、神經を輕快にし、吾等から日常生活の重荷を取除き、生命にさまざまな味(あぢ)を與へ、愚劣なものに天分を附與し得るのである。戰爭こそ、吾等が生きんとする新しい飛行機的生活の深度の唯一の調節器である。

貧乏な、そして人口多産な國家にとつては、戰爭は、有り餘つた血で足りない土地を買ふ一つの商賣である。之れに反して、富んだ國民の權力を持つた支配階級は、自分達が大きな

富を得るのが、戰爭の目的となつて居るのではない事を了解して居る。戰前のロンドンやパリーの夜の動搖こそ目にも憐れなものであつた。あでやかな微笑や美しい寶玉で身を裝り、ぜいたく極まるご馳走をつめこんだ大金持の女達を滿載してすばらしく早く走つて行くリムージン型自動車の屋根に、空威張してよぢ登つて居る若い貴族達のあつぱれな英雄振りこそ見られた態ではない！　女や車や三鞭酒や遊戲や乘馬のやうな退屈な浪費では最早飽き足らなくなつたので、彼等は無意識のうちに集合的英雄主義の引續く危險の爆裂的な又人を高め得る偉大な雰圍氣を祈り求める。その偉大な雰圍氣こそ人間の神經を養ひ完全にし得る唯一のものである。

氣にもとめずに、藝術や愛や政事をおもちやにしたあげく、彼等は祖國の力を增大させる爲には、戰爭の決定的な大きな遊戲の中に、すべてを唯一打ちに危險に陷し入れるのが必要だと云ふ事を感じだ。祖國イコール自己の倍加プラス自己の擴大である。イタリアの愛國主義イコール「全イタリア及び明日の全イタリア人を自己のうちに包含し又自己のうちに感ずる事」である。

戰爭はすべての敵、卽ち敎師や、哲學者や、考古學者や、批評家や、おきまりの敎養や、ギリシヤやラテンや、歷史や、老耄主義や、美術館や、圖書館や、外國人の企業などの權威を破つて了ふだらう。戰爭は力技や、スポーツや、農工商と實際的な學校を發展させるだらう。戰爭はイタリアを若返らせ、イタリアの事業家をふやし、イタリアを最早、過去や廢墟や温和な氣候によつて生きさせずに自らの國家的活力によつてのみ生きさせるやうに强要するであらう。

今や從來にも增してイタリアなる言葉は自由なる言葉を支配しなければならない、卑劣である自由を除く、すべての自由。國民間に於けるすべての進步。古のローマの榮光を更らに偉大なイタリアの榮光で塗り消さうではないか。だからゲルマンの敎養と戰はうではないか。それは決してラテンの敎養を防ぐ爲めではなく、今日のイタリアの創造的精神を防禦する爲めに同じやうに有害なラテン及びゲルマンの敎養全部と鬪はうではないか。モンセン及びベネデット・クローチェに對して吾々はイタリアの Scugnizzo をひつさげて抗論する。多少なりとも戰爭について考をかへた平和論者や、反軍國主義者や、國際論者とはいづれ後になつた

ら話をしようが、それは今ではない。論議なんか駄目だ！　一致して、一塊りとなつてオーストリアに！　吾々の衛生的大戰はサラウンツウラの手中にあるのではなくて貴方達の手にあるのである。貴方達はそれを望まれるか、それならば吾々がそれをしよう。先づ貴方達は第一に、吾々が非難した學問のあるミイラの中立論者を大學から一掃して了へ。」

と叫んだ。

かくてマリネッツィ、ボッチョニイ、ルッソロ、アルマンド・マッツァはミラノに於ける反中立運動を指揮し、マリネッツィ、カンヂュルロ、ヤンネルリ、バッラ、デペロはローマに於ける指揮者であつたが、二月にはマリネッツィ、ブルノ・コッラ、セッツィメルリはイタリアの十二の劇場に於て十二回の未來派綜合劇を演出し、その凡ての機會に於て未來派はオーストリアの征服を高唱する事を忘れなかつた。

それでマリネッツィ、カンヂュルロ、デペロ、ヤンネルリ、バッラ、アウロ・ダルバはローマに於て二月一九日拘引され、マリネッツィ、ベニト・ムッソリニ（今の首相）、ブルノ・コッラ、セッツィメル

リは四月一二日またローマに於て拘引された。

一方カッラの著 Guerra-pittura 及び「イタリアの狙撃兵へ」と云ふ捧げの言葉を卷頭につけたアウロ・ダルバの詩集 Baionette 及びパオロ・ブッヂの「フィルム　プラス　自由語」と題した L'Ellisse e la Spirale 等の著書が出版され、マリネッツィは『五年前パリーに於てフランス語で發行され、今日一九一五年(宣傳の爲めに)譯す』と銘打つて Guerra sola igiene del mondo を出版した。

かくの如く未來派の最大な目的であるオーストリアの征服は一九一五年に於ても一九一四年の後半に於ても殆んど唯一の目的と化した觀があつたが、遂に遂に遂に、ドイツのビューローi公の斡旋にも係らずイタリアは——未來派の祖國であり美しい弩級艦の形したイタリアは——一九一五年四月マリネッツィが多年不斷に主張し來つたやうに三國同盟を破棄し、五月二三日總動員をした。

前進！
前進！
青年にとつては常に前進があるのみだ！

さればイタリアは
一九一五年五月二三日　　　　對墺洪宣戰
同　　　八月二〇日　　　　對土宣戰
同　　一〇月一九日　　　　對勃牙利宣戰
一九一六年八月二八日　　　　對獨宣戰
を公布したのである。

かくて未來派は六ヶ年の長きに亘つてあらゆる過去派や官憲の壓迫や、公衆の惡罵嘲笑を忍び、あらゆる世界主義者や、平和論者や、政事家や、過去派藝術家や、過去派敎師や、中風患

者や、奴隷達と論爭し力鬪し來つた後で、遂に、彼等の愛する祖國をして彼等の主張に從はしめ得たのである。

かくて彼等が常にその怯懦と無氣力とを攻擊し來つたダンヌンチオは今や猛然として未來派の定理を肯定し、オルランド大臣は、未來派が旣にツゥリポリ戰爭以後不斷に主張し來り、且つ又未來派の主要な宣言の一つである

「イタリアなる言葉は自由なる言葉を支配しなければならない」

と云ふ言葉を借り來つてその演說を結んだのである。（完）

SINTESI FUTURISTA DELLA GUERRA

Glorifichiamo la Guerra, che per noi è la sola igiene del mondo (*1° Manifesto del Futurismo*), mentre per i Tedeschi rappresenta una grassa spanciata da corvi e da iene. Le vecchie cattedrali non c'interessano; ma neghiamo alla Germania medioevale, plagiaria, balorda e priva di genio creatore il diritto futurista di distruggere opere d'arte. Questo diritto appartiene soltanto al Genio creatore italiano, capace di creare una nuova bellezza più grande sulle rovine della bellezza antica.

ELASTICITÀ
SINTESI INTUIZIONE
INVENZIONE
MOLTIPLICAZIONE
DI FORZE
ORDINE INVISIBILE
GENIO CREATORE

CONTRO

RIGIDEZZA
ANALISI
PLAGIO METODICO
ADDIZIONE
DI CRETINERIE
ORDINE NUMISMATICO
CULTURA TEDESCA

SERBIA: INDIPENDENZA, AMBIZIONE, TEMERITÀ

BELGIO: ENERGIA, VOLONTÀ, INIZIATIVA, PERFEZIONE INDUSTRIALE

FRANCIA: INTELLIGENZA, CORAGGIO, VELOCITÀ, ELEGANZA, SPONTANEITÀ, ESPLOSIVITÀ, DISINVOLTURA

RUSSIA: POTENZA, SOLIDITÀ, INESPUGNABILITÀ, QUANTITÀ

INGHILTERRA: SPIRITO PRATICO, SENSO DEL DOVERE, ONESTÀ COMMERCIALE, RISPETTO DELL'INDIVIDUALITÀ

MONTENEGRO: INDIPENDENZA, AMBIZIONE, TEMERITÀ

GIAPPONE: AGILITÀ, PROGRESSO, RISOLUTEZZA

ITALIA: TUTTE LE FORZE, TUTTE LE DEBOLEZZE DEL GENIO

GERMANIA: PECORAGGINE — GOFFAGGINE — FILOSOFUMO — PESANTEZZA — ROZZEZZA — BRUTALITÀ — SPIONAGGIO — PEDANTISMO PROFESSIONALE — ARCHEOLOGIA — COSTIPAZIONE DI CAMELOTS INDUSTRIALE — SCOCCIATORI e GAFFEURS

FUTURISMO CONTRO PASSATISMO

8 POPOLI-POETI CONTRO I LORO CRITICI PEDANTI

CONTRO

AUSTRIA: CRETINERIA — SUDICIUME — FEROCIA — BALORDAGGINE POLIZIESCA — SANGUE RAGGRUMATO — FORCA — SPIONAGGIO — BIGOTTISMO — PAPALISMO — INQUISIZIONE — PERQUISIZIONE — CIMICI — PRETI

TURCHIA = 0

MARINETTI
BOCCIONI
CARRA'
RUSSOLO
PIATTI

Dal Cellulare di Milano, *20 Settembre 1914*.

DIREZIONE DEL MOVIMENTO FUTURISTA : Corso Venezia, 61 - MILANO

未來派劇

未來派劇

一

今度の歐州大戰によつて、未來派はその最大な目的であり同時に最も强い願望であつた「ドイツ及びオーストリアの征服」を實現した、從つて歐州大戰後に於ては、未來派は主として全世界に亘る藝術運動に力を注ぎ、その壯大な未來派藝術の一部門として戰前よりも遙かに盛大となつたものに、未來派劇なるものがある。左記は最小限に簡單なその紹介である。

今日我國の餘りにくだらない演劇界の實狀に對して、この短い紹介がいくらかの刺戟であれば幸である。

たゞ一體未來派劇を紹介するのには二つの區別によるのが便利で、一は主として單純な表現樣式乃至素材の問題にすぎないもの、例へば未來派の飛行家アザリの「未來派空中劇」やマリネッティ、カンヂュルロ等の「未來派舞踏」のやうなもので、他は劇そのものに對する革命的色

彩を帶びたものであつて「未來派綜合劇」「未來派驚愕劇」等はこれに屬する。今私がしたいのは後者の紹介である。

二

一九〇九年二月二〇日のル・フィガロで發表された未來派宣言書の思想が、そのまゝ文學の表現樣式に及ぼされた時「未來派の自由語」が從來の自由詩に代つたやうに、「未來派の自由語」がそのまゝ劇に適用された時まづ生れ始めたのが「綜合劇」であつた。

私は今こゝで頭の惡い衒學をやめて、主將マリネッティの作品それ自身に物語らせよう。

未來派綜合劇

「同　存」　（マリネッティ作交錯）

客間。右手の壁は大きな書架ですつかり覆はれて居る。——左手に近く大きなテーブルが一脚。——左手の壁に沿つて、中產階級向きの質素な家具があり、戶がある。——正面に窓があり、窓越しに雪の降るのが見え、階段の方に開く戶が附いて居る。

テーブルをかこんで、弱い綠がかつた光を出す反射蓋付釣ランプの下で、中產階級の家族が腰かけて居る。即ち母親は縫物をし、父親は新聞を讀み、十七の男の子は宿題をし、十一の子も亦學校の宿題をし、十六の女の子は縫物をして居る。

書架のすぐ前に、鏡と枝付燭臺のある磨き立つた素敵に立派な化粧臺が有り、その上には非常におしやれな女が使ふ凡ての小壜と凡ての小道具が載せてある。電燈の甚だ强い光線が化粧臺一杯に照り輝き、その前には贅澤な打掛（譯者註、髮を梳る時に使ふ婦人の肩掛の一種）にくるまつた金髮の非常に美しい若い娼婦が居て、髮を櫛り顏や腕や手の仕上げに夢中になつて居ると、そばには申し分の無い小間使が立つて居て、注意深くそれを手傳つて居る。

中產階級の家族はこの光景を見ない。

母親。（父親に）お勘定を調べになりますか？

父親。ぢきに始めるよ。（また讀み續ける。）

沈默。各人はめいめいの仕事に餘念ない。

――娼婦は家族のものには見つからないで身だしなみを續ける。――小間使は、ベルが輕く

鳴つたのを聞いたかのやうに、正面にある戸の方へ行き、小使を通す。――小使は娼婦に近づき、花束と手紙を渡す。――娼婦は花の香を嗅ぎ、化粧臺の上に置き、手紙を讀む。――小使は非常に恭々しく御辭儀をしてから立去る。

すこしたつてから長男が立上り、誰も居ないかのやうに化粧臺のすぐそばを通つて書架の方へ行き、本を取り出し、また客間を横切つて元の席に歸り、書き始める。

長男。（仕事を一寸やめて、窓の外を眺め）未だ雪が降つてる……靜かだなあ！

父親。この家は本當の一軒家だ……來年は引越さう。

（娼婦の小間使は、ベルがまた鳴つたかのやうに再び戸の方へ行き、若い帽子屋の女を通す――その女は娼婦に近より、大きな函から立派な帽子を取り出す。娼婦は帽子をかぶつて、鏡の前に立つが、氣に入らないと見えて不機嫌で、帽子をわきに置き――若い女に酒手をやり、身振りで歸らせる。若い女は御辭儀をして去る。

突然母親は何か見付からないでテーブルの上を探がしてから立上り、入用なものを取りに行くやうに左手の戸から去る。

父親は立上り、窓の方へ行き窓際に立止つてガラス越しに外を見る。
段々と三人の子供はテーブルの上につつぷして眠つて了ふ。
娼婦は化粧臺を離れ、靜かに中産階級の家のテーブルに近より、勘定書や、宿題や、裁縫物を取り揚げて皆んなだらしなくテーブルの下にほり込む。）
娼婦。睡(ねむ)つてお了ひ！
（娼婦は化粧臺に歸り、爪を磨き始める。）

——幕——

この作は作者自身も云つて居る通り、中産階級の家庭生活と娼婦の生活との同存的交錯を示し、かくて力動的な、自治的な、非論理的な、直接な劇的效果を巧みに收めて居る。こゝに出て來る娼婦はシンボルではなく、贅澤や、不しだらや、冒險や、浪費の感覺の綜合を物語り、觀衆に印象させる爲に用ひられ、從來の劇であると何場も幾幕も費して、論理的に、如何にもまことらしげに、さも有り得べき事のやうに順々と說明され開展され發展させられるやうな各

人物は、初めから終りまでクライマックスであるやうなこの劇では、何等のまことらしい筋も豫備知識も與へられずに、すべての時間と空間と雰圍氣との同存の中で、突如として示される。

この同存及び交錯と云ふ思想は、美術史上印象派に於て始めて意識的に起つた事で、光を愛し光の魔術に惑溺して居た印象派は、固有色の存在を否定し、色を光の相對關係の下に置き、色彩に限つて同存と交錯を認めた。

然るに未來派畫家ボッチョニイは、この同存及び交錯と云ふ思想を更に形體に及ぼし、名著未來派繪畫彫刻論の中で

――印象派によつて初めて物體は生命を得、お互に影響し合ふ雰圍氣を含むやうになつた。玆に於て初めて、吾々が居る牧場の綠色が、ひよつとした具合で茜時の優しい頰に見え、吾々が腰を下して居る長椅子の赤が吾々の着物に見えるやうになつた。三十年前に印象派に於て色に限られたこの交錯と同存が起り、それは更に形の交錯と同存に進化した。そしてこのかくも合理的であり、かくも明かな進化は、俗衆が未來派畫家に浴せかけた所の嘲罵と兇惡な敵意とを惹起したのである。――

と云ひ、かくて形體に於ける同存及び交錯の遺憾ない研究と同時に、多數の畫作は彼と彼の同僚によつて爲されたのである。

正確に云ふとボッチョニイがこの考を初めて講演したのは一九一一年五月二九日ローマのチルコロ・インテルナチオナレ・アルツィスツィコであつたが、一九一四年、未來派藝術家が集つて綜合劇を始めるや、この思想は直ちに劇の重要な一要素となつたのである。

勿論初めは、例へば、場所を異にし時を同じくして起り、相共に關係のある事件を現す場合に、從來の演出法では、別々の幕により場によるの外なかつたから、理知や約束を通して以外には觀衆に「同時」であると云ふ事を會得させるに由なかつた。然るに、未來派では、それを同時に舞臺にのせ、兩方の事件は獨立的に進行して、必要に應じて急に交錯し始め、これを指定するために未來派のヤンネルリ其他は「同時的に」と云ふト書さへ付けて居たが、それは本質的に云ふと、本朝廿四孝謙信館十種香の場のやゝ進化した程度のもので、それは從來の約束に代へるに未來派の約束を以てしようと云ふに過ぎなかつた。しかしその後未來派は、その同存及び交錯を完全に舞臺及び觀衆の心の中に於ける同存及び交錯に進化させて、上述のやうな優れ

た作を生むに至つたのである。

こゝにお斷りする迄もなく、娼婦と中產階級の家族の生活は、舞臺及び觀衆の頭の中で突如として同存し交錯されるだけで、普通な意味から云つて何等實在の關係はないし、中產階級と娼婦と何れを讃美し。いづれに加擔すると云ふ如き事はてんで作者の頭にない。たゞマリネッツィにはこの對照が興味深く思はれたのであつて、彼は好んでかゝる對照法を用ひる。

この唐突な演出法は、見方によつては、劇中の人物が序幕で觀衆に筋を呑込ませる爲め蛇足な會話をした舊來の劇が、一八八七年フランスに於ける自由劇場の創始によつて、根本的な事件に關係のない說明や筋が甚しく少くされたのを、未來派が更に窮極まで押進めて、全然主題だけを露出し純粹な効果のみを得ようとしたものであるとも云ひ得ると思ふ。

一體未來派劇の起源はかなり古くから說き起す要があるが、それは他の場所に讓るとして、未來派自らが綜合劇の名を冠して發表した宣言書は、イタリアが未だ中立を保つて一九一五年一月一一日及び同年二月一八日であつて、その宣言書は

——かくも强く祈り求められた吾等の偉大なる戰爭を待ちわびながら、吾等未來派は、或

は廣小路や大學やで最も亂暴な中立反對運動をなし、あるひは最大危險の偉大なる時間に對して準備させて置きたいと吾等が欲するイタリア人の感覺に、藝術行動をしかける。イタリアは劍術使のやうに物におそれず、熱中して、自由自在で、すばしこく、拳鬪家のやうに毆打を物ともせず、死者五萬を出した戰勝の報知にも敗北のしらせにも動じないやうにならなければならない。――

と云ふ言葉で始め、かゝるイタリアとイタリア人を生む爲の綜合的な、力動的な、同存の、自治的な、非論理的な、非現實的な劇を創る爲に、從來の芝居や、更にイブセン、マーテルランク、アンドレエフ、クローデル、ショー等のやうな革新者をも攻擊したあとで、彼等は在來の劇の因襲や約束や技巧を破壞し、あらゆる藝術家、力技家、發明家の努力を舞臺に於て綜合し、作者の箇性と感覺を極端に發揮させ、愚にもつかない筋や科白の面白みや、まことらしさから劇を解放し、舞臺と觀衆を一つの感覺の中に滲入させ、從來の道化芝居や俗謠劇や喜劇や戲曲や悲劇を全廢して、それ等に代へるに各種雜多な自由な活氣あり健康な未來派劇を以てしようとする事を力說した。

觀衆と舞臺とを一つの感覺に沒入させようとするのは
——從來繪畫の構成は、愚かにも因襲的であつた。畫家は吾々の前に置かれた物體や人物を吾々に示した。今後吾々は觀賞家を畫の中央に置くであらう。——
と云ふ畫家の主張の應用であるが、次の作品はその好箇の例ではあるまいか？　卽ち

未來派綜合劇

約　定（マリネッツィ作）

寢間——薄暮——白い寢臺がかすかに見え、その中でポール・ダミ氏が死にかゝつて居る。

友達（入つて來て小間使に訊ねる）ポールは死にかけて居る。もう望みはない……

小間使。ほんの僅かな望みも。彈丸が肺を貫いちやつたのです。

友達。だけど……本當に……あの女の爲に、死んだのか？

小間使。いゝえ、どうしまして……ポールさんはお部屋の爲に自殺したんです。謎を解いて差上げませう。御存知でせう。あの方はこのお部屋がひどく氣に入つて居られたんですが、つ

い近頃、道に面して窓を開けて欲しいと持主に云ひなすつたんです。行列が御覧になりたいつて……するとあの痴人がことわつたんです。それがつい三日前の事で、ポールさんは、そんなきつかけで持主が新しい借主と交渉中なのをお知りになつたんです。で若しかするとこの部屋を失ひはしまいとかとお考へになつて、悲しくつて耐らなくなつちやつて、とうとうピストルで御自分をお打ちになつたんです。

ダミ氏。(夢心地で話す)火が家についた！　部屋が燃えてる！　消防を呼べ！　(まどろむ。——醫者が入つて來る。醫者のすぐ。後から黒のきもの着た、非常に優雅な、金髪の女が見物に顔を向けて臨終の人の寢臺に近よる)。

友達。(醫者に)もう本當に手のつくしやうは有りませんかしら？

醫師。(勿體ぶつて)全然ありません。ねえ！　紳士がアパートメントに入る場合は、そりや事件重大ですが、どんな時でも恢復の希望はあります……しかし、反對に、紳士の中に入つたのがアパートメントである時には、もう本當に萬事休すです！　(この時、黒のきもの着たあでなる人は、寢臺の他の側に行き、見物人に背を向ける。背には「貸間」と書いた小さい張札

がついて居る。）

——幕——

然しながら此程度では滿足しない未來派は、實際社會のやうに自然法則の支配を受けないでもいゝ劇の特長を利用して、日常生活に起り得ない事や、在來の芝居には出て來さうもない人物や動作を用ひて一種の純粹に抽象された感覺を表現し、寫實的な劇が到底持ち得ない香氣と魅力によつて觀衆の感覺と頭腦を力強く支配しようとし始めた。そして、この目的の爲めのマリネッツィ最初の物體劇、「來るよ」は彼等自らの説明によると、「未來派が發見した劇的感覺の新らしい鑛脈である」と云はれる。即ち

未來派綜合劇

來るよ（マリネッツィ作物體劇）

客間。灯の點つた釣燭臺。正面の左手には庭に面して戸が開いて居る。左手の壁に沿つて色の机掛のかゝつた長方形の大きなテーブルがある。右手の壁には戸がついて居るが、その

壁に沿つて非常に高い背凭の付いた大きな肱掛椅子があり、椅子の右手には、四つの形の異つた椅子があり、左手にも四つの異つた形の椅子が有る。肱掛椅子と八脚の椅子は壁に倚りかけてある。

幕が揚るや否や、庭に面した戸口から給仕頭と二人の從僕――譯者註、本によると二人の燕尾服の下男となつて居るのもある――が入つて來る。

給仕頭。來るよ。萬端賴むよ(去る)

(從僕達は肱掛椅子を元通りにして置いて、それを中心として左右に半圓形に八脚の椅子を並べる。それから從僕達は庭に面した戸の方へ行き、お客の來るのを覗ふやうに、上體を部屋の外にかゞめ、觀衆に背を向けて暫くの間敷居に立つて居る。何物も動かない沈默が一分間續き、それから給仕頭が呼吸をはづませて客間に入つて來る。)

給仕頭。また違つた命令だ。ひどくくたびれてるんだから、椅褥(いすぶとん)がうんと要るよ(去る)

(從僕達は右手の戸から出て行き、暫くたつてから椅褥を持つて入つて來る。從僕達は肱掛椅子を客間の眞中に置き、椅子を肱掛椅子のまわりに圓形に並らべ、椅子の背部は肱掛椅子の

方へ向くやうにする。椅褥を肱掛椅子やすべての椅子の上にのせ、足ののるやうに床の上にも積み重ねる。

從僕達はそれから庭に面した戶口に行き、前と同じやうに背を觀衆に向けてお客さんの來るのを、今か今かと覗ふ。何物も動かない一分間の沈默。）

給仕頭。（呼吸を切らして庭に面した戶口から入る。）また違つた命令だ。あの人達は腹がへつてるんだ。食卓の用意をして吳れ。（走る）

（從僕達は客間の眞中にテーブルを置き、椅子や肱掛椅子をまわりに置く。それから食器の用意をする。一つの所には花瓶を他の所には全部のパンを、他の所には葡萄酒八壜を他の所にはたゞ食卓の掛布だけを置く。一つの椅子は場所のふさがつて居るのを表はす爲めに後の脚を持ち上らせてテーブルに凭せかけられなければならない。それがすむと從僕達は上體を外にかゞめ、敷居の所で覗つて居る。――二分間、何物も動かない沈默が續く。）

給仕頭。（走りながら入つて來る）――ブリッカツィラカメカメ！（去る）

（從僕達は、食器をそのまゝにしてテーブルを元あつた位置になほす。それから從僕達は肱掛

椅子をはすかけに戸の前に置き、舞臺を横切つて對角線を描くやうに八脚の椅子を肱掛椅子のうしろに一列に並べる。從僕たちは釣燭臺の明りを消す。すると舞臺は庭からさし込む月光でかすかに照される。庭の左隅に隱されて居る反射鏡が束光線を客間に投げ込み、肱掛椅子と八脚の椅子のはつきりした黑影を床に印する。反射鏡は旋轉して、ゆつくりではあるが、はつきりと影の位置をかへる。

從僕達は片隅に蹲り、震へながら、椅子達が肱掛椅子の命令で客間を去つて行くのを、心配氣に待つて居る樣子。）

——幕——

三

私は今こゝでも作者の說明を引用しなければ、この劇の生命がわからない程日本人が藝術に對して鈍感であるとも、この劇の效果が稀薄だとも思はない。この作は未來派物體劇として或は最上のものではないかも知れない。然し上記の三例でも旣にはつきり特色のわかるやうな未來派綜合劇は今日までに何十となく創られ、その一部は演出された。

かくて悪戰苦鬪のあげく未來派綜合劇イタリアの劇壇に勢力を得始めると、絶えず飛躍を續けて倦む事を知らない未來派は一昨秋一〇月一一日ミラノからマリネッツィ及びカンヂュルロの署名で「未來派驚愕劇宣言書」(後出)を發表し、作品を上演した。今かりにその中の五つを擧げる。

未來派驚愕劇

「逸樂的なタンゴ踊りに混つた戰爭詩の朗讀」(マリネッツィ作)

詩人が自由語で書かれた戰爭詩を朗讀する。砲撃や、小銃射撃や、機關銃の音が、見物に露はれて居ない板を鐵鎚で打ち、大太鼓を使つて、正確に眞似られる。同時に(一人は燕尾服を着、他は頸筋を現した薇薔色のトアレツトを身につけた)男と女の優雅な踊り手が、朗讀者のまわりで物憂げなタンゴを踊る。

――幕――

この劇はもと一九一三年一一月二〇日マリネッツィがロンドンのドーレ・ギャラリーで「自由語」

の宣傳をした時に初めて發表されたもので、その後しばしば綜合劇の一として上演されたが、近來は「未來派驚愕劇」の一に數へらるゝに至り、マリネッツィの近作「鋼鐵の寢間」の一節「霧の中の戰」が主に朗讀されて居る。マリネッツィ自身この劇について「戰士の心（好戰的な感激と逸樂的な懷鄕病）の交錯は、一の重な未來派の發明である。到る處の最も騷がしい部屋で、この劇は公集の賞讃を集める事が出來た。その公集は朗讀を聞いてから、最も熱烈な喝采を浴せた。」と云つて居る。

この場合にも、未來派舞踏の時にも、伴奏（？）には甚だ神經質を極めて正確な寫眞主義が採用されて居る事は、よしかゝる場合に限つて音の寫眞が正確であればある丈效果は明確であるにしろ、それは直ちに未來派が常に寫眞主義的一面を持つて居るのを實證して面白いと思ふ。更にこの作が伊土戰爭の後を受けた一九一三年に創められた事、伊土戰爭の御蔭でドイツ及びオーストリアの征服の主張が一時聲をひそめ、從つて國家主義的或は好戰的に傾く要のなかつた事、伊土戰爭が詩人達に樣々な實感を與へ、或は戰爭に醉ひ、或は戀人を思ひ、心やさしく故鄕をしのびなどした事等を思ひ合せると無限の興味をそゝるものがあるが、更に藝術の香高

いものを求めると、私は寧ろ「化粧の音樂」を採りたいと思ふ。

未來派驚愕劇

「化粧の音樂」（マリネッツィ、カルデローネ合作）

黑塗の縱ピアノのペダルに。あでなる人の優雅な可愛らしい金色の短靴がのせてある。ピアノの小間使の一人の男優が、氣のない風で羽箒で一曲を奏しながら、鍵盤の塵を拂ふ。他の一人の男優（第二のピアノの小間使）は刷毛でピアノの象牙のキイを擦る。赤い着物きたホテルの使ひをする小さい男が、跪づいて、ピアノの脚の下について居る金色の小さい金物をこすつて居る。

――幕――

この劇についてマリネッツィは『この驚きは舞臺の外で他の驚きを惹起した。平土間に居た一人の紳士が。棧敷で見て居たマリネッツィの方を向いて「いや！　貴方は狂ぢやない！　貴方は吾々を狂にするんだ！」と叫んだ。その時大向ふの一人の紳士が激しく口笛を吹いて貶し始め

たが、忽ち同じやうな激しさで賞讃し出した。そこで平土間のさつきの紳士は高聲で「そら最初の發狂患者だ！」とどなつて、ひどく怖れて出口へ突進した。』と書いて居る。

然し私は此等の凡ての人に贊成し得ない。

この劇こそ世にもまれな香り高い象徴藝術の極致であり、メリメにも增して內に包む熱情とボードレイルの悲しくも冷たい人の惡い品のよさを具へて居る。それは動いてやまないマリー・ローランサンの魅力である。

こゝで注意する迄もなく、主將マリネッツィがマラルメの伊太利譯をした當人であり、ボードレイルやペルレイン等の何人にも增した愛讀者であつた事は未來派劇の理解に對して、かなり重大なサイド・ライトとなるであらう。

更に「化粧の音樂」の傾向はセッツィメルリの「消極的行爲」などの類を經て遂にカンヂュルロの「近代劇全部の綜合」と銘打つた「爆鳴」を生むに至つた。即ち

未來派驚愕劇

「爆　鳴」（カンヂュルロ作）

登場人物――彈丸。

夜の街、寒く、人無し。

一分間の沈默――ピストルの音。

――幕――

更に未來派が多種多様の內容を持つ事を公平に認め、而も現代藝術に深い理解を持つものには、左の一篇は深大の興味を與へずにはおかないであらう。卽ち

未來派驚愕劇

「公　園」（マリネッツィ、カンヂュルロ合作）

太陽(ひ)に映(は)えた公園――左手には二人の戀人（男優と女優）がベンチに腰かけて、しつかりと抱

擁し合つて居る。――右手には「驚きのアルフアベツト」の大きな未來派の作品があり、その作品は巨大な三つのBで出來た（實物大の）三人の乳母を表はし、各乳母は大きなSの形ちで出來た嬰兒を抱いて居る。

女のくさつたやうな男が作品の側をぶらぶらして居る。

面明りから一メートルの所に、4字型につつかひも無く腰かけた六人の自動車乘り（五人の男優と一人の女優）が、口眞似で發動機の音を出す一人の運轉手をのせた一臺の急速力に走る自動車に腰かけた六人の人の彈性運動及び跳反りの眞似をする。

――幕――

この劇について未來派は「ルッカで之れが上場された時、幕が降るや否や、見物人の一人がしやつちよこ立ちをしたまゝ、驚きかへる見物人を分けて棧敷の廊下をぐるつと廻つた。トリノではカブールに假裝した一人の見物人が、マチィニに假裝した他の見物人と大討論を始め、機智を以て之れに答へた。」と書いて居る。

然し歐洲大戰によつて生れた新しい驚愕劇の面目はむしろカンヂュルロの「徴兵檢査」のやう

な作品に躍如たるものがある。即ち

未來派驚愕劇

「徵兵檢査」（カンヂュルロ作）

登場人物

新　郞

友　達

燕尾服を着た劇場支配人

通　行　人

群集中の一人

行　列

必要に應じて新婦

イタリアの大きな町中——一九一六年——街——四月の午後の太陽（ひ）

正面には婚禮の行列の後尾の方が見える。非常にやかましい。——あらゆる年恰好の男女

――新郎新婦は既に通つて了つて寺院も家も車も其の他すべてのものは「袖」かげにあるらしい

――大機嫌、感動、願望、警句等

間もなく

通行人　（右手から出て來り、立止り、じつと眺めて居る。やがて群集中の一人に話しかけるやうに）戰爭なのに、畜生！……おかまひなしに結婚沙汰だ。

群集中の一人。あいつは兵役免除だよ。二度目の檢査でだつて採られさうにもしないんだ……

通行人（和らいで）おゝ！　さうか！……さうか……おめでたう……（群集に混つてわからなくなる）

行列。新夫婦萬歲！（喝采）

（すべての人は居なくなる。暗黑。數秒の後、燕尾服を着た劇場支配人が舞臺裏から出て來て重々しい大袈裟な調子で次の言葉を云ひながら面明りに近よる。）

劇場支配人。紳士淑女諸君！　この瞬間に事件が起ります……氣をつけていらつしやい！（支配人は去る。――一分間の後明りがつく。）

翌日——同じ街。然し黎明である。

新郎。（ちんけで、佝僂者で、肺病で、すてきに奇妙で、兵役免除で、未だ高帽子をかぶり、フロックコートを着、片眼鏡をかけて居るが、心を亂し、いらいらし切つて左手へ上場する。舞臺の眞中で友達に會ふ、その友達は昨日の行列でよく見かけたやうな恰好をして居る。）

友達。（驚いて）やあ！　ジョセッフ！　獨りなのか?!　こんな朝つぱらに?!　何にか有つたのかね?!　奥さんが困るだらう？

新郎。困るつて？　やあ！　いゝや！　離緣しちやつたんだ！

友達。（非常に驚いて）何んだつて？

新郎。性が合はないんだ……

友達。もうか?!　何時間とたゝないのに？

新郎。當り前さ！　二度も兵役免除の夫が、御奉公に持つて來い此の上なしの女と相性が善くないぐらゐ、すぐきにわかるさ！

友達。おおおお！
新郎。來いよ！　一緒に行かう。（二人去る）
劇場支配人（登場する）紳士淑女諸君。芝居はこれを以て終りました。たゞ、若し皆様の御厚意から俳優達を御喝采下さいますなら、皆様に新婦を御紹介申します。新婦はこの脚本には持役は御座いませんが、それにも係らず……この氣持のいい小傑作の主役なので御座います。
觀衆。花嫁！　花嫁！　花嫁が見たい！　（幕が揚る）
劇場支配人（「袖」かげに居る新婦をひつ張りながら登場する。新婦はかぢり付いて、登場したがらない。觀衆からは、たゞ片方の素膚の腕が見えるのみである。幕下りる。）
觀衆。花嫁！　花嫁！　花嫁が見たい！（幕揚がる。劇場支配人は新婦をひつ張り出さうと尙も努力を續けるが無駄である。幕下りる。）
觀衆。花嫁！　花嫁！　花嫁が見たい（幕が揚り、遂に、劇場支配人は非常な努力で花嫁を捕へて面明りの前に連れて行く。花嫁は肌着だけを身につけ、金色の髪に橙花の冠を頂いて居る羞かみ、顏を赤らめ、露はな腕で眼をかくす。）

私はこの說明に停滯する代りに、この短い紹介の結びとして前述の宣言書を引かう。

――幕――

未來派驚愕劇宣言書

私達は先づミュヂック・ホールを讃美し、革新した。(譯者註、マリネッツィは一九一三年一一月二一日「ル・ムジック・ホール」と題する宣言書を發表した。)續いて、私達の綜合劇は、從來何よりも大事にされて來た眞らしさと、連綿たる論理と、區劃的な練習とが生んだ舊い劇の技工を破壞した。私達の綜合劇は悲劇と喜劇の新しい交ぜ合せや、假想な人物と融合した實在の人物や、時間と空間の同存及び交錯や、物體劇や、脚色された不協和音や、觀念及び動作の店先(みせさき)などを創造した。

イタリアには今日、若いイタリアの芝居があつて、私達が十年前に創造し、その爲にイタリアの芝居で永く思ひ出となるやうな戰をしなければならなかつた程な藝術上の發明を、さほどの反對なしに上場する。されば今や、私達は前に向つて新たなる飛躍をするのである。

私達の驚愕劇は人間の感覺を快くゆすぶり得、而も曾て舞臺にのせられた事の無いあらゆる方法や、行爲や、對比や、動作や、觀念によつて觀衆を娛しませ、驚かせ、かくて觀衆の精神に風を當てゝやらうとするのである。

私達は、驚きが藝術に缺く可からざる要素であると云ふ事、即ち作品は現實と呼ばれるものに服從すべきどころか、全然反對に自治的であるべきもので、作品自らより外には似る可きもので無く、從つて異常なものと見える可きだと云ふ事を、しばしば公言した。

從つてボッツィチェルリの「春」が初めて現れた事には、多くの傑作と同じく、構圖や、リズムや、容積や、色の價値以外に、新奇と云ふ人を驚かす緊要な價値があつた。私達がこの畫をよく知つて居ると云ふ事や、この畫が生んだ模倣や模寫が。今日では旣にこの畫の驚きの價値を壞して了つた。この事が、過ぎ去り賞讃され模倣され模寫された作品を禮拜するのは、單に創造的精神を窒息させるから有害だと云ふのみでなく、今日では半(なかば)死んだ作品の半分以上は決して賞讃し、模倣し、模寫し得ないのであるから殊に不合理だと云ふ事を證明する。

ラファエルロは自分が壁畫を描くのに、旣に數年前ソドマが飾つた法王官の壁を選み、ソド

マのすばらしい作品をはがして、壞した作品に對しては何等後悔する事もなく自分の畫を描いた。何故ならばラファエルロは藝術作品の主要な價値は豫想外な出現によつて組立られるものだと考へたからである。

今日に於ては、驚きは未だ曾つて無かつた程必要缺く可からざる藝術要素となつた。そのわけは數世紀にも亘つて多數の天才の作物がすべて人を驚かせ來つて後の今日、驚かすのは非常に困難な事になつたからである。

驚愕劇に於て、作者が投げつける石は(一)面白いたまげた事で觀衆の感覺を打たなければならない――(二)人が打つた水が空にはね上り、同じ圓を描き、反響を起し、反響はまたほかのものに反響をおこすやうに、面白い觀念の連續を暗示しなければならない。――(三)觀衆の中に全然意外な言葉や身振りを惹起させ、その爲め舞臺の上の一々の驚きが平土間や、棧敷や、劇場外や、街道や、翌日や更に打續く數日やの他の驚きを生むやうにしなければならない。驚愕劇はかくの如く論理を越えた凡ての聰明な體操によつて、精神に最大の彈力を與へ、イタリアの若人を、薄暗い又人を低能にする政略的苦惱から引離してやりたいと思つて居る。

結論としては、驚愕劇は體操家や力技家や空想家や變物や奇術師やの協力を得た未來派のミュジック・ホールのあらゆるフィジィコフォリと、綜合劇と、未來派運動新聞劇と、藝術作品展覽會場劇と、ダンスに交錯した自由語と、樂器(ピアノ、ピアノ及び人聲、即興オーケストラ等)に混つた卽興の對話とを包含するのである。(譯者註、マリネッツィは宣言書ル・ムジック・ホール第十八條で、「現在の劇は、內面生活や、敎師然たる內省や、圖書館や、美術館や、良心の單調な爭鬪や、感覺の愚にもつかない解剖や、卽ち約言すれば心理學なる穢らはしい事實や言葉を稱揚して居るに引かへて、ムジック・ホールは行動や、勇武や、威風堂々たる生活や、手腕や、衝動や直觀の權威を稱揚する。私達がフィジィコフォリと呼ぶものは心理學と反對の側に立つものである。」と書いて居る。(後略)

一九二一年一〇月一一日ミラノに於て、マリネッツィ及びカンヂュルロ署名。

(新潮一九二三年三月號所載)

未來派劇について

未來派劇について

一

未來派の作物のうちに「徹底」と題する劇がある。即ち

「徹底」(マリネッツィ作交錯)

(優雅を極めた小さい客間――小さなテーブルや重ね棚の上には澤山のおもちやが載せてあり――壁には祖先の肖像や十八世紀時代の版畫が掛けてあり――澤山の椅子褥の乘せてある非常にかけ心地のよい臂掛椅子が置いてある――一目見ては婦人の部屋かと見間違へられるが、こまかい箇所で、優雅な洗練された青年だと云ふ事がわかる。――燕尾服を着、しやれた身なりをし、非常に優雅な、にやけた様子の三人の青年が、弱々しい小さなテーブルを圍んで、腰をおろして居る。テーブルにはトルコ珈琲が載せてあり、つき當りには、戸がたゞ一つ。)

一人。(極めて美しい金の卷煙草入れを、他の二人のうちの一人に開けて差出し、上品な調子で

話す）――どうぞ、御取り下さい……カイロから送つて來たのです。薫りの微妙なのは全く較べ物は有りませんよ。

他の一人。（火をつけてから、古い版畫を見ようとして立上り）――どうも有難う……素敵ですね？（フランス語で）おゝ！　東洋！　東洋！（イタリア語に戻り）二年前に下さつたあの小さい版畫ね、あれを私の部屋の眞中に置きましたよ。すばらしい人氣で！　皆んなが賞めて呉れます。本當の聖地巡禮ですね！……しつくり合ふ額椽を見付けましたよ……寶玉です！　見に來て下さらなければいけませんね。（フランス語で）私も差上げたいものが有るのです。バクダツトの白粉です。

（爪を出して見せながら）素敵でせう！　あの美しい伯爵夫人もこの爪を見りや羨ましがりますよ。

（此時戸が開く。手には手袋をはめ、戰鬪準備を整へた非常に强さうな二人の拳鬪家が入つて來る。三人の優雅な青年には注意もしないで、するどい一瞥を部屋に與へる。）

三人。（驚きと嫌惡を現し、フランス語で）――おゝ怖い！

第一の拳闘家。――こゝでかい？

第二の拳闘家。――さうとも。此處でさ……何故いけないんだい？

（どんどん進んで來て。荒々しく家具をどけ。卽座に猛烈を極めた拳闘を始める。）

三人のにやけた青年は立上がつて。嫌惡の爲に震へ、一人づゝ三方の部屋の隅に後しざりをし、其處でブルドックに侵入された三匹のアンゴラ種の小猫のやうに。怒り且つ驚いてじつとして居る。）

第一の拳闘家（恐ろしい一打ちで相手を打倒し）――參つたか？

（相手は氣絶して一寸床に倒れて居たが、やがて立上がり、手を差出して握手する。それから默つて。一人は前に一人は後にならび。調子をとつた步き方で、部屋を一廻りし、三人のにやけた青年の一人づゝの前に一寸の間立止まつて、二人一緒に。非常に輕蔑を現はして唾を吐く）。

プー！

プー！

ブー！

――幕――

二

この劇は必ずしも未來派劇として最上のものとは云へないが、未來派の思想の一面が露骨に示されて居ると云ふ點で有名である。

即ち一九〇九年二月二〇日主將マリネッツィは第一回未來派宣言書の中に「――これまで文學は思ひに沈んだ不動や忘我や眠りやを尊重して來たが、私達は、攻擊的動作や熱狂的不眠や駈步や翻筋斗やびんたや鐵拳やを稱揚せんと欲する。」と云ひ更らに「――鬪爭を外にしては最早美は存在しない。攻擊的な性質を持たないやうな傑作は無い。」と斷言し、二箇月たつた一九〇九年四月には「おゝ俺の氣狂達よ、おゝわが愛する兄弟達よ、われにつゞけ！　山と云ふ山の頂に、海まで遠くレールを敷かう！……君達は幾人だ？……三千か！……未だ不足だ！……おまけに倦怠と單調は君達の熱情をぢきに涸しちやう！……首府の入口にたむろして居る動物園の野獸に相談に行かう！……それ等こそ、ただ一つの生物だ、傳統破壞者だ、非植物だ！……

前進め！……痛風の國へ！……痛風へ！……」と叫び、主將自ら陣頭に立つて三千の同志をひきゐてから今迄約十五年、其の間「科學的大發明によつて人間の感覺を根柢から革新させる」事を主義として、女々しい憂欝や默想や悲嘆や不動や緩漫や曲線や懷古や衒學や感傷や理想化や倦怠や眠りや厭世や是等すべて若々しい青年の生動力の直接な發揮を弱め妨げるものを破壞して、快速や文明や科學や勇武や直觀や衝動や男性的跳躍や强壯且つ明快な感覺や發明や研究や力技や獨創や直線や驚愕や爭鬪や毆打やを愛し、かくてイタリア人の精神に最大の彈力を與へ、或は走り行く自動車を歌ひ、或は「榴霰彈の猛烈な交響樂と、靈感を受けたイタリアの砲兵が敵の集團に霰彈もて刻む亂暴な彫刻」を讃美し、すべての文學の表現樣式を革め、「自由語」を生み、造形的力動主義を始め、イタリアが未だ三國同盟(伊獨墺)を守つて居た當時から數度の入獄や拘引にもひるまずに絕えずオーストリアの征服を高唱し、遂にイタリアを聯合國側に立たせた未來派の主張は、卽ちそのままにこの「徹底」の主張である。

すべての似而非文明の病弊に、あやまられた教養に、生命を失つた粹や病的な趣味に鐵拳を加へて、科學の勝利もて飾られたこの美しい地上に於て、新しい感覺と生命の飛躍を歌はうと

するのは、單にこの「徹底」に限らず、多數の未來派劇の底を流れる主潮である。

しかしすべての內容は、必然的に獨自の表現樣式を要求する。

即ち未來派が劇に持ち來らした最大の功績は、この勇武の思想のみでなくて、共に加へるに未來派劇なる自由な表現樣式が有る。

未來派は在來の劇に甚しい不滿を持つて居て、未だ未來派綜合劇及び驚愕劇が生れなかつた一九一三年に既に「吾々は現代の詩劇、口語劇、歌劇の全部に對して、深い嫌惡を持つて居る。何故ならばそれ等歷史的な事を模寫し或は剽竊して再び組立てる事と、吾々の日常生活を寫眞的に現す事との間をうろついて居るからである。かゝるこせこせした、のそりのそりした、分析的な、水を割つたやうな劇は、石油洋燈を使つて居た時代に相當なものだ。」と痛罵して居る。

三

一體未來派は凡庸な文學者が文學の精髓であり、寶玉であり、粹であり、約言であると見做す詩さへも、遲緩讀むに耐へないものだとして「――教師達の馬鹿げ定義が何うだらうが、そ

れを私は知らうとは思はないが、私は貴方達に云はう、リリズムは、生命に醉ひ又生命を吾々自身で醉はせる世にも稀れな機能であり、吾等をかこみ、吾等をよぎる所の生命の濁水を酒に變へる機能であり、吾々の移り行く自己の特別な色で世界を彩る機能であると。だからかゝるリリツクな才能を授かつて居る或るお友達が、革命や戰爭や難船や地震のやうな生命の殊に激く燃える地帶に居て、そのすぐあとで印象を語らうとした場合を想像して御覽なさい。」と云つてかゝる場合に天才が發する最も自由な生命に滿ちた最もオーケストラ的な言葉即ち未來派が以て在來の詩に代へようと主張する所の「自由語」こそ、最高の藝術であり同時に生命の凱歌であると主張するのであるから、かゝる人達が一度劇の世界に足を入れゝば無力、緩慢、因襲、愚劣、眠るが如き在來の劇に心よからないのは極めて當然である。

左に簡單に從來の劇の表現樣式に對する未來派の非難を列擧すると

一、從來の劇では登場人物が實際に存在すると云ふやうな幻想を與へようとして、本質的には一頁で足りる事を、くだくだしく百頁にも書き、幾幕にも分つて、力弱いものにして居る。

二、興味のある一人物のまはりに、何等吾々を娯しませる所のないのみか、却つて邪魔になる下らないつけたりな人物をならべる。

三、長たらしい全然不要な前書をつける。

四、一つの考を入れるのに、一幕目には十分の一、二幕目に十分の五、第三幕目に十分の四入れて、併せて一になるやうに組立てる。

五、單調な聲音漸加のやり方を採用して、初めの幾幕かは最後の幕の準備に過ぎないやうに作り上げる。第一幕は少し退屈にして、第二幕はやゝ面白く、三幕目に山を置くと云ふが如し。

六、必要な言葉を云はせる爲にその準備としていかにも自然らしさを與へようとして澤山の無意味な言葉を云はせる。

七、人が出たり入つたりするのに迄、一々理屈をつけて、勿體らしく說明する。

八、凡ての行爲や場面や對話に淺薄極まる規則をあてはめる。例へば、或る事件が起るのが晝だと、次は夕方にし最後は夜中にするとか、始めは悲痛で、眞中は惱しく、最後は嚴肅

だとか、對話を延ばさうとして、瓶が落ちたり街で小夜曲を奏くのが聞えたりするやうな全然無意味なくだらない出來事を人工的に挿入するとか、對話の時、始めは坐つて居たが立上つたり、左右に歩いたりするとかの類。

九、何から何迄愚にもつかない幼稚な表面的な程度までまことらしくする。

一〇、觀衆にすべての行動の論理的な理由や登場人物の將來までも、正確にわかる(?)やうにさせる。

一一、藝術行動よりは遙に束縛や豫定や規則の多い行爲から成つて居る人生それ自體は大抵の場合非芝居的のものであるが、それでもしばしば劇的場面を演出する。云ひ換へると有效な價値のあるものは凡て劇的であるのだが、從來の劇は愚かにも演出法なる偏見に束縛され同時に低級な寫眞主義に制限され、二倍にも三倍にも窮屈な活氣のない不自由極まるものとなつて居る。

一二、同情を惹き起させる人物に勝たせ、虫のすかない奴を負かさせようとする觀衆のくだらない幼稚な趣味に迎合して居る――エトセトラ・エトセトラ。

かくの如く未來派は、現在の劇がよつて以て成立つて居る約束や「尊敬すべき舞臺技工」の全部を否定し、マリネッティ自身曾つては何人にもまさつたかゝる舞臺技工の所有者であつた過去を斷乎として振棄てゝ、あらゆる藝術家、力技家、發明家、空想家、變物、奇術師の努力を綜合し、作者の個性と感覺を極端に發揮させ、愚にもつかない筋や科白の面白みや、まことらしさから劇を解放し、舞臺と觀衆を一つの感覺の中に沒入させ、實際社會のやうに自然法則の支配を受けないでもいゝ劇の特長を利用して、日常生活には到底起り得ない事や在來の劇には出て來さうもない人物や動作や色や音や光線を使つて一種の純粹に抽象された感覺を表現し、寫實的な劇が到底持ち得ない魅力によつて觀衆を直接支配し、あらゆる時間、空間、雰圍氣の同存及び交錯によつて、直接に現代人の生命の凱歌に醉はうとするものである。

であるから未來派は「芝居は役者がするものである」等と云ふ奇想天外な偏見が未だに餘命を保つて居る今日、多數の綜合劇や驚愕劇を書いたのみか、今迄のやうに薄暗い書齋と破れ机によつて、さもありさうな事件を捻出する代りに、詩人は人の一杯入つた劇場に行つて、その時の感覺や雰圍氣や觀衆の氣分によつて即興劇を作り、かくて觀衆をも含む演出者（私が演出者

と云ふのは綜合劇に直接參與する全部の人を指す、役者もその一部である。」は全部その卽興詩の實現にあづかる事を主張して居る。卽ち凡てのものが全然何等の束縛もなく自由に衝動や直觀によつて動きながら、綜合劇の效果を一寸も傷つけずに育て得る所に新なる作者の偉大さがあり現代人の文明の榮光があるのである。

　卽ちこの點について、パリーのアベニイル紙が、今から數月前アール・エ・アクションによつてパリーで上演された未來派劇を報道した長文の記事の中に「――幕はクラブの一と、ダイヤの一と、スペートの一と、ハートの一とで出來て居る――トランプが引込んで了ふと黑を背景にして人形が現はれる、それは絲で操られはしない。それは黑の肉襦袢を身につけた役者の上にかぶさつた厚紙である。ところが探射燈が見物の目を奪つて了ふので、見物には人は見えずに、人が支えて居る色の切取り細工だけが見える。その效果は心よく、そして時々幻覺をおこさせる。」と記した一節がある。以上短い拙文が未來派劇の如何なるものであるかと云ふ事をおぼろげにでも知らせるようすがになれば、私の滿足と感謝は限りない。

（朝日新聞一九二三年四月所載）

未來派綜合劇

過去派

三幕

ブルノ・コッラ
エミリオ・セッツィメルリ合作

過去派（三幕）

第一幕

老爺老婆がテーブルを中にして向き合つて居る。彼等に近く暦。

老爺。どうだね？

老婆。滿足です。であなたは？

老爺。滿足ぢや。（間）あすは何んといゝ天氣だらう。（間）今日も亦一枚はがせる。一八六〇年一月一〇日だ。（間）こなれはいゝかね？

老婆。滿足です。

老爺。消化不良はなほつたかね？

老婆。大變よく食べられ、よく消化しましたよ。大滿足です。

老爺。大滿足ぢや。

暗黑。

第二幕

同じ場、同じ配置。

老爺、どうだね？

老婆。滿足です。であなたは？

老爺。滿足ぢや。（間）あすは何んといゝ天氣だらう。（間）今日も亦一枚はがせる。一八八〇年一月一〇日だ。（間）こなれはいゝかね？

老婆。滿足です。

老爺。消化不良はなほつたかね？

老婆。大變よく食べられ、よく消化しましたよ。大滿足です。

老爺。大滿足ぢや。

暗黑。

第三幕

同じ場、同じ配置。

老爺。どうだね？

老婆。滿足です。であなたは？

老爺。滿足ぢや（間）あすは何んといゝ天氣だらう。（間）今日も亦一枚はがせる。一九一〇年一月一〇日だ。

老婆。おゝ神樣！　胸苦しい！　死んぢやう……

（倒れ、動かなくなる。）

老爺。おゝ神樣！　胸苦しい！　死んぢやう……

（倒れ、動かなくなる。）

――幕――

未來派綜合劇

月光

一幕

エッフェ・テ・マリネッツィ作

月光

非論理的交錯

庭――小さなベンチ

彼――何んと美しい夜でせう！　こゝに腰かけませう……。

彼女――何んと氣持のいゝ空氣の膚觸りだこと！

彼――私達だけたつた二人が、この廣い庭に居て……こわくはありませんか？

彼女――いゝえ……いゝえ……貴方だけと御一緒にこゝに居られるなんて、こんな嬉しい事はありません！

肥つた腹の大きな男（傍の小徑から出て來て、二人に近づき、彼等に隣してベンチに腰をおろす二人はこの男が目に見えない人物であるかのやうに、この男を見ない。）――フム！　フム！

（女が話をして居る時は、女をじつと見つめる）

彼女——風がありはしませんか？
肥つた腹の大きな男——フム！　フム！（男が話をして居る時は、男をじつと見つめる。）
彼——風ぢやありませんよ。
彼女——でも本當にこの庭には誰も居ないんでせうか？
彼——ずつとあつちの家に、庭番が居るだけですよ、眠つて。もつとそばにおよりなさいな……キッスをさせて……さう。
肥つた腹の大きな男——フム！　フム！（月光で柱時計を見る。立上り、キッスをして居る二人の前を、思ひに沈みながら歩き、のち又腰をおろす。）
彼女——なんと美しい夜でせう！
彼——何んと氣持のいゝ空氣の觸りでせう！
肥つた腹の大きな男——フム！　フム！
彼——何故震へるの？　こわいの？
彼女——いゝえ、も一度キッスをして下さいね！

肥つた腹の大きな男（月光りでまた柱時計を見、立上り、ベンチのうしろに廻り、始終、見つからないで、始めは彼女のかたに、次ぎは彼のかたに觸れ、それから靜かに奥の方へと行く。）

彼女――おゝぞくぞくする！

彼――少し寒くなりましたね……

彼女――おそくてよ。

彼――歸りませうか？

――幕――

原作者註――「月光」に於ける腹の大きな男は何にかの象徴として使はれたのではなくて、澤山の感覺、卽ち未來の現實の恐怖、夜の寒さと靜寂、二十年後の生活の幻想等の非論理的綜合である。

未來派綜合劇

犬は居ない

一幕

フランチェスコ・カンデュルロ作

未來派綜合劇

犬は居ない

――夜の綜合――

人物――居ない人

夜の街、寒く、寂漠たり。

犬街を横切る。

――幕――

未來派の自由語

未來派の自由語

一　未來派自由語發達の簡單な歴史

未來派の自由語の發達を説く前に、未來派の自由語が如何なる時代に生れたかを歴史的に説く必要がある。

しかし私は今その大事業をするだけの心持の餘裕はない。

幸に、かつて第一回アクション講演會を上野自治會館に開いた時、私は「野獸の群の時代について」と云ふ演說をしたが、其時に詩の世界についても一言及ぼす所があつたから、それをこゝに引かう。即ち

『グールモンはステファン・マラルメを詩に於けるモネであるとたとへて「フランスに於ては目の敎育は詩的感覺の敎育よりも進んで居る」と申しましたが、公平な立場から、時代精神を

省みますと、決してグールモンの云ふやうでないのみか、私は寧ろアンヅゥレ・サルモンの言葉に同じて、繪畫が時代精神に動かされたのは遙かに詩におくれて居た事を認めたいと存じます。

「フランスの詩の救濟者」ギュスターヴ・カーンは既に一八八七年に最初の自由詩集 Palais Nomades を出して、自由詩の烽火(のろし)を擧げました。

この詩集の發行は Albert Mockel が「此詩集の發行にすぐにつゞいてベルギーでもフランスでも、彼の詩に近い形の詩が現はれた。」と云つたやうな影響を生んだのみか、其後間もなくベルアーラン自身の言葉を使ふと「頭腦は齒よりも更に固く、更に烈しく、更に暴食である民族」の子供である此のベルギーの詩人は、ラスキンの淺弱な美學や弱々しい神經を嘲るやうな勇ましい自由詩をなげつけました。

而もギュスターヴ・カーンはなほも引續いて五冊の自由詩集を發行したのみか、最初の自由詩集の發行から十年目には、自ら自由詩の創始者としての榮譽と共にすべての責任を擔ひ、反對論に答へ、自由詩が何故に生れなければならないかを明かにし、かくて自由詩の戰爭か花々

しく始まつたのでした。

單に詩形の上からのみでなくとも、惡の華の中の「娯しき死」で

蝸牛匍ひまわる沃土に
親ら手して底深き穴をうがち
われ裕然として老骨を横へ
水底の鱶の如く吾は忘却の中に眠らん。

われ遺書を厭み、墳墓をいむ
うつし世の人の涙を請はんより
生きながらにして吾寧ろ鴉をまねき
汚れたる脊髓の端々をついばましめん。

おゝ蛆虫よ。眼なく耳なき暗黑の友

放蕩の哲學者、腐敗の子等よ
よろこべる無頼の死人の來るを見よや。

わが死骸にためらふ事なく食入りて
死の中に死し、魂もなき古びし肉に
猶も惱みのありやなしやを吾に告げよ。

と歌つたボードレイルに續いて、ベルレインが評論を書くに當つても「呪はれた詩人達」と總稱しなければならなかつた人達、及び、呪はれた詩人達の中でも呪はれた詩人であるベルレイン自らによつて、主として礎きあげられたフランス象徴派の完全な勝利のあとで

「歌」

お〻喜びに滿ちた美しい四月よ
お前のすがすがしい歌も
お前の眞白なリラも山櫨の花も

梢を洩れて黃金と哭く太陽も
若しも戀人が自分を離れて
遠く北の霧の中にとゞまつて居るならば
私には何んのねうちが有らう。

おゝ喜びに滿ちた美しい四月よ
戀人にまた會ふ事はむごいほどの喜びだ
おゝ喜びに滿ちた美しい四月よ
彼女は來た。御前のリラの花も
黃金(こがね)なす太陽の亂舞も
それでこそ始めて私を娛します――有難う
おゝ喜びに滿ちた美しい四月よ。

と歌つたギスターヴ・カーンの此のすがすがしさを見出した事は面白い事で御座います。

然しながら如何にせん彼は象徴派の殘黨でありましたし、彼の自由詩論の如きも「詩は歌はれるやうに旋律づけられた人間の言葉である。其れ故本來の意味によれば、歌の外には詩はない。」と云つた高踏派の Banville の定義を肯定するなど、未だ甚しく不徹底なのを免れませんでした。然し此時に當つて、後年イタリアの未來派を率ひて立つたマリネッツィは詩集「星の征服」をパリーに投げつけて、ギュスターウ・カーンの言葉を使ふと「詩は主として自分の心や、更に近代的なものになるとリュウマチや、洋燈のやさしさ、雛菊の美しさを語る爲に作られるとか、詩は神を祈り呼ぶ爲につくられたものであるとか考へて居る人達」の、全然思ひもよらなかつた詩を生みました。その詩は

Hola-hé! Hola-hé! Hola-ho!
おゝ古色蒼然たる浪よ、おゝ無上の海の老兵よ
立て、泡のいかめしい髭をつけた强力な戰士よ!
立て! 立て! わが兄弟よ! 大なる戰爭の爲めに
吾等の長い劍をとがふ!

苔と銹に虫ばまれた
エメラルドの象眼の有る
重い黄金の鎧を着よう

Hola-hé! Hola-ho! Stridionla Stridionla Stridionlaire!

と云ふ節で始まり、その十九章に亘る長い詩はすさまじい戰爭の叫びに滿ちて居ります。

第一章の中でしばしば繰返される Stridionla Stridionla Stridionlaire! が Stridence 即ち鋭い音と云ふ字からマリネッツィが作り出したのは疑がありませんが、それは彼自らの說明をまつ迄もなく、暴風によつて海の水が戰爭のやうにわき立つその波の激動と、劍の鋭い音との間に類似な音を見付けて、その音を直接にまねて詩に音樂的な要素を加へやうとしたものであるのは確かだと思ひます。また一つの概念を代表する言葉としてでなく寧ろ音樂的な意味から用ひられて居る Holahooo! と云ふ叫びにしても、或時はォーをいくつも重ねて正確に音を記し、かたがた詩に繪畫的要素を加へようとさへ致して居ります。

勿論それは後年の未來派及び未來派の自由語を眞似たダダイズムの徹底した仕事振りに比べ

ては問題では御座いませんが、一九〇二年の當時には甚しい反響をおこし、Rachilde は「私は波の音とその奇妙な鋭い音を眞似やうとなさつた貴方の Stridionla Stridionlaire を愛します。」と著者に書き、其他の所でもしばしば引證されました。

然し此の詩集では未だ感傷主義や象徵主義やロマンツィズムがばつこして居て。新しい時代の精神はともすれば技工や衒學に隱されて了ひさうなので、彼は翌一九〇三年に詩集「破壞」を彼の愛するパリーの街に捧げ、思想的にはボードレイル以來、フランス人や彼自らの心の底までしみ込んで了つた悲しい世紀病から逃がれ出ようとし、表現樣式の上からは、全篇が自由な詩形をとつたのみか、第八編「夜のカフエ」の如きは、中途から散文になつて了つて居るやうに、いろいろと從來の因襲から脫して本質的なものを直接に表現したいとあせつて居ります。』

その La Conquête de Étoiles と Destruction との間に彼は La Momie sanglante と D'Annunzio intime を出した。

しかし前者は甚しく感傷的でありロマンツィックであり、後者は表現樣式の上では、始んど新

聞記事的であつて何等文學上の新しい問題を提出しては居ない。

彼はやがて Le Roi Bombance や La Ville Charnelle や Les Dieux s'en vont, d'Annunzio reste のやうな傑れた作物を矢つぎ早に物しては居るが、其等は表現様式の點では、從來の文學に左程大きな革命を與へたとは云ひ得ない。

未來派宣言書發表後最初の作物である Poupées électriques の第一幕・第二幕・第三幕のト書に於ては(拙譯「電氣人形」を御參照あれば幸甚)彼は從來の表現様式を脱出しては居るけれども、會話はすべて依然として因襲的な表現によつて居る。

されば文學のすべての表現様式の革命である未來派自由語の發端は Mafarka le Futuriste を經 La Bataille de Tripoli に發し、宣言書 Manifeste technique de la littérature futuriste (一九一二年五月一一日マリネッツィ署名) 宣言書 Supplément au Manifest technique de la Littérature futuriste (一九一二年八月一一日マリネッツィ署名) に至つて明確な主張となり、宣言書 L'Imagination sans fils et les mots en liberté(一九一三年五月一一日マリネッツィ署名)及び名著 Zang Tumb Tumb 出るに及んで最初の完成を遂げたと云ふ可きである。

未來派の自由語の誕生があつてのちマリネッツィは多數の著書及び作物を自由語で書いて文學の綜合藝術化に寄與する所あつたが、そのより自由にしてより活氣ある文學の形式は多數の有能な詩人によつて使用され、アルマンド・マッツァの極めて健康的な自由語、パオロ・ブッヂの數理的、哲學的な自由語、ネルソン・モルプルゴの幼稚極まる繪畫的自由語、フランチェスコ・カンヂュルロの極めて箇性的な、ユーモラスな樂天的な自由語。其他數々多い種類の自由語を生んで、文學の領域を豐富にした。

かくて一九二二年六月一日のイル・フゥツゥリズモ紙は「ダンヌンチィオと自由語」と云ふ題で未來派が常にその怯懦を笑つて居たダンヌンチィオが遂に未來派の自由語を用ひ、マリネッツィの「アドリアノーポリの戰」中の Vampe vampe vampe と同樣な效果を使用した事を記して、凱歌をあげて居る。

しかし此等のすべての自由語は、如何に多樣の箇人性が發揮されてあるとは云へ、すべてマリネッツィのプログラムにあつたものであるが、それ等から一頭地をぬいて新方面を開拓したものは、フランチェスコ・カンヂュルロである。

勿論カンチェルロは自ら其著 Piedigrotta（一九一六年版）の捧げの言葉の中で
「私とナポリはベスビオなしには存在しなかつたであらう。それと同じやうに、この魔法の詩はマリネッツィなしには存在しなかつたであらう。」
と明言して居るやうに、彼の極めて箇性的な自由語も、マリネッツィの影響の下に誕生したのは本當である。
しかし彼の天眞爛熳な、子供のやうな、そして極めて樂觀的な、快樂的な、おどけた性格はマリネッツィの自由語とは、全然別箇な音樂的な自由語を創つた。
彼の

$\frac{2}{4}$ TE ‖: TE tete | TÈ TE | TE tete | TÈ TE ‖

と云つたごく幼稚な調子こそ、彼のすばらしい詩人的天分から迸り出た愉快な叫びであつたが
彼はその愛誦の

$\frac{2}{4}$ TE ‖: TE tete | TÈ TE | TE tete | TÈ TE: ‖

の外に

Su PRINCIPESSE del MARE Più su REGINA (VERDEACERBO di MARE) con stella marina sulle fiche = salse meduse
Più su precipizî di fuochi d'artifizio = vetrine di tutti i gioiellieri del Mondo rovesciate su PIEDIGROTTA corona di PIEDIGROTTA

(prestissimo) ujsciujsciujsciujsci
« Ò scelto un nome eccentrico..... »
éppà ═══════ (LOIE FULLER VIOLA)
aròvaielatrinabucchinaramannaggiachitemm OOH! EEH!
(prestissimo) ujsciujsciujsciujsci
« 'O tenente m' à ncucciato.....
éppà ppà ═══════ (LOIE FULLER ARANCIONE)
Nestrunzoaròstàoillàchillusfaccemmus EEH! OOH!!
(prestissimo) ujsciujsciujsciujsci
« O bionda o bella bionda..... »
éppà ppà ppappappà ═══════
(LOIE FULLER TURCHINO)
ÈchillicummevottehCicciilcumpaaA! UUHH! UHH!
ndrscì ndrscì ndrscì
« Quanno tramont' 'o sole..... »
tra térétatatà ttà ttà
E'icummesitèBBonaEssòretamancocemmale EHOHAHUU
tftftftftftfun
« MAGGIO SI' TU..... »
frfrfrfrfrfr～～～～～～～～～～

$\frac{2}{4}$ TE ||: TE tete | TÈ TE | TE tete | TÈ TE : || *(per tutta la vita)*
frscì frscì frscì frscì
ttrach ttrach ttrach ttrà
tr～～～～～～～～～～

未來派研究

のやうな自由語を書くに至つた。

その後彼は Caffeconcerto に於ても依然として

‖ tete ‖ TE tete | TÈ ecc

や

$\frac{2}{4}$ tata ‖ TA tata | TA tata | tariarara | RA

のやうなごく幼稚な而も根本的な（註、簡單なるものは力を有す）調子に心を引かれて居たが遂に一九一九年版の Il Debutto del Sole に至つて

Stornelli Vocali

Versi della vita　　Musica della Morte

1°.

Lo stornello del morente:

aaaaah......

2°.

Lo stornello del medico:

eh

3°.

Lo stornello dei parenti:

iiiiiih......

4°.

Lo stornello dei frati:

Oh Oh Oh Oh

5°.

Lo stornello della Folla :

UH ?!

を生んだ。

この母音の使用法が果して成功して居るかいなかはともかくとして、若し吾々がこれをアルツゥル・ランボーの詩「母音」の

VOYELLES

A noir, E blanc, I rouge, U vert, O bleu, voyelles,
Je dirai quelque jour vos naissances latentes
A, noir corset velu des mouches éclatantes
Qui bombillent autour des puanteurs cruelles,

Golfe d'ombre ; E, candeur des vapeurs et de tentes,
Lance des glaciers fiers, rois blancs, frissons d'ombelles ;
I, pourpres, sang craché, rire des lèvres belles
Dans la colère ou les ivresses pénitentes ;

U, cycles, vibrements divins des mers virides,
Paix des pâtis semés d'animaux, paix des rides
Que l'alchimie imprime aux grands fronts studieux ;

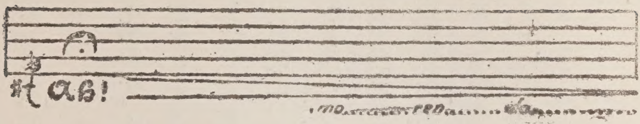
O, suprême clairon plein de strideurs étranges,
Silences traversés des Mondes et des Anges :
—O l'Oméga, rayon violet des Ses Yeux !

に較べるならば、何人も時代の相違に今更らしい驚嘆を禁じ得ないであらう。

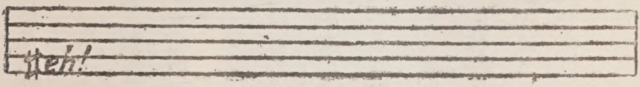
しかしカンヂュルロはその詩のオノマトペ(擬聲音)的效果に滿足しないで、樂符を讀み得る人は、原本による讀者よりも遙かに多數である事(註・カンヂュルロは、この斷定の基礎を、「音樂は普遍的の國語である」と云ふ所に置いて居るが、それは勿論その言葉として眞理でも、だから五線紙上の符號を讀む人が、原語による讀者より多いと斷定する理由にはならないと思ふ。樂符を讀み得る人が、原本による讀者よりも多數である理由は一つに「音樂的符號、音樂の術語及び約束が普遍的だからだ」と思ふ。)及び自由語によつて得る事が出來た所の詩の同存的效果(繪畫的效果を含む)に音樂的效果を入れる事によつて、自由語の綜合藝術化をしようと云ふ立場から遂に Poesia pentagrammata を作り、五線紙上に自由語をかき始めた。

そしてこの新しい表現樣式によると前述の母音の詩は

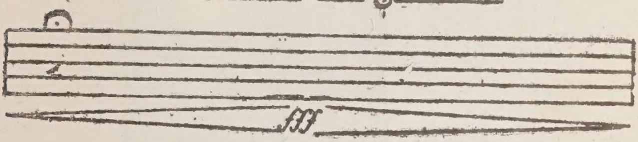
Lo stornello del morente



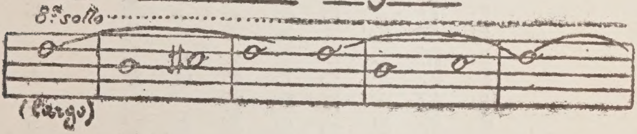
Lo stornello del medico



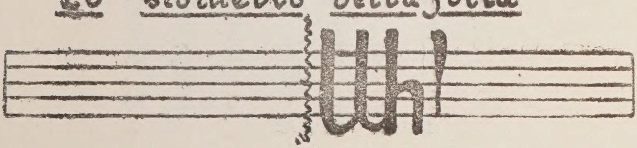
Lo stornello dei parenti



Lo stornello dei frati



Lo stornello della folla



と書かれた。かくてその新表現様式はローマの未來派の家に於て一九二二年一一月一一日マリネッツィによつて宣言され、一九二三年三月一一日ナポリからカンヂュルロは詩集を發行した。

ある私の尊敬する友達はこの詩を五根式文法詩と譯されたが、私は「五線詩」ぐらひの譯が却つてカンヂュルロの氣持を傳へはしないかとも思ふ。

カンヂェルロが自由語になしたいろいろの功績は、この稿の第二節で其他の人々の仕事と一緒に說かれるが、マリネッツィはこの五線詩について

「未來派詩人フランチュスコ・カンヂュルロによつて發明された五線詩は、自由詩又は自由語を、樂譜の五線上部中間下部に、該博な知識を以て配列し、かくて讀者及び朗讀者に左の效果を與へようとするものである。

一、凡ての言葉及び凡ての擬聲音の正確なる昇降(音樂的及び繪畫的)

二、面及び想起された風景の遠近法の累積。

三、リリズムの秘められた凡ての旋律によつて作られた力動的アラベスク。

四、詩と音樂との融合。」

と極めて適切な評と說明をして居る。

二　表現樣式としての未來派自由語

（註、私自身未來派自由語に甚大な共鳴と賞讃を惜しまないものである。其故もし自由な立場から批判する時は、決して公平な立論をなし得ないと思ふ。故に第二節は主として直譯的紹介法に據らうとする。）

（イ）文章法の破壞――生命の充實感を高唱する未來派、敵なければ自ら敵を設け、平安なれば自ら危險を作り、快速と勇武の生活を讃美する未來派は、其の第十四番目の宣言書「無線想像及び自由語」の中で、未來派の自由語に於ては文章法が何故に破壞せらるゝかを巧みに脫明して居る。

即ち

「教師達の馬鹿らしい定義などは氣にかけずに、私は貴方がたに云はう、リリズムは生命に醉ひ、吾々自らによつて生命を醉はす所の世にも稀れな機能であり、吾々を圍み吾々を橫ぎ

る所の生命の濁水を酒に變へる機能であり、吾々の移り行く自我の特別な色で世界を彩どる機能であると。だから若しかゝるリリックな天分を惠まれて居る貴方がたのお友達が（革命、戰爭、難船、地震等）の生命の充實する地帶に居て、そのすぐあとで、貴方がたに其の印象を語らうとしたと想像して御覽なさい。貴方がたのお友達はその話を始めるのに、全然本能的にどうするか貴方がたは御存じですか？　彼はきつと荒々しく文章法を破壞して話し、句點や形容詞の順序を無視し、物狂ほしい驅歩のまゝに凡ての視覺、聽覺及び嗅覺の感じを大急ぎで貴方がたの神經に投付けるでせう。蒸發する感情の烈しさは、句切りの管や、人達が螺桿のやうに規則正しくいつも整頓して置く句點や形容詞の孔瓣を破壞して了ふでせう。彼は自我の凡ての振動を表す事にのみ熱中して居るのですから、貴方がたは何等の因襲的な順序もない緊要な字の塊りを得るでせう。」

と書いた。

國語は生命を持つ、然るに文章法は死亡規則である。それ故國語を死亡から救ひ、國語自身が具へて居る進化性に順應する爲めには、時々文章法の破壞が必要である。

私は文章法を破壞せんとした未來派自由語が、今や壯大なる完成を見た今日、更に新たなる自由語によつて、破壞される事を期待してやまない。

（ロ）名詞――未來派は人類がホーマーから受繼いだ文章を全然破壞して、何等の色彩を帶びず何物の束縛をも受けない裸形の名詞を、その固有の價値に於て使用し、それが具體する凡ての表現性を獨立的に發揮させ、それの綜合されたオーケストラが文章であらしめようとする。

一例をあげると、マリネッツィ自慢の傑作 Battaglia PESO + ODORE の如きは Mezzo-giorno 3/4 flauti gemiti solleone **tumbtumb** allarme……（晝 3/4 笛 吠える聲 抱擁 **ツゥムツゥム** 警報……と云つた調子で全文壯大なオーケストラをなして居る。

そして名詞を裸形にして、それを續けて行くのは未來派以外のいろいろの詩人によつて今や餘りにひんぱんに採用されつくして了た。

そして又名詞が裸形でなくつかわれてもマリネッツィの自由語 Vulcani di Poesia 中の il mare siciliano metallo lucidissimo のやうな用法に名詞を用ふのは、巧みな效果だと思ふ。

しかし彼等は名詞を凡ての束縛から解放し終つて了ふと、その裸體の名詞を結付けて或綜合的な力動的な感覺を現わさうとし、その種の名詞を綜合的運動的名詞と名付け、普通の單一の名詞を初歩名詞と呼んで兩者を區別しては居るが、其等は直觀に於ては殆んど區別し難いやうに融合して了ふから、兩者の區別は絕對的のものではないと、彼等自身辨明して居る。

又未來派は名詞の價値を絕對にする爲めに「的」と「やうに」とか「の如き」とか「と同じく」とか「に似た」とか云ふ接續詞、接續句を廢し、更に物體とその物體が呼起すイメーヂを融合せさてそれを最も本質的な一語につゞめて表現したいとあせつて居る。

マリネッツィは Si, si, cosi（然り、然り、斯く）の中で、「太陽にのまれる」或は「太陽に喰われる」とでも日本語で云ふべき表現の時に太陽を sole-bocca（太陽—口）と書いて居るし、又常に藝術家の事を génie-createur（天才—創造者）と云つたりして居る。

（ハ）動詞——人類の凡ての所産を讃美し、科學の勝利を信じ、機械への愛を高唱した未來派は、物を見たり想像したりする作者の自我に、見られた物或は想像された物を從屬させずに、

其等には其等自らの生命の流動を主張させる爲め、及び動詞が主格に彈力的に順應し得る爲めに、不定動詞を使ふ事を喜ぶ。

運動を讃美する未來派の思想の根據の一部は勿論ベルグソンに在るのは確かであるが、運動に對する態度が甚だ熱狂的、盲目的であるのは、實に面白いと思ふ。それはマリネッツィが一九〇九年二月二〇日第一回宣言書の第四で

「第四、私達は、世界の榮光は一つの新しい美卽ち快速の美によつて富まされた事を宣言する。爆發的な息を吐く蛇にさも似た太い管で飾られた車體を持つ走り行く自動車……散彈に乘つて走るかのやうな吼える自動車は、サモスレスの勝利よりも更に美しい。」

と云つた如く、未來派の藝術の大半は、その力動感に根據を置いて居る。（ボッチョニが名著「未來派繪畫彫刻論」に別名「造形的力動主義」を註にかへて表紙に書き、或はこの運動の頭初に於て未來派と云ふ名をつける時に「未來派」と「力動主義」の二つが選まれた如きは、此の間の消息を傳えるものである。）

其故力動感を純粹に表現するものとしては不定動詞のみが、生命の持續の感じを與へ、生命

を感得する直觀の彈力性を表現し得ると云ふのが彼等の獨斷であり、最初の論據であつたが、マリネッツィは遂に一九一四年三月一一日宣言書「幾何學的及び機械的榮光及び數字感覺」に於て『對比及び旋律の變化に必要な場合の外は、動詞の「法」及び「時」は廢止さるべきである。』と斷言し、なほ

『不定動詞は新しいリリズムの運動其物である。何故なれば不定動詞は汽車の車輪又は飛行機の推進機の滑らかな柔軟さを具へて居るからである。動詞の種々な「法」及び「時」は、用心深いそして又人を安堵させる厭世主義や、挿話的偶發的な利己主義や、力や疲勞や欲求や幻滅の上昇や降下や、約言すれば希望や意思の跳躍の停止を表はす。不定動詞は樂觀主義其物を表現し、流動狂と絕對的寛大さを表はす。私が「走る」と云ふ時には、何がこの「走る」と云ふ動詞の主格であらうか？　主格は萬事萬物である。卽ち走る所の生命――吾々はそれの自覺ある一小部分であるが――の一般的發散である。』

と極めて暗示と獨斷に富み而も明確な主張を敢てしたが、更に語をついで

「不定動詞こそ、努力と行動の喜びから、慾得を離れて英雄的持續の流轉のたゞ中に沒入す

る熱情的な自我である。不定動詞イコール行動の神經である。」

と云ひ、この快速の讃美は一九一六年五月一一日に發表された「快速の新宗教道德」となり、その宣言書は一九二二年九月一一日に更らに增補の上發表され、遂に一九二三年一一月の「機械の藝術」（後出）となつたのである。

マリネッツィの自由語集 8 ANIME in una bomba の中で、彼が未來派騷音藝術の創造者ルッソロの研究室に入つて行く叙述の箇所で

「ボッチョニイとアルマンド・マッツァと一緒にルッソロの研究室へ入る。未來派騷音藝術のごちやごちやな綠赤紅」

と書いた直ぐあとで、何等の說明も叙景もなしに

Ronzare scoppiare ululare fischiare

（ブンブン云ふパチパチ云ふ唸えるシュウシュウ云ふ）

と不定動詞を一行に羅列した如きは、この極めて成功せる一例ではあるが、不定動詞の優れた使用法なら、未來派の作物の如何なる頁を開いても見られ得るのである。

（二）形容詞——初め未來派は「未來派文學表現樣式宣言書」に於て「裸形の名詞に、その本質的な色彩を保たせる爲めに、形容詞は廢止さる可きである。色合（ニユアンス）の要素を具へて居る形容詞なるものは、停止や默想やを必要とするから、吾々の力動的な見解とは相容れないものである。」

と云つたが、翌年マリネッツィは宣言書「無線想像及び自由語」の中で

『吾々は限定形容詞をどんな場合に於ても（譯者註、彼は同じ箇所で「出來得る限り」とも書いて居る。）除きたいと思つて居る。何故なればそれは直觀に於ける停止や名詞の餘りに微細な定義を豫想するからである。然しそれ等はすべて確然たる區別が有ると云ふのではなく、さう云ふ傾向が有ると云ふまでである。必要なのは、形容詞をなるべく少く、而も從來用ひ來つたとは全然異つたやり方で使ふ事である。形容詞をば、類似の進行程度に於ける跳躍、弛緩及び停止を司どるシグナルや信號だと見做さなければならない。さすれば人々は此の信號形容詞を二十も括弧の中で重ねる事が出來る。名詞から離され、括弧の中に孤立され、か

くて本來名詞と呼ばれ來つたものよりも遙かに廣い一種の絕對名詞に變化した形容詞をば、私は信號形容詞、行爲形容詞又は雰圍氣形容詞と呼ぶのである。』

と云ひ一九一四年三月一一日宣言書「幾何學的及び機械的榮光及び數字感覺」の中では更に

「一つ又は複數の形容詞を、括弧の中に、或は又自由語の端や、垂直線の後（卽ち音調の代りに）やに置けば、物語の雜多な雰圍氣や、物語を支配する雜多な調子を、たやすく表現する事が出來る。この雰圍氣形容詞又は音調（樂符の調子を指示する文字）形容詞は、到底名詞では其用を爲さない。』

と記し、なほその使用法に據れば、形容詞の凡ての弊害を除いて而も形容詞の效果を十二分に發揮せしめ得る事を縷述した。その極めて傑出した使用法を吾々はマリネッツィが後年發表した傑作"Dunes"に見る。今不可能をおかしてその第一頁を譯出する。

デュウン

自由語

カラヅック―ヅック―ヅック

カラヅック―ヅック―ヅック

ナヅゥイーナヅゥイ　アアアアアアアアア(繰返し)デュウン

デュウウウウウウン　　　太陽　　　デュウン

デュウン　　　デュウン　　　デュウン　　　デュウン

デュウン　　　デュウン

急激な	ヴゥウム	ヴゥウム　ヴゥウウム
まばゆい		デルブーカー　白倦怠　十
永久な	ヴゥウム	思想の響の羊毛
まばゆい		空の
機械的な	ヴゥウム	響き渡る毛藁詰込み
まばゆい		綿のやうな思出
異母の	ヴゥウム	太陽の旋轉する響
まばゆい	ヴゥウム	髓の
長調		太鼓　光の白熱山中の
まばゆい	ヴゥウム	黒い音のトンネル

石黄十銅一黄十十八基米突平方嘴管

（ホ）副詞——未來派は言葉を結び付ける古い鎹なる副詞を廢止しようとし、其の理由として副詞は文章や文句に無味乾燥な調子を保有させると非難して居るが、不定動詞を推賞する彼等の主張から見て、從來の意味の副詞が殆んど存在の理由を持たないのは、今更らしく未來派自身の説明を引用し、或は繰々説明するまでもなく明白すぎる事である。

然し若し形容詞が前述の如さ新しい使用法によつて、形容詞が因襲的に具體する凡ての臭味を脱してすばらしい效果を生み得るとしたら、副詞には形容詞にもまして自由な新使用法がなければなるまいと私は思ふ。

（ヘ）句點——マリネッツィ自ら

「形容詞、副詞及び接續句が除去されると、コンマや句點やの馬鹿げた停止もなく、己れ自らを創造して行く生きた文體のさまざまの持續に於ては、句點は自然に消滅する。ある運動を音を強めて發音し、或は或方向を指示する爲めには　×＋÷－＝＞＜　の數字記號や音樂

記號を使ふ。」

と云つて居り、これはマリネッツィの Zang Tumb Tumb やパオロ・ブッヂの L'Ellisse e la Spirale (Film + Parole in libertà) 等では驚く可き效果を示して居る。

そして或る見方によれば前述のフランチェスコ・カンヂュルロの五線詩も、この種の底徹さの一つの現われとも見られ得る。

未來派は積極的な破壞と建設に熱中して居た爲め、未だにそれには言及して居ないが、私達第三者が未來派の自由語によつて書かれた作品を見て感ずる事は、彼等のした句點の破壞が全然消極的な而も深大な意味をもあわせ持つて居る事である。

丁度沈默が饒舌よりも惡寫實よりも遙かに重大な舞臺效果を持ち得るやうに、更にモーパッサンの「水の上」が彼の苦惱と錯亂の爲めに往々にして文章法にもどり、其の破格亂調が却つて「水の上」に必須な凄慘の氣を與へて居ると云はれるやうに。未來派の自由語に於て、激しく充實し續けた生命の跳躍が突然空白となり、忽ち騷擾な擬聲音が始まり、生命が狂暴な凱歌をあげるあたり、私達は從來の文學に全然見慣れなかつた奇怪驚惑凄慘の氣が文中にみなぎるのを

感じないわけには行かない。

（ト）文章法の輕視

マリネッツィはすばらしい技工家である。

一九一一年三月九日 Association des Étudients に於てその會長ラファエル・バルキッソオがマリネッツィを會員に紹介する時に

「ラブレイの雄大な天分がフローベルの類ひないスタイルに於てマーテルランクの降神術の才能と結び付いた」

と迄激賞させた傑作を生んだマリネッツィは、更にステファン・マラメルの飜譯者であり象徴派の熱愛者であるマリネッツィは、文章法については類ひない敏感さを示して居る。

であるから、物を知れば知るほど物の眞相にふれた缺點が指摘出來るやうに、マリネッツィこそ、吾々から見れば實に立派に完成されて居ると思へるラテンの文法に、日も夜も足らぬ嫌惡と反感を持つて居るのである。

彼の後年（一九二〇年）の自由語「大旅館梨と黑中の猿」の第一行で

「今日は！　今日は！　何んと間がいゝんだらう！　俺は長椅子に友達の若いアメリカ人の夫婦の傍に腰をおろした」

と云ふ所で、夫婦を形容するのに「アメリカ人の」と云ふ男性形容詞にすぐにかさねて「アメリカ人の」と云ふ女性形容詞を用ひ、讀者に先づ友達夫婦のうちその婦人に筆者が重要さを與へて居るのを示してから、段々と筆者に與へられたその婦人の魅力を自由語的に表現して、遂に夫は眠り、筆者と婦人が密語を交し、遂に

「――動いたら殺しちやいますよ……殺しちやいます。ねえ、いとしししい方よ。それがよくつて？」

と筆者がそのあでなる婦人に云ひ切るに至る行動的心理的經過を表現したのは、實にあざやかな又實に見事にまで巧みな神經質な表現だと思ふ。

勿論徹底した未來派初期の自由語は、私達の賞讃を强要するけれど、それと同時にかゝる纖妙な細かな――文章法の破壞や文章法の自大の擴由にも、私達は感謝を捧げたい。

第三、未來派自由語に現はれた「文學の綜合藝術化」

（イ）無線想像――無線想像と云ふのは日本語としては餘りに奇怪で、其の眞相を傳へ難い。強いて云へば「天馬空を行く想像によつて、凡庸な頭腦の到底考へ得ない類似や同似性を、表面的に非常にかけ離れたものの間に見出して、その兩者を結び付ける事だ」とでも說明すれば少しはその面影を傳へ得るかも知れないと思ふ。

然し幸にしてマリネッツィは自ら定義を下して居て呉れる。卽ち『「無線想像」と云ふ言葉によつて私は文章法の導線も無く、何等の句點も無い短語によつて表現されたイメーヂ又は類似の絕對的自由を意味させる。

作家は今迄直接な類似に耽つて居た。彼等は例へば動物を人や或は他の動物に較べた。それは殆ど寫眞に類するものである。彼等は例へばフォックス・テリア種の犬を非常に小さな純血種の馬に較べた。更に進步した或者は、顫動する此の同じフォックス・テリアを、小さいモルス

の機械に較べる事が出來た。私なら其れを沸騰する水に較べる。かくて類似は益々其の範圍を廣め非常に距つては居るが相似は益々其の深さを加へる。類似は外見上相異り或は更に相反する所のかけ離れた物を結び付ける無限な愛に外ならない。かゝる非常に廣い類似を使つてのみ此の合奏的な且つ又多色多音多形な文體が、物質の命を包括し得るのである。』

と云つた。

かゝる立場から云へば、前記の「の如く」「に似た」等、等の接續詞、接續句は全然有害無益な微温劑に過ぎないが、未來派は此點で類稀れな徹底さを示して

「了解される事は必要ではない。」

と斷言するに至つた。

若し果して文學が未來派の主張通り完全に綜合藝術化し得るならば、この斷言は當然來るべき結論であつて、其の斷言は又動かす可からざる眞理を含むものであるが、其の點は今後何百年かの文學の發達を待つてのみ云ひ得る事と思ふ。

又未來派は從來古くから、動物や植物を人稱化する擬人法にあきたらずに、一九一三年五月

一一日發表された宣言書「無線想像及び自由語」の中で

(c)『遠く離れ又見かけは相反して居るものの間に新しい類似を見出す事によつて、吾々は、それ等のものを常により內面的に評價する。從來古くからされ來つたやうに動物、植物、礦物を人間化する代りに、吾々は文體を動物化し、植物化し、礦物化し、電化し、液化し、かくて物、物質の生命そのものによつて文體を生かし得るであらう。例『草の芽生は「俺は明日はもつと青くならう」と云ふ』。斯くて吾々は「凝結された變形」を得るであらう。』

と云ひ、マリネッティが「凝結された變形」なる異樣な文字によつて意味する「無線想像によつて結ばれた新合成語」の例をあげて

Le immagini telegrafiche—Le somme di vibrazioni.—I nodi di pensieri.—I ventagli, chiusi o aperti, di movimenti.—Gli scorci di analogie.—I bilanci di colori.—Le dimensioni, i pesi, le misure e la velocità delle sensazioni—Il tuffo della parola essenziale nell'acqua della sensibillità, senza i cerchi concentrici che la parola produce.—I riposi dell'intuizione.—I movimenti a 2, 3, 4, 5 tempi.—I pali analitici esplicativi che sostengono il fascio dei fili intuitivi.

（ロ）印刷術の革命――近來ヂャーナリズムの勝利と共に印刷術が大變化を蒙り、消極的及び積極的にアトラクツィーブである爲めにいろいろと技工をこらされるに至つた。

であるからアメリカのヂャーナリストであるエッヅァイはこの點に於て未來派に殊に甚大な共鳴をよせ、一九一二年五月一一日の未來派文學表現樣式宣言書を摘記抄譯したあとで

『此等はやたらに亂暴なやうに響くけれど、要旨に於ては、云はゞヘンリー・ヂェームス口調をやめて、近頃の際物雜誌の卷頭を重んずる事を意味するに過ぎない。

そしてヘンリー・ヂェームスの丹念にも錯雜させられた、うんざりさせる口調――即ち形容詞口調、副詞口調、際限のない形容法口調、「自我（エゴー）」口調の固守と擴張――は丁度アメリカの新聞ではとつくの昔から陳腐になつて了つて居るやうに、小說でもどんどん廢りつゝあるのは本當ではないだらうか？

そして簡潔な口調、名詞口調、新聞口調が、澤山の色や活字で刷られたペーヂと共に、益々人氣を得つゝあるのは本當ではないだらうか？

句點の事でも、やつかいなコンマやセミコロンは、自由なダッシに其の地位を讓つた。ついこないだの事、或る有名な文士がダッシを使ふ事を歎いた一文を發表した。彼は通俗雜誌の或る頁にあつた殆んど信じ難い程澤山なダッシを數へ立てた。そして彼の考へによると、それは凡てもつと正統派的な記號に代へらるべきものなのであつた。

然し正統派的な記號は餘りにのろい。近頃の會話は練りに練つた句や、完結された文章で動くのではない。その記號はダッシだ。何故ならダッシは考を突如として破るか、又はそれを次の話し手の言葉に渡すかするからである。』

と云ひ、この自由な思想をもつたヂャーナリストは更に

『非常にいやしまれたアメリカの「黄色紙」は「語勢を强める術」に於て有益な敎訓をたれ、その影響は新聞のみでなく現に雜誌の體裁にも現はれ、今後は本の體裁にも現れるであらう。』

と云つた。（註、エッヅォイの言說には聞く可き所甚だ多いけれど、正確を期する爲めに、出來るだけ未來派自身の材料のみに據らうとした私は、今それについて言葉を費す事をさける。）

しかし未來派が印刷術になした革命は必ずしも「效果」の藝術のみではなくて、その一半の動

機は純粋に表現の欲求に基いて居たのである。であるからマリネッツィが大體同一形式で（内容はかなり異つて居るが一見殆んど同一な）戀文を書いた時「ある美しい女からある過去派の紳士へ宛てた手紙」を黑で印刷し、「ある美しい女から未來派の紳士に宛てた手紙」を赤で書いたのは、實によくその氣持を現はして居る。

更に未來派は文章（自由語）をば未來派思想の未來派表現であらしめる爲めに、必要に應じては、一頁の中に三種も四種もの色を使ひ二十もの異つた字體を使つて直接に生命の凱歌をあげようとして居る。但し「イタリック」は、よく似た急速の一種の感覺を現す」とか「太字は荒々しい擬聲音を現す爲めに使ふ」とか未來派自身書いた區別は、餘り絕對的なものだとは考へたくないし、事實未來派はそんな區別に少しも拘泥して居ない。

フランチェスコ・カンヂュルロは煙と云ふ字を FUMER のやうに全然寫實的に書き出したが、ネルソン・モルプルゴは戀と云ふ字を書くのに

a mo re
a m o r e
a m o r e
a m o r e
a m o r e
a m o r e
a m o r e
a m o r e
a m o r e
am or e

と書いて、繪畫に於て屢々行はれる或種の幼稚な心理的寫實主義をとり入れた。

かくて一方では未來派の自由語による「文學の繪畫化」があり、他方では未來派立體派の畫家が畫面に文字を盛んに取り入れ始めるに至つて、舊來の繪畫とか文學とか云ふ便宜上の區別は事實上段々と曖昧になつて來た。

そして吾々第三者から見れば例へば一二の表現派畫家の畫を畫でありと云ひ、ネルソン・モルプゴやパオロ・ブッヂの自由語の或者を文學であると主張するのは、第三者から見ればほんの便宜上の區別に過ぎないと思はれる。

M

U

T O

H

D

R

A

L

更に未來派が繪畫的要素を文學に取入れた點で、マリネッツィは類稀れな徹底さを示して居る。即ち彼は名著「ザング・ツゥム・ツゥム」の中にあるやうに長文中のたゞ一語 Mutohdral を一頁に旋律的に並べて、單に從來の意味で繪畫的な表現をし、その形を直接に印象させようとしたのみでなくて、立體派の全盛期にパブロォ・ピカソ其他の天分ある立體派の畫家がなし遂げた造形音樂(造形音樂と云ふ新造語については拙著「藝術の理解」を御參照下されば幸甚)の一例とも云ふべき優れた作品をさへ創造した。

また前述したフランチェスコ・カンヂュルロの五線詩もこの節には忘れ得ないものである。

(ハ)擬聲音――擬聲音の發達は、言語の發達と共起源を共にして居ると私は思ふ。否言語は擬聲音から發達したものではあるまいかとさへ、私は秘かに思はずには居られない。

であるから擬聲音の使用は必ずしも未來派に始まつたものではない。そして未來派が未だ發生しなかつた當時のマリネッツィの處女作「星の征服」に於てさへ、擬聲音が重大な役廻りを演じたのは、本編の第一に既にのべた。

後一九〇九年四月フィレンツェから出版された詩集〝Poemi〟の中ではアルド パラツェスキは詩「病める噴水」の第一行を

Clof, clop, cloch,
cloffete,
cloppete
clocchete,
chchch……
E' giú nel
cortile,
fontana
malata;

と書き初めた。

マリネッツィの傑作「ザング・ツゥム・ツゥム」の主要部分は擬聲語であつたし、フランチェスコ・カン

チェルロは Canguillopiedigrotta の中で

Tarantì tarantè tarantà

TARANTELLA

と書いて、その歌とおどりを如實に表現する爲めに、タランチッラなる踊りの名を、却つて擬聲音的に變化させるに至つた。

事實未來派はその第一回宣言書の結論第十一に於て

『一一、勞働や快樂やまたは反抗によつて刺戟された大群衆を、近代の首府に於ける革命の多色多音なる波打ちを、電氣の亂暴な月の下の兵器廠や造船工場の夜の振動を、烟吐く蛇の貪り食ふ慾深い停車場を、その烟の束によつて雲にまで連らなる工場を、體操家のやうに、日に輝く河の兇惡な刄物を飛び越える橋梁を、水平線を嗅ぐ冒險的な郵船を、長い管で緊められた鋼鐵の巨大な馬にさも似てレールの上を足踏する大きな胸の機關車を、推進機が旗の音や熱狂した群集の喝采に似て居る飛行機の辷り行く飛翔を、吾等は歌ふであらう……』

と云つた時、吾等は既に擬聲音が未來派文學の主要な素材となるであらうと推察したのである

が、首将マリネッツィがツゥリポリの戰爭に從軍するに及んで、彼の文學は全然オーケストラとなつて了つた。

しかもマリネッツィは一九一二年八月一一日に發表した未來派第十番目の宣言書「未來派文學表現樣式宣言書補遺」の第八で

「因襲的な區切りの破壞、形容詞副詞及び句點の廢止は必然的に文體の餘りに名聲赫々たる調和の破産を惹起し、かくて未來派詩人をして、遂に、動き行く物質の無數な音響を再現する最も不協和な擬聲音すらも、利用させるやうにした。」

と云つたが、翌一九一三年三月九日バリッラ・プラテッラの未來派音樂が彼自身の指揮でオーケストラによつて演奏され、ローマのコスタンチ座に集つた四千の聽集を熱狂させるや、そこで靈感を受けた未來派畫家にして音響學者なるルイヂ・ルッソロは一日おいた一九一三年三月一一日未來派宣言書「騷音藝術」を發表した。

今本論に關係ある事項についてのみ云へば、彼はマリネッツィがアドリアノープルのブルガリアの塹壕から彼にあてた擬聲語に富んだ自由語による手紙——ルッソロの言葉によれば「未來派

マリネッティの思想の直接に基いて、の新様式によつて大戰爭の「オーケストラ」を書いた手紙を——引用したのみでなくて、

「音樂は最初は音の透明甘美な純粹さを求めた。其後音樂は異つた音を融合させ、爽な諧調によつて耳を娯ませる事に苦心した。今日では音樂は、最も不協和な最も、奇異な、最も耳をつんざく音の混淆を求める。かくて吾々は「騷音」に近づく。音樂のこの進化は、人間の勞役に協力する機械の末擴り的增加と平行するものである。大都會の騷然たる中にあつても、將又曾つては靜寂に眠つて居た田舍にあつても、機械はかくも多數の異る騷音を創造し、純粹樂音はその音が低く小さいのと單調なのの爲めに最早何等の感動も起させないやうになつた。」

と云ひ、更にその結論の七で

『七、騷音の種別は無限である。確かに吾々は今日千以上の異る機械を持ち、その千以上の異る騷音を聞きわけ得る。そして新しい機械が不斷に增加して行くにつれて、吾々はいつかは一萬、二萬或は三萬の相異る騷音を聞きわけ得るであらう。されば吾々のなすべき事は單に此等の騷音を眞似るのみでなくて、吾々の藝術的空想に從つてそれを結合する事である。』

ける未來派詩人の願ひであり、その實現は擬聲音を通じてのみ可能であつたのである。

と云つた。そしてそれは騷音藝術に於けるルッソロの願ひであつたと同時に、未來派自由語に於

されば翌年マリネッツィは

『物質に對する益々增大し行く吾々の愛や、物質の奥底を極め吾々を發動機に愛着させる所の物質の振動や物理的交感を知らうとする願ひは、吾々をして常に益々多く擬聲音を使はせるやうにする。音響は走り行く固形物や瓦斯體の衝突によつて生ずるものであるから、音響を再現する擬聲音は、必然的に詩の最も力動的な要素の一つである。かゝる擬聲音は不定動詞に代る事が出來るが、ことに若し一つの擬聲音を一つ又は複數の他の擬聲音に對立させて使ふ場合には其效果は更に大である。(例、私のザング・ツゥム・ツゥムの中の「橋」の章の末尾に於けるトルコ人のウラアーに對立する機關銃のタタタタタタ)擬聲音の簡潔さは、此場合に、異つた旋律の非常に圓轉滑脱な結合を創らせて呉れる。然るに若しそれを、十二分に發展させて了つて最も抽象的な方法で換言すれば擬聲音なしで表現する時には、速力の大部分は失はれて了ふ。』

と云ひ、更に語をついで擬聲音をば

(一)直接な、模倣的な、簡單な、寫實的な擬聲音
(二)間接な、複雜な、類似的な擬聲音
(三)抽象的擬聲音
(四)物理的擬聲音的一致

の四種類に大別して

『(一)、直接な、模倣的な、簡單な、寫實的な擬聲音はリリズムに荒々しい眞實性を加へ、リリズムが過度な抽象や過度な藝術的優雅に陷入るのを防ぐ。(例へば小銃射擊のピック・パック・プウムの如し。)更に直接な擬聲音は綜合の有力な方法である。私が「ザング・ツゥム・ツゥム」の一節の「戰時禁制品」でムーズ川の曳船の音を再現したスヰイイイイイと云ふ銳い擬聲音は、對岸の反響のフイイイイ　フイイイイと云ふぼんやりした擬聲音を伴つて居る。この二つの擬聲音は、sとfの子音の對比で、長々と川を叙述する面倒を省いて吳れた。

(二)間接な、複雜な、類似的な擬聲音(例へば私のデュウン)(註一九一頁參照)ではヅゥウム・ヅゥ

ウム・ヴゥウム・ヴゥウムと云ふ類似的擬聲音は、アフリカの太陽の廻轉する音と、空の橙色の重さを表はし、かくて重さ、熱、色、香の諸感覺の間に關係を創る。）（なほ一例を引くと私の叙事詩「星の征服」の第一篇中に繰返される擬聲音 Stridionlà stridionlà stridionlaire は、劍の銳い音と、暴風の爲めに水が大戰歩を始める時の波の激動との間に類似を作る。（譯者註、この字はマリネッツィが stridence 卽ち「銳い音」を轉化させ、かたがた發音を利用して擬聲音としたものである。自分は語源學の知識が無いから、何一つ云へないけれど原來 stridence そのものも擬聲音から發達したものではあるまいかとも思ふ。）

（三）抽象的擬聲音は吾々の感覺の甚だ複雜な又神秘な運動の非意識的發音表現である。例へば、私の詩デュウンに於ける抽象的擬聲音ラン　ラン　ランは何等の自然音にも、又機械のどんな音にも相應しないで、或る心理狀態を表現する。』

と丁寧に說明して居る。

一九一四年三月一一日に發表された「幾何學的及び機械的榮光と數字感覺」と題する宣言書では、以上三種の擬聲音にのみ說明を加へて第四の「物理的擬聲音的一致」については、單に名を

掲げたゞけで一語の説明もない。そして一九一九年に發行された單行本「未來派の自由語」に於ては擬聲音は以上の三種になつて了つて、第四分派の「物理的擬聲音一致」は其の名さへ留めて居ない。然し若し私が今採つて居る直譯的紹介者の態度から一歩でも踏み出す事が許され得るなら、私はこの第四分派こそ未來派が現在「抽象叙述」と呼んで居る表現法にまで發達し來つたものだと考へたい。

（ニ）抽象叙述――抽象叙述と云ふ譯字の適否は兎も角として、抽象叙述と云ふのは全然日本語になつて居ない感がある。然し幸にもマリネッツィはこの新造語を説明して吳れて居る。卽ち『「抽象叙述」と云ふ言葉で私は、的確な意味はなく、ひとりでに組立てられ、結合させられた不協和音を使つて、吾々の雜多な心理狀態を表現する事を意味させる。一例をあげると、私は次の抽象叙述によつて自動車中の一人物の快速感及び方向感を表現した。

mocastrinar　fralingaren　doni′　doni′

doni′　×　×　＋　×　vronkap　vronkap

×　×　×　×　×　anglò　angolì　angolà

angolin vronkap + diraor diranku

falasò falasòhhh falasò picpic

viaAAAR viamelokranu

bimbim nu rang = = = + =

rarurrà viar viar viar

と書いた。(註、この「抽象叙述」はマリネッツィの自由語「マルヌの役後、ジョッフルが自動車で戦線を訪ふた」の中の右下部に用ひられて居る。尤もその時は「路の力動的口述」と銘打つて

mocastrinar fralingaren donì donì

donì × × + × vronkap

vronkap × × × × × angolò

angolì angolà angolin vronkap

＋ diraor diranku falasò fala-
sòhh falasò piepic viaAAAR
viamelokranu bimbim
nu vanu = = = ＋ =
rarumà viar viar viar

と書かれて居る。）

（ホ）順序の自由——國語の美しさは異邦人には到底理解し難い。然し若し私達異邦人から見て、英語の美しさが前置詞に在るとすれば、ラテン系統の言葉の美しさは「順序」に在るのではあるまいか？

その駘蕩漂流、風のまにまに綠波をすべり行く扁舟の如きラテン系統の言葉の美しさも、若しも順序がかくも微妙に具體されて居なかつたなら、その統一と純眞と典雅を保つては居られ

ないやうに思へる。

然し未來派にとつては、それ等は殆ど一顧にすら値しないやうに、彼等は言葉を極めて最大限の混亂を讃美し、凡ての順序は徹頭徹尾疑ひ深い理知の產物であると斷定して居る。

然し彼等の自由語とフランスの自由詩の關係を省み、主將マリネッツィと象徵派の詩との餘りに密接な關係を知るものに取つては、その間に無限の興味をそゝるものがある。まして吾々異邦人ですら愛誦やむ能はざる哀調を帶びた美しい詩「ミラボオ橋」を歌つたギーヨーム・アポリネイルが、いくら未來派の感化を受けたと云つても、遂に「象形（カリグラム）」を出し、音と繪畫との合一をしようとするに至つた事を考へ合せ來ると、「反對なものには魅惑を感ずる」と云つたかのボードレトルの言葉を今更らのやうに想起しないものが幾人か有り得やう。

（へ）數字感覺——多年科學の勝利と物質文明の榮光によつて人類の感覺を根本的に革新したいとあせつて居た未來派は、その第十八番目の宣言書「幾何學的及び機械的榮光と數字感覺」を發表するに及んで、その態度を徹底的に明確化する事が出來た。

そしてその中の一部で主將マリネッツィは

『正確と緊要な簡潔に對する私の愛は、私の新しい數字感覺を經て、生命あるものの如く紙上に生き呼吸する數字に對する趣味を、自然的に私に與へた。例へば因襲的な作家のやうに「廣く、奥深い鐘の音」(不正確な表現性に乏しい敍述法)と云ひ、或は賢い田舍の人のやうに「某々の村の住民はこの鐘を聞く」(より正確な、より表現性ある敍述法)と云ふ代りに、私は直觀的な正確さを以て鐘の音を感得し、その音の響き行く廣さを定めて「ドンダン鐘音の廣さ二十キロメートル平方」と云ふ。かくて空氣の振動する範圍と、鐘のその音に耳を傾ける遠方の人の總數を表現する。私は不正確を避け、金屬の振動其の物を變形させる故意な行爲によつて、眞實をつかむ。+ - × = のやうな數字記號は、すばらしい綜合に達するに役立ち又沒我的齒車仕掛の抽象された簡單さによつて、終局の目的なる幾何學及び機械的榮光に達する事を得せしめるやうに協力する。其故 "horizon = vrille aiguiiiiisée du soleil + 5 ombres triangulaires chaque côté 1 Km. + 3 losanges de lumière rose + 5 fragments de collines + 30 colonnes de fumée + 23 flammes." と云ふ決定的敍述方程式が表はす複

雜な戰爭の非常に廣大な場所を、不完全にでも表現する爲めには、因襲的な叙述法に據れば一頁餘も必要となるであらう。私は思想の疑問停止を示す爲めにxを使ふ。そして私は疑問記號を省く。疑問記號は、疑問的雰圍氣を、餘りに專斷的に、意識の或る一點だけに限界して了ふからである。數學的なxによると、疑問的停止は自由語全集團の上に擴がる。私は自分の直觀に從つて、直接な意味や價値を持たずに、(數字數感覺に音的に視覺的に訴へ)かくて物質の相異る超越的强度と、感覺が共等になす管理し得ない答へを表現する所の數字を、自由語中に挿入する。私は直觀的に選ばれ、言葉の眞中に置かれた數字を挿入する事によつて眞の定理や叙述的法定式を創る。若干の＋－×＝によつて私は、言葉が表現しなければならない所の物の厚さや形を表現する。＋－＋－＋＋×の配置は例へば或る自動車の速力の變化及び加速度を表はすに役立つ。＋＋＋＋の配置は等しい感覺の堆積を表はすに役立つ。』

と書いた。

パオロオ・ブッヂの著書フィルム＋自由語「省略法及び螺旋」の中の各章が一々何メートルと指

示され、或は表題が

$$X=-\frac{p}{2}\pm\frac{1}{2}\sqrt{p^2-4q}+o:r\Pi a::r:a=r=\frac{2\Pi}{o}$$

と書かれ、その細別された各章の表題は一々

La　diana　enarmonica

$$\tilde{S}_a dv\left\{\frac{1-\sqrt{1-\frac{D}{r}}}{rv}\sqrt{v^2v\left(1+\frac{D}{r}\right)-2D}\right\}$$

のやうに記されたのは、マリネッツィの主張した數字感覺の或種の徹底とも考へ得ると思ふ。

(ト)「抒情的價値の一覽表」――未來派は從來文學の精粹であり寶玉であると尊ばれ來つた詩歌をば弛緩冗漫讀むに耐へないものだと一蹴し去つて、內容に於ては最も流動性と表現性と爭鬪と快速と彈力と騷音と新鮮の氣に豊み、表現方法に於ては正確、簡潔、率直、快速を誇る自由語を創始したものであり、一九一五年一月一一日「未來派綜合劇宣言書」を發表するに際して

も一單に一頁で充分に表現し得る場合に百頁も書くのは愚である。」と公言した未來派は、自由語そのものが一瞥で十二分に效果を收め得るものにしたいとあせるのは當然である。

カッラの著「戰爭　繪畫」の中に

平和的非愛國者

の

四典型的範疇

教授
淫賣
僧侶
社會主義者
＝
公共の場所
陰門
迷信
凡庸
の
報ひられたる
國際主義

と書かれたごときは、煽動的目的を持つたこの種の文章としては、極めて成功した一例だと思ふ。

然るに未來派はその自由語の表現樣式の中に、かかる自由語本來の要素を發揮させたものの外に、比較的不自由且つ束縛の多い「抒情的價値の一覽表」なる特殊の表現樣式を加へ『自由語の中で時として吾々は「抒情的價値の一覽表」を作る。その一覽表を同時に讀むならば、吾々は數箇の交叉された或は平行な感覺の流れに從ひ行く事が出來る。此の一覽表は自由語の追求の主要目的であつてはならないが、リリズムの表現力を增大する一手段であるべきである。だから凡ての繪畫的思案を避く可きで、奇怪な線や奇妙な組み方や印刷やの遊戲に耽つてはならない。』と說明して居る。此の說明は少しく獨斷に失して不當のやうにも見へるけれど、未來派は此種の表現樣式によつても多數の立派な作物を書いて居る。

（チ）未來派自由語の勝利

未來派自由語は今や文學の常識となつて了つた。私達は未來派自由語がどんなにうのみされたかを立證する爲めにダダや立體派の詩を引用する要はない。

かつて正統派の文學に巨石を投じた未來派の自由語の主張は、今や目立たない程靜かに而も自然的に正統派の文學そのものとなりつつある。

されば吾等青年は今、新なる未來派を要求する。（大正十三年十月十四日稿）

相ついで（自由語）

エッフェ・テ・マリネッティ作

相ついで（自由語）

エッフェ・テ・マリネッツィ

相　つ　い　で

青い不在

赤い意志

薔薇色の誓

心痛ましむるばかりに灰色
すなはち

上
に
横
に

然し
然し

そのくせ
やみは
怖ろしい陰謀を
準備する

故に
餘りに赤い
とは云へ

まことしやかに
餘りに黒い

ブルガリアの飛行機（自由語）

エッフェ・テ・マリネッツィ作（譯）

ブルガリアの飛行機

二つの宙に懸る圓形物の

無　關　心

撃　留

氣球＋太陽

巨大な焔　煙の圓柱　火花の螺旋

兵火に罹つたトルコの町

大きな　T

ブルガリアの單葉飛行機の音（プラープラープラープラープラープラ）＋小さい宣言書の靜かな雪

吾々ブルガリア人は適當に政治を行ひ得ないトルコ政府と戰をする。吾々は回々教の人々に反對するものでもなければ流血を欲するものでもない。アドリアノープルは各方面から包圍されて居る。コンスタンティノープルの路は遮斷されて居る。アドリアノープルは何所からも救ひを受ける事は出來ない。かゝる狀態にあつて何故貴方達はなほ血を流す事を欲するのか？千餘の大砲はアドリアノープルに向けられて居る。若し市が降服しないならば完全に破壞され蹂躪されて了ふであらう。

一九一二年一〇月三〇日晩五時ブルガリアの一飛行機によつて撒かれた宣言書。

印象派から未來派へ

印象派から未來派へ

普通に未來派の繪畫は從來の美術史からは全然獨立してゐるものだと考へられ、未來派の藝術家自身も、しばしばかゝる言論を發表してゐる。更に好意ある批評家は未來派の出現が繪畫藝術の根本的な革命であつたと說き、反對者は未來派の繪畫が低級な反抗藝術に過ぎないと見てゐる。

勿論未來派には各種の部門があつて反抗藝術に屬さるべきものもあるが、少くとも繪畫の關係する限りに於ては、それは多く事實ではない。

啄木は「わが病のその因るところ深く且つ遠きを思ふ。目をとぢて思ふ。」といつた。かういふ意味から云ふと、立體派の驍將メッツィンヂェが「立體派の意義を知るためには、先づギュスターヴ・クールベに遡らなければならない」といつたのは未だ不足であり、同樣な意味で未來派のボッチョニイが文藝復興期から說き始めたのも未だ完全ではない。然し若しも私達が立體派がセ

ザンヌの表現様式の追究であつた事實を公平に認容するならば、また同様に未來派が印象派の發展であつた明かな事實を見逃がしてはならない。

こゝに附言するまでもなく何等かの意味で巨人セザンヌに影響されてゐない現代の美術は存在しないから、未來派も單なる印象派の發展に止まらずに、種々セザンヌの遺業を研究しても居、現にカッラは「セザンヌから吾等未來派へ」といふ一文を書いてゐる。然し正當な美術史から見れば、未來派がセザンヌから受けた影響は殆どすべての現代の畫家より少く、立體派がピカシズムの影響の下に、セザンヌからヅゥランを經て生れたやうに、未來派はセザンヌや立體派の影響の下に、印象派に直接に基いて生れたのである。

△

印象派に於ては何よりも先に太陽が出なければならなかつた。光が滿ちてゐなければならなかつた。太陽を飽く事なく讃美し光や色の狂亂の中におどつた人達のあとで、靜かに薄暮のこよなき時に泣き伏した月の病人の一人であり、畫を描く時には黑眼鏡をかけたとかからかはれた程なカリエールさへ「畫は光の合理的な發展である」といつた。然し同じ肖像を描く時でもきら

びやかな晴衣を避けた彼の神經が――勿論それは個性によるのではあるが――如何なる時代の反動によつて强められたかを考へる時、私達は總ての印象派の畫家を通じて色と光の惑亂があつたのを知る。

「繪の主要な人物は光である」といつたマネよりも遙かに强く「セイヌ」の河岸を捨てゝ日光の怒り猛る果しない砂漠を戀したモーパッサンのやうに、畫題にしても室内よりは野外に、灰色の見すぼらしい村落や濁つた空よりは色と光の淫らにも躍る南國へと、ひた走つた。繪具としては綠の發見に驚喜してゐた人々は薔薇や橙色の溫かさを喜び、刺戟を求めて飽く事を知らない畫家の作品は、混ぜられない赤や黄や靑の輝かしい光の中に躍つた。

かくて遂にすべての固有色は完全に否定され、色は光の相對關係の下に置かれた。

しかるに未來派はすぐさまこれを採用してゐる。卽ち未來派畫家宣言書の中で彼等は「未來派畫家の新しい美を理解し會得するためには、心を純化し、眼から問歇遺傳や敎養やの被を除き、かくて遂に美術館でなくて自然だけに、指圖されるやうにならなければならない。

さすれば最早人々は自分達の皮膚の下を褐色が流れた事などはないとわかり。黄色が吾々の

肉に輝き、赤が燃え、綠や青や紫が、歡樂と心を奪ふ美しさの限りをつくして舞ひ躍るのがわかるであらう。

夜の生活のために吾々の生活が二倍となり、かくて色彩感覺が倍加された今日、如何にして人間の顏を薇薔色に見る事が出來やう？　人間の顏は黃と赤と綠と青と紫である。」といつた。

勿論色に、ひいては畫面に最大の輝きを與へるのは何も印象派と未來派の專賣ではない。それはシニャック自身もいふ通りヅゥラクロアから印象派を經て新印象派に至る最大の目標であつた。

然し一八二四年サロンに「シォの虐殺」を出すに至つて「繪畫の虐殺」だと罵られたにも憶せず、翌年は更に「すべての畫の敵は灰色である」といひ「總てのくすんだ色を遠ざけよ」と叫んだヅゥラクロアさへ、因襲と時代思想と美術館に束縛されて、後年彼の畫面が最大の輝きを得た時ですら、彼のパレットは原色の外にいくつかのすくんだ色を含み、しかもそれさへ「ヅゥラクロアは繪畫に新しいパレットを持來らしたが、それを使ふ事は出來なかつた」と低能兒ライトにいはれた程であり、その繪具の效果は依然としてパレットの上で組立てられてゐた。

かくて畫家のパレットが純粹に黄、橙、朱、赤、紫、靑、綠から組立てられたのはヅゥラクロアの死後十二年たつた一八七四年以後の事であり、この種のパレットを使つた印象派の畫家の畫面の輝きは遂に「視覺による混合」に賴る新印象派によつて完全にされた。

併し未來派が出現すると未來派は、畫面の效果は畫面を構成する色彩の輝きによるばかりでない事を察し、印象派が色と光のみに許した固有色の否定を固有形の否定にまで押し進めた。卽ちボッチョニイは「印象派の畫家によつて、石も木も動物も、形殊に色をかへ始めた。そして重大な事には、形象はその感傷的な價値を失ひ始めた。かくて印象派の主想は創られた。いかにも臆病な足どりではあつたが、物は旣にそれを圍む雰圍氣の核心となつて來た。そしてこの雰圍氣は造形し得るやうになり始めた雰圍氣の振動である。かくて物は容積卽ち奧行を失つたが、常に新しい物體卽ち雰圍氣を征服し創造した。玆に於て初めて物體は生命を得、お互に影響し合ふ雰圍氣を含むやうになつた、玆に於て初めて、吾々がゐる牧場の綠色がひよつとした具合で晒時の優しい頰に見え、吾々が腰を下してゐる長椅子の赤が吾々の着物に見えるやうになつた。三十年前に印象派に於て色に限られたこの交錯と同存が起り、それは更に形の交錯と

同存に進化した。そしてこのかくも合理的であり、かくも明かな進化は、俗衆が未來派畫家に浴せかけた所の嘲罵と兇惡な敵意とを惹起したのである。」といつた。

かくの如くして美術史上、立體派がした固有形の否定とは全然違つた方面から、固有形は初めて否定された。

△

印象派のモネは雰圍氣や生命の流動について深い考慮こそ持つてはゐなかつたが、光を熱愛し光の魔術に眩惑されてゐたから、時間によつて畫布を代へまた光の同一な效果を欲して同じ時間に働いたといはれ、歴史家もモネが一日に二十枚の畫布を代へた話さへ傳へてゐる。然し印象派の經驗的感覺論を受入れると、どの瞬間にも變化し流れてやまない現實は、各瞬間ごとに完全な仕上げに達した畫を一枚づゝ生んでゐなければならないといふ技術上の致命傷があつた。然し運動を愛した未來派は一方同存を力說しながら、低能にも時間的な瞬間のいくつかに於ける物の形ちを連續的に記して一つの運動系統を作らうとし、更に或者は動體が通過しまたは通過すると豫想された運動の示方向線上に、動體が通過した空間とその刹那の網膜にうつる

形、色、線を適合させ、或畫家は趣味的にそれを不秩序に亂道する事で始めた。

而も未來派の努力によると、時間を測定する絶對の物質的標準はないから、網膜が許す限りの最短時が單位として採られ、その單位を複數にして活動寫眞的效果を一時に收めようとした。かゝる標準は、印象派であると、美や輝きや印象の强さに求められ、更に因襲的な美醜感に飽々した或者は總ての現實が現實として同價値であると思ひ出して全然異つた時間的な標準に趨つたのであつたが、未來派となると、印象派が採つた標準をそのまゝ複數にして、單一の畫面に同存させた。

しかもその一つづつの瞬間についていふとメッツィンヂェが「印象派に於てはクールベよりも、網膜は一層强く頭腦を支配してゐる。」と非難した印象派の經驗的感覺論は、そのまゝ無反省に未來派に受入られてをり、この點では『六、七年ばかり前にドーレ畫堂で多數のイタリア未來派の繪畫彫刻の展覽があつた。それ等を見ると未來派は實際「活動寫眞」を印象派か、せいぜい立體派に適用したものだといふ結論に贊成したくなる』といつたマリオットの批評こそ多分の眞理を持つてゐる。

更に、ライトが「光はデッサンを氣化する」といつた印象派の最大な特長は、同時に形體の研究者である立體派からは「印象派の藝術は不合理を含んでゐる。雜多な色を使つて生命を創らうとしながら、デッサンを强めくだらないものにして了つた」といはれ、同樣な見地から未來派も盛んに印象派を攻擊してゐるが、あにはからんや、印象派が光を取扱ふ時に使つた幼稚な經驗的感覺論を、未來派は運動を取扱ふ時にすぐに採り來つて「吾々は、運動と光とは物體の物質性を破壞するといふ事を公言する」といつた。

更に未來派は、異つた瞬間が各別に物體と雰圍氣との合一體を持つとする印象派の考を認容してゐるから、然らばいかにして多數の各別の合一體が單一の畫面に同存し得るかといふ問題が出て來るが、それについては、未來派の貧しい怜悧は「記憶も感覺である」といふ思想にかくれてゐる。

一體未來派繪畫には詩人マリネッツィの思想が多分に加味されてゐるものであるが、彼の感覺論は未來派の繪畫を印象派の上に礎き上げようとしたボッチョ二イ一派の畫論と明快に合致したのである。

其故、未來派は、ボッチョニイの所謂未來派作品の第一の組をひつさげて未來派繪畫の世界化を企てた時の目錄にも「吾々は印象派を振棄てるが、同時に印象派を殺す爲に繪畫を古いアカデミツクな形式に返させやうとする現代の反動を、力を込めて否定する。印象派に反抗するためには、印象派を乘り越へてさきに進むより外に途はない」といふボッチョニイの言葉を挿入し今に至るまでボッチョニイのこの努力が未來派に於て尊しとされてゐるのである。

△

一つの表現樣式が興る事にはさまぐの動機と必然性があり、單なる反抗とか追究とか云ふ言葉で現はすのは往々にして危險である。しかし、少くとも未來派の他の部門及び「吾等美術館を圖書館を破壞し道學主義と婦人主義とすべての筒井順慶主義的並びに巧利主義的怯懦と戰はんとす」といふマリネッツィの宣言の一部その他を根據として、未來派發達のすべての歷史を無視して、未來派繪畫に反抗乃至革命藝術の商標をはつて了つた在來の美術史は宜しく訂正さるべきである。

勿論未來派の繪畫は發生以來既に十餘年をけみしボッチョニィの死後その流れをくむ一派の外

に多數の有能な畫家を包含し、營々として各種の研究と創作に耽つてゐる。

しかも丁度立體派の美學者アポリネイルがその著「立體派の畫家」の中で立體派を四つに分派に分つたやうに、一九二〇年の「ローマ・フツゥリスタ」紙上で未來派畫家デノ・ガルリは未來派繪畫を四分派に分ち、私自身も今後何にかの機會があつて未來派繪畫やゝ詳細な紹介をする自由が持てた時には、その四分派について詳說したく思つてゐるのは事實である。

しかし正當の美術史に於ては、未來派が印象派に基いて直接に發生した事實は、到底打消しがたい。ボッチョニイ死し、世界はレオォルド・ダ・ヴィンチ以後の最も明快な頭腦を持つた畫家を失つて、既に五、六年となる。然し彼を待つて始めて可能であつた印象派の發展は、私達、日夜よりよい。より自由な、より榮光ある藝術を生まうと精進してゐる者の前には、無限な敎をたれてやまない。

私は今、間違つた美術史を訂正すると共に、この一人の天才に對して感謝の辭を捧げる。

（朝日新聞一九二三年二月所載）

未來派宣言書八篇

（譯）

未來派宣言書

本宣言書は未來派の基本をなすものであるが、その全譯は拙著「藝術の理解」に收められて居るから、參照せられたい。

なほ同書には未來派飛行家アザリの發表した宣言書「未來派空中劇」の全譯もあるから御參照下されれば幸甚。

本書には重複をさけて共に除外した。

未來派畫家宣言書（譯）

一九一〇年三月八日、トリノのキアレルラ座の舞臺から、吾々は三千の公衆——藝術家、文學者、學生、彌次馬——に向つて第一回宣言書(註、一九一〇年二月一一日に發表されたManifesto dei pittori futuriste の事で、その宣言書には、ボッチョニイ、カッラ、ルッソロ、バッラ、セベリニの五人が署名して居る。)を投げつけた。その第一回宣言書は、野卑や、官學的及び衒學的凡庸や、古いものや虫ばまれたものなら何んでも盲目的に有難がる事やに對する吾々の深大な嘔吐や、尊大な輕蔑と反逆とを含む所の亂暴にして抒情的な塊りであつた。

それによつて吾々は、一年前フィガロ紙上でエッフェ・テ・マリネッツィによつて始められた未來派詩人の運動に加盟したのである。

トリノの戰は昔噺として残るやうになつた。イタリア藝術の天才を悲しむべき死に陥入らせないが爲めに、吾々は思想を交換すると共に殆んど同數な拳固の毆り合ひをした。

今やこの驚くべき爭鬪が暫時休戰となつた合間に、吾々は、既にミラノの未來派展覧會が輝

くばかりの表明をなした所の、吾々の繪畫革新計畫を、技工の方面から詳しく説明しようと思ふ。

彌增して行く眞理の欲求の爲め、吾々は、今迄了解されて居たやうな形や色では最早滿足出來なくなつた。

吾々が畫布に再現しようとするのは、普遍的物力論の或る固定した瞬間ではなくて、純粹に力動感覺そのものである。

實に、凡ては動き、すべては走り、凡ては迅速に變化する。横顏は決して、吾々の前にじつとして居るのではない。それは絕間なく現はれ、消へる。網膜に於ける映像の永續と云ふ現象の爲めに、運動中の物體は自らの數を增し、映像が次から次ぎと續いて來る爲めに、形はくずれる。それは急激な振動が空間に於いておこす現象と同じである。例へば走り行く馬は四本ではなくて二十本の脚を持ち、その足の運動は三角形である。

藝術に於ては凡てはコンベンショナルなものである。何物も繪畫に於ては絕對ではない。昨日の畫家にとつて眞理であつた事は、今日は單なる虛言(うそ)に過ぎない。であるから吾々は宣言す

る。例へば肖像はそのモデルに似てはならなく、畫家は描かんとする風景を、自らの心の中に持つて居るべきだと。

人間の顏を描くには、それだけを描いてはならない。その顏を包んで居る雰圍氣のすべてを描かなければならない。

空間は最早存在しない。其故電燈の下の、雨に濡れた街の舗石は、無限に深まつて行き、地球の中心に屆く。吾々と太陽との間には何百萬メートルあらうとも、その事實は、吾々の前にある家が、日暈の中に嵌つて了ふのを妨げはしない。

研ぎすまされ、倍加された吾々の感覺が神通力の秘義を解いて了つた今日、なほかつ物體の不透明性を信ずるものがあり得ようか？　吾々が創造したものの中、吾々の視力が倍加されてエックス光線に似た結果を與へ得るのを、何故忘却すべきであらうか？

吾々が提唱する眞理を立證するには、無數ある例のうちからほんの僅かの例をひけば足りるであらう。

乘合自動車で貴方のまわりに居る十六人の人は、恰も普遍振動の執拗な象徴であるかのやう

に、順々に或は同時に、一人であり十人であり四人であり三人であり、不動であり。席を轉じ、行き。來り、街上に躍り、突如として太陽に食われ、それから歸つて來て貴方の前に座る。幾度か吾々は、話をして居る相手の頰に。街はずれの遙か彼方を過ぎて行く馬を見た事があるであらう。

吾々の身體は腰かけて居る長椅子に入り、長椅子は吾々に入る。乘合自動車はそれが追ひ越して行く家の中に突入し、家は乘合自動車の上に飛びかゝつて、それと融合する。

畫の構成は從來馬鹿馬鹿しい迄に因襲的であつた。畫家は何時でも吾々の前に置かれた物や人を、吾々に示した。吾々はこれからは觀者を畫の中央に置く。

人間精神の凡ての領域に於て、洞察力ある個人の探求が獨斷の不動な曖昧さを一掃して了つたやうに、生氣を與へる所の科學の潮流は、遠からずして繪畫を官學的傳統から解放すべきである。

如何なる犧牲を拂つても、吾々は再生したい。吾々の時代の勝利者である科學は。吾々の時

代の物質的欲求によりよく應ぜんが爲めに、自らの過去を否定した。同じやうに藝術が自らの過去を否定しかくて、吾々を動かす所の精神的欲求に應じ得る事を、吾々は欲する。

吾々の更新された意識は。人間を普遍的生命の中心であると考へる事を許さない。人間の悲しみは、痙攣的跳躍をして苦しみ色彩の胸も張り裂けんばかり悲痛な表情をして叫ぶ電燈の悲しみと、同じやうに吾々の目には興味がある。現代の服裝の線や襞の調和は、裸體が昔の人の感覺に作用したと同じ感動力と象徴力を以て吾々の感覺に作用する。

未來派繪畫の新しい美を會得し了解する爲めには、心を淨化し、眼から間歇遺傳や教養の被を除き、かくて遂に美術館でなくて自然だけに指圖されるやうにならなければならない。

さすれば最早人々は自分達の皮膚の下を褐色が流れた事などはないとわかり、黄色が吾々の肉に輝き、赤が燃え、綠や青や紫が歡樂と心を奪ふ美しさの限りをつくして舞ひ躍るのがわかるであらう。

夜の生活の爲めに吾々の生活が二倍となり、かくて色彩感覺が倍加された今日、如何にして人間の顏を薔薇色に見る事が出來やう？　人間の顏は黄と赤と綠と青と紫である。貴金屬商の

飾窓を見つめる女は、寶玉に見込まれた雲雀であるが、その女の青白さは、寶玉のプリズムのやうな火にも增して强く華かな光を放つ。

繪畫に於ける吾々の感覺は、最早さゝやかれ得るものではない。吾々は今後は、耳を聾するばかりの勝ち誇つたブラスバンドのやうに、吾々の感覺が畫布の上に歌ひ鳴轟く事を欲する。

くらがりに慣れた貴方達の眼は、間もなく光の最もぎらぎらした輝きを、初めて見るであらう。吾々の描くかげは先人の最も强い光よりも更に明るく、美術館の畫の傍に吾々の畫を置けば、暗黑な夜に對立する眩ゆいばかりの眞晝と輝くであらう。

吾々は今日分割主義のない繪畫は存在し得ない事を結論する。それは意のまゝに學び應用せられ得る過程の問題ではない。近代繪畫にとつての分割主義は、吾々が本質的であり必須であると宣言する所の先天的補充主義である。

人々は恐らく吾々の藝術を不均齊な又廢頽した腦髓の作用に歸して批難するであらう。しかし吾々は單にこう答へるであらう。反對に吾々は百倍された新しい感覺の原始人であり、吾々

の藝術は自然と力とに醉つて居るものだと。

吾々は宣言する。

一、模倣の凡ての形を輕蔑し、獨創の凡ての形を頌榮しなければならないと。

二、餘りに彈力に富んだ表現であるが爲めに、人々はそれを用ひて容易にレンブランドやゴヤやロダンの作物を非難し得る「調和」とか「よい趣味」とか云ふ字の暴虐に對して反逆しなければならないと。

三、藝術批評は無益であるか有害であるかであると。

四、鋼鐵と自尊心と熱狂と快速との吾々の旋轉する生活を表現する爲めに、從來用ひられた一初の題材は一掃されなければならないと。

五、人々が「狂人と呼んで」一革新者を猿轡で默らせて了ほうとするその「狂人」と云ふ呼名

を、光榮の稱號と考へなければならないと。

六、詩に於ける自由韻律や音樂に於ける多音性と同じく、先天的補充主義は、繪畫には絕對の必要であると。

七、普遍的力動主義は、繪畫に於ては力動感覺として表現されなければならないと。

八、自然を描寫するには、何よりも先づ眞摯と至純でなければならないと。

九、運動や光は物體の物質性を破壞するものと。

吾等は戰ふ

一、近代繪畫に時代を附けようとして使はれる土瀝靑顏料に對して。

二、埃及人の線の引き方を模倣する事によつて繪畫をば幼稚且つ怪奇(クロデスク)な力無い綜合に化して了ふ所の平らな色着けに基く皮相幼稚な古風模倣に對して。

三、先人のと同じやうに平凡舊弊な新しいアカデミイを作つて了つた分離派、獨立派等のにせの將來派に對して。

四、文學に於ける姦通のやうに嘔吐を誘ひ且つうるさくて堪らない裸體に對して。

最後の點を說明しよう。吾々の眼にとつては裸體には不道德な點は少しもない。吾々が戰ふのは裸體の單調に對してである。人々は、主體の如何は問題でなくて、すべてはそれを取扱ふ方法にあるのだと吾々に云ふ。同感。吾々も亦それを認める。しかし五十年前には非難し得なく又絕對的であつたこの眞理も、畫家が自分達の情婦を公開したいと云ふ欲求にかられて、展覽會を腐つたハムの市場にして了つた今日では、裸體については最早それは眞理ではない。

一九一〇年四月一一日　　於ミラノ

ウンベルト・ボチョニイ署名
カルロ・デ・カラ同
ルイヂ・ルソロ同
ヂアコモ・バラ同
ヂノ・セベリニ同

譯者註

この譯は一九一〇年四月一一日附の Manifeste des Peintres Futuristes によつてなされた。

一九一〇年二月一一日に發表された Manifesto dei pittori futuristi 及び一九一〇年四月一一日に發表された Manifesto tecnico della Pittura futurista に據らなかつた理由は、前者が後二者の綜合とも考へ得るのと、後二者がボッチョニイの Pittura Scultura Futuriste に收められて居るに止まり、今迄普通に行はれ、未來派自らが今日印刷して居るのが主として前者であるからである。

過去派のベネチアに對して（譯）

（ベネチア人に對する最初の未來派宣言書）

吾々は長い事ベネチアを愛し、懷卿的な大きな夢の苦惱の裡にベネチアをしつかりと抱いて來た。然し今や吾々は、數世紀に亘る病的な快樂によつて瘦せ衰へた古いベネチアを排斥する。吾々は、好古家や詐欺的骨董商の市場であり、浮華や一般的魯鈍によつて磁力を與へられた極であり、戀人の數限りない隊商によつて壞された寢床であり、國籍おかまいなしな淫賣婦にとつての貴重な浴槽である外國人のベネチアを排斥する。

吾々は過去の壯大な創痕である此の腐敗した町を全快させ、その傷を癒著させようと欲する。吾々は、その初期の壯大さを失ひ、忌はしい怯懦によつてモルヒネ中毒し、怪しい小商賣を習慣とした爲めに墮落して了つたベネチア人を蘇らせ、向上させたいと欲する。吾等はアドリアツィック海に於て吾等の永遠の敵なるオーストリアに挑戰し、進軍し得る産業的な軍事的なベネチアの誕生を計畫せんと欲する。

崩れかゝり癩病に罹つた古い宮殿の毀れをもつて、臭氣紛々たる小運河を、急ぎ埋めよう。癡人の鞦韆のゴンドラに火を付けよ。そして古い建築の物憂い曲線を到る處でこわして了ふ爲めに、鐵橋と煙の髪もてる工場の威風堂々たる幾何學を空迄高く立てよう！遂に神聖なる電氣の光輝ある時代は來る。電氣こそ、家具附宿屋の金錢づくの月光から、べネチアを解放して吳れるのだ。

マリネッツィ以下十四人の未來派詩人及び
ボッチョニイ以下五人の未來派畫家署名

展覽者より公衆へ（譯）

最近パリーで開かれ、今やロンドンに持ち來られたイタリア未來派繪畫第一回展覽會は、今迄歐洲の批判に提出された伊太利繪畫の最も重要な展覽會であると、吾々は何等の傲慢なしで云ひ得る。

何故なれば吾等は若く、吾等の藝術は烈しく革命的であるからである。

多數の巧妙な模倣者や多數の無能な剽竊者を吾等のまわりに引寄せながら、吾々が試みた事及び完成した事は、ピカソ、ブラック・ヴゥラン、メッツィンヂェ、ル・フォコニエ、グレェズ、レッヂェ、ロート等によつて導かれたフランスの後期印象派、綜合派、立體派が辿つた途と平行する他の道によつて、吾々を歐洲の繪畫運動の首領とした。

吾々は、藝術的拜金主義に對する賞讃すべき輕侮及び官學主義に對する力強い嫌惡を示した此等の尊むべき畫家の勇武を賞讚するけれども、吾々は自らが彼等の藝術とは絕對に反對の側にある事を感じ、それを宣言する。

彼等は動かない凍つた物や自然の凡ての靜止狀態を描く事を執拗に續けて居て、吾々の眼には全然理解し得ない所の執拗な過去愛着で自らの藝術を老耄させ化石させながら、プッサン、アングル、コローの傳統主義を崇拜して居る。

吾等は之れに反して本質的に未來に屬する見地を持つて、運動のスタイルを求める。それは吾等以前にはかつて試みられなかつたものである。

ギリシヤや古大家の模範を賴りにする事などはてんで頭にないのみか、吾々は不斷に吾等の個人的直觀を頌揚する。吾々の目的は繪畫がうろついて居る無定見の不確さから繪畫を解放する所の全然新たな法則を決定する事である。

畫に出來るだけ堅固な構成を與へようと吾々が願へばとて、其爲めに過去の何等かの因襲に到着するやうな事はない。それを吾々は確信する。

學校や畫室で習つた凡ての眞理を、吾々はふりむいても見ようとしない。吾々の手は自由であり純粹である。だから凡てを新規蒔直しにやる事が出來る。

吾々のフランスの同僚の美學的宣言のいくつかが一種の假面をかぶつた官學主義を表はして

居る事には。論議の餘地はない。

繪畫に於て主體が完全に無價値なものだと宣言するが如きは實に官學への複歸ではないであらうか？

反對に吾々は、絕對に近代的感覺の出發點のない近代繪畫等は存在し得ない事を宣言する。そして繪畫と感覺とは二つの離す可からざる言葉であると主張する吾々に對して、何人も反駁し得はしない。

若しも吾々の畫が未來派であるならば、それは吾々の畫が、倫理的にも美學的にも政事的にも社界的にも絕對に未來派である吾々の思想の所產であるからである。

ポォズをして居るモデルから畫を描くのは不都合である。そしてそのモデルが線や球や立體で畫に飜譯されたと雖ども、それが心的怯懦の行爲である事には、何等かわりはない。

モデルが持つて居る物や、モデルのまわりに配置された物から畫の意味を導き出す事によつて、普通の裸體に寓意的意味を與へようとするのは、吾々の心には、因襲的官學的心理の證據だとうつる。

この方法はギリシヤ人やラファエルやツィツィアンやベロネーズが使つたやり方であつて、それは必然的に吾々を怒らすものである。

吾々は印象派を振棄てるものではあるが、印象派を殺す爲めに繪畫を古い官學的形式にかへす現在の反動を力を込めて責め尤める。

印象派に反動するのは印象派を乘り越して行く事によつてのみ可能である。なにが馬鹿げて居ると云つても、或物と戰ふ爲めに、それに先立つた繪畫方則を借りて來る程不合理な事はない。

スタイルの探索が、所謂古典派藝術と接觸する點を持つかも知れないと云ふ事は、吾々の意とする所ではない。

他人は此等の類似を探すであらうし、疑ひもなく其等を發見もするであらう。然しそれは決して古典派繪畫が取繼いだ手段、思想及び價値へ吾々が複歸したものだとは、何人も考へ得ないであらう。

吾々の說を解明するには二三の例で足りる。

吾々は普通藝術的だと呼ばれる裸體畫と解剖圖との間に何等の區別をも見出さない。そして他方に於て、此等の裸體畫と人體についての吾々の未來派思想との間には莫大な差がある。

現在多數の畫家によつて了解されて居るやうな遠近法は、吾々にとつては、技師の設計にそれが必要だと云ふ程度しか、絕對にその程度しか、價値を持つては居ない。

藝術作品に於ける心理の諸狀態の同存、これこそ吾々の藝術の、吾々を夢中にさせる程重大な目的である。

再び例を以つて說明しよう。部屋の內側から見られた露臺の人を描くのに、吾々は窓を通して見られるだけに、室外の光景を限らない。吾々は露臺の人が經驗した視的感覺の全量卽ち街の太陽を浴びた群集、左右に擴がる兩側の家、花で覆はれた露臺等を描かうと努める。これは周圍の同存を意味する。卽ち物體の轉逭及び解體や、從來の論理によらず又相互相獨立なる部分の離散及び融合を意味する。

吾々が吾々の宣言書（前出）の中で云つたやうに、觀者を畫の眞中に生しめんが爲めには、畫

は記憶するものと見るものとの綜合でなければならない。

吾々は中にはさまつた防害物の彼方で生き動くものや、吾々の左右、背後にあるものを描く可きである。そして舞臺の袖で人工的に壓縮された人生の一區域のみを描く可きではない。

吾々が表現すべきものは力動感覺だと云ふ事を吾々の宣言書で、吾々は公言した。そしてその力動感覺とは各物體獨特の旋律、傾向、運動を指す。即ち更に完全に云へば力動感覺とは物體の內的力である。

動いて居る時とか、靜止の狀態にある時とか、歡喜に興奮して居る時とか、重々しい憂欝にある時とか、かく異つた狀態に於て人間を考へるのが普通である。

そして凡ての生命なきものは、自らの線によつて、靜けさや狂氣や悲哀や快活を現はす。此等の雜多な傾向は、此等の雜多な傾向を作る所の線に、重々しい安定や空氣のやうな輕さの感じと性質を與へる。

凡ての物體は、物體が若し物體の力の傾向に從ふとすれば、どう云ふ風に物體それ自らを分解するかと云ふ事を、線によつて示す。

此の分解は定つた法則によつて支配されるものではなくて、各物體獨特の個性と觀者の感動とに從つて變化する。

更に凡ての物體は、光の反射（印象派的原始主義の基礎）に據るのではなくて、畫を支配する感動的法則（未來派原始主義の基礎）に從ふ線の眞の競爭及び面の衝突によつて、隣接する物に影響する。

描かれた畫布と觀者の精神とを混ぜる事によつて美學的感動を强めようと云ふ願ひを以て、吾々は觀者は「今後は畫の中央に置かれなければならない」と宣言した。

觀者はある行動の見物人でなくて、その行動に參加しなければならない。若し吾々が騷動の有樣を描くとしたら、拳固を振上げて馳驅する群集や騎兵の騷然たる攻擊は、畫の狂暴の一般法則に從つて、凡ての衝突する力に相應ずる線の束によつて、畫布の上に飜譯される。

此等の力線は觀者を取卷き捲込き、かくて觀者が畫中の人物と格鬪せずには居られないやうにして了はねばならない。

凡ての物體は、畫家ボッチョニイが幸にも物理的超越主義と名付けたものに從つて、物體それ自らの力線によつて無限へと延びる。そしてその力線の持續は吾々の直觀によつてはかられる。吾々が藝術作品を眞の繪畫に引戾す爲めに描かなければならないのは、力線である。吾々は物體を、其物體によつて吾々の感覺に印せられた旋律の起點或は延長として、畫布の上に現す事によつて、自然を解釋する。

例へば人物の右肩か又は右耳を描いて了つてからでは、吾々は左肩又は左耳を描くのは全然無益無用だと思ふ。吾々は音を描かずに音の振動する間隔をかく。吾々は病氣を描かないで病氣の徵候とその結果を書く。

音學の進化から引出した比較によつて吾々の思想を更に說明しよう。

吾々は、決定されたそして決定されて居るが故に人工的な均衡に從つて充分に發展して了つたモーツィーブを根本的に棄て去つて了ふのみか、突然且つ故意に各モーツィーブを、吾々が決して充分の發展を與へず最初か中間か或は最後の音しか與へない所の他のモーツィーブと交はらせる。

かくて吾々は吾々が心理狀態の畫と稱するものに到達する。

訣別の雜多な心理狀態の繪畫的叙述に於て、空虛な身體の影法師にあちらこちらと卷付いて居る所の波動し又恰も疲れはてたかのやうな垂直線は、元氣のなさと氣落ちとをよく表現する。お互に呼び合つて居る人々の急ぎ行くさまの略圖に混つた直線曲線の混亂及び震動は渾沌たる興奮の感じを表はす。

他方に於て、半分失はれた横顏や景色の崩れ又跳反る斷片中に亂暴にも飛び込む所の疾走する、迅速な、急動する水平な諸線は、去り行く人の喧しい感情を與へる。

繪畫の本質的價値を言葉で表現するのは實際上不可能である。

公衆も亦、自分が慣れて居ない美學的感覺を了解する爲めには、藝術作品を自らに同化する爲めでなくて、藝術作品に心も魂も捧げて了ふ爲めに、自らの知的教養を全然忘れ去る要がある事を、知らなければならない。

吾々　繪畫の新時代を始めつゝあるのである。

今後吾々は最も重要な又最も疑もなく個性的な思想を實現し行く確信がある。吾々と同じ大

膽さと決意とを持つた他の者が吾等に續き、其の人達は、吾々がやつと遙かにのぞみ見る事が出來たに過ぎない山頂を、征服するであらう。されぱこそ吾々は、完全に革新された感覺の原始人だと自らを宣言するのである。

今吾々が公衆に提示して居る繪のいくつかに於ては、振動と運動は各物體を無限に倍加して居る。かくて吾々は「走り行く馬は四本ではなくて二十本の足を持つ」と云ふ吾々の有名な言葉を正當化したのである。

又人は吾々の畫の中に何等の現實と相應じない點、線、色面を見るであらう。然し其等は各々の內的數學の法則に從つて、觀者の感動を音樂的に製造し高揚するのである。

かくて吾々は、外部（具體的）光景と內部（抽象的）感動との間に存在する共鳴及び鏈還を直觀によつて求めながら、一種の感動的周圍を創る。一見非論理的で無意味である此等の線、此等の點、此等の色面こそ、吾々の畫にとつての神秘な鍵である。

疑ひもなく吾々は抽象的內部を具體的外部と結び付ける微妙な紐を明白な形で定義し表現し

ようと云ふ過度な願望でしばられはしないであらう」

しかし、習慣性でゆがめられた眼を通して、常に敎へられたがまゝに物を見る公衆の理解するがまゝにまかせて置く事は、吾々として出來ようか？

吾々は、吾々が公衆との間に理解の橋を架けるのに役立つた寫實的な形や明かな部分を、一日一日と自ら及び畫の中で亡ぼしながら吾々の道を行く。吾々の奇異な精神界の喜びを、全然それを知らない群集に享受させる爲めに、吾々はその世界の物質的感覺を群集に與へる。かくて吾々は吾々を圍んで居る野鄙な簡單な好奇心に對して、吾々の原始主義の殘忍に寫實的なアスペクトによつて答へる。

結　論

吾々の未來派繪畫は三つの新しき繪畫思想を具體する。即ちその思想は

一、印象派の視覺による物體の液體化とは全然反對に、畫に於ける量の問題を解決する。

二、物體を區別し又物體詩の全然新たな力を得せしめる力線に從つて、物體を飜譯させるや

うに吾々を導く。

三、各物體の雜多な抽象的リズムの綜合、即ち畫の感動的環境の綜合を與へる。(前二項の當然の歸結) そしてその感動的環境の中からこそ從來知られなかつた繪畫的抒情主義の泉がほどばしり出るのである。

・

ウンベルト・ボッチョニイ

カルロ・カッラ

ルイヂ・ルッソロ

ヂャコモ・バッラ

ヂノ・セベリニ

原筆者註——此の序文に含まれて居る凡ての思想は一九一一年五月二九日ローマのチルコロ・インテルナチオナレ・アルツィスツィコに於て畫家ボッチョニイがした未來派繪畫の講演の時に、更に詳しく語られた。

活氣ある英吉利美術（譯）

宣言書

私はイタリア未來派の詩人で、英吉利の熱烈な賞讃者である。しかも私は英吉利の美術から凡ての病氣のうちで一等重い病氣即ち過去主義を除いてあげたく思ふ。私は平易に妥協なしに話をし、友人の英吉利の畫家ネビンスンと共に戰の狼煙を揚げる權利を持つて居る。

即ち

一、因襲崇拜やアカデミイの保守主義や英吉利美術家の金權默從や彼等の藝術の女々しさや彼等が單なる裝飾感に一意專心たる事やに對して。

二、奇麗事や、平凡や、やわらかさや、甘美や凡庸や、中古追慕の病的復活や、入相の鐘や人工的な鋸壁のある田園都市や、メイポール・モーリス・ダンス（譯者註、花や其他で飾つた柱を建てゝ、五月朔にその周りを廻つてする踊り）や、美學主義や、オスカー・ワイルドや、プレ・ラファエリストや、新原始派や、パリーやを愛する所の英吉利公衆の厭世的、

懷疑的及び狹矮な見解に對して。

三、凡ての自國の冒險や、獨創や、發明を無視し輕蔑して、凡ての外國の獨創や冒險を熱心に歡迎する墮落せるでも紳士に對して。英吉利は先驅者を出した點で誇る事が出來るのである。即ち詩に於てはシェークスピーア及びスウィンバーン、美術に於てはターナー及びコンスターブル(印象派及びバルビゾン派の開祖)、科學に於てはワッツ、スツィブンソン、ダーウィン等、等の如き。

四、ロィアル・アカデミイの名聲を驅逐して置きながら、自らは藝術の前衛をなす人々の最近の運動に對して甚しく反對して居る新英吉利藝術倶樂部の僞革命家に對して。

五、國王、國家及び政事家が凡ての藝術に無關心なる事に對して。

六、美術が女や女學生は適するに過ぎない無用の暇つぶしであり、美術家は憐れまれ保護さるべき貧しい迷へる馬鹿であり、美術は奇妙な疾病であり、食卓での話題に過ぎないと云ふ英吉利式の見解に對して。

七、無知なるものが、誰れでもかでも、美術の凡ての問題を論議し決定し得る事に對して。

八、天才は醉ぱらひで垢じみて居て襤褸を着た無宿者だと云ふ奇怪な觀念や、美術と酩酊は同意義である事や、ロンドンのモンマルツゥルなるチャルシイや、緣廣(へりびろ)帽子の下に髮を延ばしたプレ・ラファエリストや其他の過去派の汚物に對して。

九、貴方達の生活が賞讃に値する程完全に感傷的でない爲めに、恐らくはそのつぐなひの爲めか――貴方達が貴方達の繪に課する感傷性に對して。

一〇、阻止された發達や成功や絕望から苦しむ先驅者、自分達の窮屈な小島にきちんと座つて居るか、或は砂漠の中の沃地に根を下して了つて、再び前進を始めるのを拒む先驅者。「吾々は進步を愛す。しかし貴方達の進步ではない」と云ふ先驅者。「後期印象派は結構。然し熟考された天眞爛熳を越して先きに進んではならない」（ゴーガン）と云ふ疲れた先驅者等に對して。此等の先驅者は單に自分達の發達が止まつたのを示すばかりでなくて、美術の進化を本當には理解して居なかつた事を示す。若し繪畫彫刻に於て天眞爛熳や變形や擬古主義が必要であつたとしたら、それは成形的力動主義へ向ふ前に、官學的優雅から亂暴に脫弃する爲めに、必須であつたからである。

一一、永遠性狂に對して。傑作はその作者と共に消失せなければならない。美術に於ける永遠性は恥辱である。イタリア美術の祖先は、彼等の構成力と永遠性の理想を用つて、吾々の爲めに臆病と模倣と剽竊の牢獄を建てた。彼等は祖父(ぢい)さんの椅子に座つて居て、大理石の顏に眉を顰めて「注意をおし、子供達、發動機に氣をお付け、あんまり早く行つちやいけないよ。よおく身體を包みなさい、通風に氣を付けなさい、雷に用心しなさい」と云つて、吾々の創造的苦悶を永久に支配する。

前進せよ！　發動機萬歳！　速力萬歳！　通風萬藏！　雷萬歳！

吾等は要求する

一、强く男性的で非感傷的な英吉利藝術を。

二、英吉利美術家が、回復劑なる樂天主義や、大膽なる冒險慾や、美雄的な發見本能や、力の崇拜や、肉體及び精神の勇氣や——此等凡て英吉利民族の不屈の美德なるものによつて、自らの美術を强からしめる事を。

三、スポーツが美術の必須な要素であると考へられる事を。

四、力强き前衞を作る事を、その力强き前衞のみが、アカデミイの因襲的保守主義や、公衆のおきまりな無關心によつて現在脅かされて居る英吉利美術を救ふ事が出來る。これは創造的天才には興奮劑であり亂暴な刺戟物であり、溶鑛爐の火を再び點火し復活させる退屈な勞力と費用を除く爲めに、發明と藝術の火を何時も燃やして置く事に對する不斷の誘因となるであらう。

五、英吉利のやうな富み且つ强力な國は、うつちやつて置けば死ぬに決つて居る自國の美術を、若しも救ひたいのなら、自國の前衞美術家を――それがどう云ふ風に進み、どんなに極端に進んだかに關せず――支持し、防禦し、賞讃すべきであるのは、論を俟たない。

六、それ故吾々は、活氣ある英吉利美術の先驅者であり前軍である偉大な未來派畫家の天分を、支持し、防禦し、賞讃せん事を、英吉利の公衆に向つて要求する。

一九二四年六月一一日　於ロンドン

エッフェテ・マリネッティ署名

アール・ダブリュウ・ネビンスン署名

譯者註、この未來派宣言書は一九一四年六月ドーレ畫堂に於ける未來派畫家ボッチョニイ、カッラ、ルッソロ、バッラ、セベリニ、ソフィッチの作品を公開した展覽會場及びケンブリッヂ大學で讀まれたVitalEnglish Art, Futurist Manifesto である。其時のマリネッツィの原稿は今は Contre l'Art Anglais Manifeste futuriste として世に行はれて居る。本譯は主として前者によつた。但し本譯の最後の「吾等は要求する」の五は佛文に於ては四の中に入り、六は省かれて居る。

戰前、戰中、戰後の未來派（譯）

宣言書

十一年前ミラノに生れた未來派は數千の展覽會、講演會、演奏會によつて、全世界に影響を及ぼし、還境に應じた各種の未來派を創つた。還境は各々特殊の過去主義、邪魔になる有害な過去主義を持つて居る。そしてその過去主義は破壞して了はねばならぬものだ。未來派はヨーロッパ及びアメリカの凡ての首府に於ては既に了解されて、到る所で重要な精神的革命の出發點となつた。イタリアに於ては既に長いこと、反動的、聖職的、道學者的、衒學的及び保守的な勢力によつて、誹謗され、追討されて居る。未來派は今やこの爭鬪を終へ、力は更に加はる。

未來派運動は最初は藝術運動であつたが、直接に三國同盟に投げつけられ、又吾々の反オーストリア戰爭を準備した所の革命的、反聖職的愛國主義の宣傳によつて、イタリア人の政事的生命に間接的に大影響を及ぼした。吾等の戰爭の豫言者であり準備者であり、勇氣と自由との種蒔者であり調馬師であるイタリアの未來派は、今から十一年前ミラノのリリコ座に於ける最

初の藝術的會合を「オーストリアをやつつけろ！」と云ふ叫びで開いたのである。

其日からこの言葉は吾々の騷然たる會合のすべての時に發せられる叫となつた。

イタリアの未來派はイタリアが中立を保つて居た一九一四年九月一五日にミラノに於てオーストリアに反對する二回の最初の示威運動をした事を誇りとする。この二回の示威運動は激しい騷ぎと大きな反響をおこした。此の騷擾のさ中に未來派の人達は八本のオーストリア旗を燒きサン・ビットーレの牢獄につながれた。

暴力に訴へてもオーストリアへの宣戰を要求しようと常に街路の第一線に立つた未來派は、戰場に於ても常に第一線にあつて、多數の死傷者及び受勳者を出した。

未來派は戰爭中に未來派の政黨を作り、ローマ・フツゥリスタをその機關紙として創つた。ビットリオ・ベネトの吾等の大勝のすぐあとで、ミラノ、ローマ、フィレンツェ、フェラレ、タランテ、ペルーセ等の未來派の政事的集團(ファッショ)が創られた。

イタリアの未來派は新時代の魂であつて、オーストリア・ハンガリー帝國と戰ひ、勝ちそれを殲滅させた。

未來派の藝術運動は戰爭中は餘儀なく緩漫になつたが、今や激勵者であり革新者である未來派の力動を、再び開始する。

繪畫に於ける凡ての復歸に對して（譯）

宣　言　書

凡てのアカデミイに對し、イタリア人の藝術生活の凡ての庸劣に對し、奮然として鬪ひ來つた未來派、凡ての自由、凡ての大膽を敎へた未來派は、イタリア人の藝術感覺に革進的旋律を與へ、かくに最初の重大な勝利を得た。

未來派畫家の畫は、一呼吸（ひといき）でイタリアの繪畫をば、世界の最も進んだ繪畫の第一線に進め、最も典型的な二つの藝術潮流卽ち未來派繪畫及び立體派繪畫のうちの前者を創つた。

凡ての自由を確保し、藝術の途をふさぐ凡ての約束を一掃する爲めのこの努力は、凡ての既知な形、凡ての既知な場所、凡ての既知な趣味を破壞する役目を吾々に負はせた。分解、變形（譯者註、「變形」と云ふ譯語は甚だ不適當と思ふけれど適譯を見出し得ない。英語で云ふと Deformation であるが、いゝ譯があれば御敎示を願ひたい。）、面の交錯、形と感覺の同存、外部と內面の同存、造形的力動主義等に對する吾々の不斷の或は突發的な探求は、其所から發

したのである。

此等の探求の爲め吾々は自然々々に、凡ての形體の發展を描かんとして形の餘りに細密な分析や物體の餘りに斷片的な分解に走るやうになつた。

この長時間に亘つた分析のお蔭で、吾々は、形を純粹に造形的要素に於て完全に了解する事が出來たが、その仕事は今日では完成して了つた。其故今吾々は、更に大きく且つ綜合的の造形的な物の見方を得やうとする已むに已まれない欲求を感じてゐるのである。

今や吾々はがつしりした確實な構成主義の時代に入つてゐる。其故吾々は、吾々がやつた凡ての分折的變形のお蔭で吾々には容易に出來るやうになつた理解や洞察によつて、分析的變形の綜合をしたいと欲してゐる。其故吾々が長い間やつてゐた分折を、組識的に避けるのが必要である。

人々は此の目的を持つて仕事をしながらも、新しく且つ綜合的な造形的構成に向はずに、反對に、昔のよく知られた構成に歸つただけで、そこに手蔓や錯覺的な力を探し求めてゐる。手

本は民族によつて異るけれど、剽竊は依然として剽竊である。

フランスに於ては或る立體派の人々はアングルを模倣し、獨逸ではある表現派の人々はグルュウネワルト（ヅゥュレルの敵對者）を眞似し。イタリアではある未來派の人達はヂオットを模倣してゐる。から云ふ風にして。ヨーロッパの繪畫史は全部再びやり直されるであらう。

過去の或る畫家が自らの情緒の造形的及び綜合的構成の爲めに使つた形を、吾々の感覺や情緒に利用出來ると考へるとは　何んと云ふ馬鹿々々しい事であらう。此等の模倣者が、最後のものだとして例へばヂオットの中から見付け出したものは、其實反對に後になつてラファエルロやミケランヂェロに續いた所の、最も進んだ革進者的最尖端に過ぎなかつた事を、何よりも先きに吾々は觀察する。

人生が吾々の感覺に印する所の深く且つ內的な感動から、根本的な綜合構成を引出さうと探求しないで。プリミツィッフ（譯者註、ルネッサンス派直前の畫家彫刻家を云ふ）の一目顯然な造形綜合の模倣に逃げ込むのは、より容易でもあり樂でもある。プリミツィッフの綜合は表面的である。其故プリミツィッフのは彼等の分析の範圍が限界されてゐたからと云ふ理由でのみ吾々に

綜合的に見へる。

十四世紀のプリミツィッフの畫の中で吾々が見出す綜合は、其實不充分な分析に過ぎない。此等のプリミツィッフは、彼等が分析の凡庸の技工と能力しか持つてゐなかつたが爲めにのみ吾々に綜合的に見へるのである。彼等は一つの綜合のうちに形や色を決定的に包含してゐるやうに見へる。然し實際は彼等は極めて僅かな物しか包含してゐないのである。彼等の分析の産物は見すぼらしい。それが彼等に單純だと云ふ特徵を與へるのである。

プリミツィッフの形はそれ自體としては何等特別の意義も何等の深い象徵をも持つてはゐないが、たゞ時と云ふ霧に蔽はれてゐるが故にのみ、今日となると吾々の眼には、いかにも暗示的神秘や心を蕩かす妖術(或人はこれを妖怪性と呼ぶ)に富んでゐるやうに思へるのである。藝術に於ける眞の暗示又は妖怪性は、革新的天才が、何にか或物に印する所の造形的變形である。時が離れてゐる爲めに生れる見かけだけの妖怪性も存在する。加之、纎弱な頭腦や弱い肉體や、疲れ或は霧に被はれた眼にとつては、凡ては妖怪的であり、神秘的であり、魔術的であるのを忘れてはならない。この剽竊的プリミッィビズムは、純粹の繪畫を古臭い文學や、煤けた貧弱な

哲學や、馬鹿々々しくもあつぱれ卓越したつもりになつてゐる自惚れやに變へて了ふ。

他のものは「聖なる傳統に歸れ！」と云ふ美しい句によつて、その復歸が事實に於ては容易く出來る休息的隱退である場合に、その無力無內容な模倣を隱蔽しようと努めてゐる。

吾々は。イタリア民族は革新者と構成者との民族であつて、イタリアの眞の傳統は、曾つて何等の傳統をも持つた事がないのを特色としてゐる事を揚言する。吾々はイタリアの繪畫史を通じて前時代の繪畫に復歸した唯だ一つの例すら決して見た事はないのである。之れに反して成形力に惠まれるよりも腦力に惠まれる事の多いフランス繪畫に於ては、吾々は多數の模倣的復歸の例を持つてゐる。吾々はヂオット、マッサチオ、ラファエルロを持ち、フランスはプッサンアングル、ダヴィッドを持つ。

美術史は、美術に於ける復歸や模倣を產んだ凡庸を暗示する店先きである。手當り次第にダヴィッドやカノーヴァを含む新古典派や英吉利のラファエル前派を考へて見よう。

純粹繪畫の此等の凡ての躱避は、畫家にとつても將又觀者にとつても、特に容易で、誘惑的で、休息的である。ある粗雜さや或る單純さ(出來そくなつた罎や、ゆがんだ瓶等の如き)は、

此等の罎や瓶がその繪畫的價値を變ぜられる事なしに千差萬別に出來そくなはせ得、ゆがめ得る以上、非常に容易な描寫である。

その上、この自分免許の純粹繪畫の明瞭さは、畫を非常に賣行きよくする。何故なれば、公衆は畫の中で力動的探求や交錯の人を惱ます錯雜中に、出口を發見すると「わかつた。遂になにか或物がわかつた。」と叫んでそれを賞讃するから。公衆は罎を見、その罎があまりに出來そくなはせられる事を欲せず、又その罎を丸飮みにして了ふのであるから、畫描きと同程度の未來派的な聰明な前衞的精神しか持つてゐない事を表明して了ふ。

此等のにせのプリミッイッフによると、凡ての物は捻（ひね）られ、出來そくなはせられなければならない。何故なれば彼等は、プリミッイッフの畫の中に於て捻られ、出來そくなはせられた凡てのものは殆んど常に技工が實際缺乏してゐる結果だと云ふ事を忘れてゐるから。現代のにせのプリミッイッフに於ては、如何な犧牲を拂つてもプリミッイッフのやうに描かうとする努力の結果、否定的な人を衰へさせる厭世觀の暗示即ち全然文學的で造形藝術とは何等相わたる所なきもの丶暗示を産む。

此等のにせのプリミッイッフに於ては、吾々は千遍一律な簡單な形（立體、三角及び其他の固い及び線狀の幾何學的形並びに、自然形の簡單陳腐な綜合である模形）を見出す。此等の簡單な形は辛抱と入念とで浮彫のまがひのやうにされる。然し形それ自體の旋律の貧しさと、一つの形と他の形との間の澤山の空隙は、畫から凡ての抒情詩的振動を奪つて了ふ。約言すれば、此等のにせのプリミッイッフの特色は、哀れむ可き貧弱さである。

ヂォルヂ・ブラックは「限られた方法は形式を與へ、新しい形を生み、創造へと進む」と書いた。若しもブラックが「限られた方法」と云ふ字で綜合の努力を意味したのなら正當であるが、之れに反してプリミッイッフの限られた方法の應用を意味したのなら、それは間違ひである。

凡ての變形は、似させ得又はそのものであり得るやうな全然合理的且つ元素的な變形を、唯一の目標としてはならない。反對に、變形は畫の旋律的構成及び旋律的重心の爲めの旋律的必要でなければならない。畫の特殊な變形はすべて、凡ての畫にその特別な旋律をきざむ所の特別な旋律的突風に旋律的に從ふべきである。若しこの目的さへ到達出來れば、畫の凡ての部分

は、缺く可からず、變更すべからないものとなる。

明暗は、或る形の特別な旋律や畫の一般的旋律が畫家に要求した點且つ場合にのみ、存在すべきである。各物體はそれ自らの特別な旋律を持ち、凡ての特別の旋律は、畫の一般的旋律と協力すべきである。若し人が畫の一部を、勝手に變化させ位置を換へ得たとしたら、それはこの部分の旋律が畫の一般的旋律と密接に結ばれて居らず、畫は堅固な建築でなかつた事を意味する。然しこの反對に、畫の凡ての部分は、必要であり、位置を變じ得ず且つ動かすべからないものでなければならない。

フェルナン・レッヂェは「私は近代產業によつて課せられた形を愛し、それを使ふ。鋼鐵は所謂古典的な主體より更に微妙な更に確實な多彩の反射を持つてゐる。機關銃や七十五珊砲の閉鎖機は、テーブルの上の四つの林檎やサン・クルーの風景よりも更に描く可き畫材である事を私は主張する。そして私の云ふ所は何等未來派と相わたるものではない。」と書いた。

吾々はフェルナン・レッヂェに同意する。然し吾々は彼が過度な排外主義の爲めに、未來派の榮光こそ彼に機械的近代性の造形及び抒情詩的美を最初に知らしめたのだと云ふ事を、認める事

が出來ないでゐる事を嘆げく。

結論——如何なる犧牲を拂つても前進する爲めに、繪畫を離れるのは不合理である。然し繪畫から離れないが爲めにプリミツィッフを剽竊しに美術館へ戻るのは不合理であり恥辱である。征服された造形價値を高く前に捧げ、大きく且つ强い綜合的な物の見方によつて、未だ征服されてゐない造形價値をば見出しながら、如何なる犧牲を拂つても前進するのが必要である。未來派は吾々が呼んで活氣あり、廣大にして深い近代感覺の革命とする時期を經過して、今や、形を凝固させ、理想的な決定的な綜合を創りながら、未來派の形式を決定すべき問題に當面してゐる。吾々は、イタリアの天才は、この壯嚴にして榮光ある仕事の實現の爲めには、最も完全に天質を賦與されてゐると云ふ事を確認する。

一九二〇年四月一一日　於ミラノ

レオナルド・ブウドレビッレ、アキッレ・フニ、
ルイヂ・ルッソロ、マリオ・シロニ署名

機械の藝術（譯）

未來派宣言書

（未來派雜誌「ノイ」によつて發表せられしもの）

吾々が機械の藝術と呼ぶもの、即ち機械を新しき藝術感覺の象徵、源泉、指揮者と考へ祟拜する事は、イタリアの最も機械的な街ミラノで一九〇九年書かれた最初の未來派宣言書から發したのである。

ル・フィガロで發表され、凡ての國語に飜譯され、數十萬枚も撒かれたこの宣言書は、全世界の藝術家を顚覆させ變化させる思想を含んで居た。

「私達は、世界の榮光は一つの新しい美卽ち快速の美によつて富まされた事を宣言する。爆發的な息を吐く蛇にさも似た太い管で飾られた車體を持つ走り行く自動車……散彈に乘つて走るかのやうな吼える自動車は、サモネレスの勝利よりも更に美しい。」「私達は大群集を……兵器廠の夜の振動を……工場を……橋を……冒險的な郵船を……機關車を……飛行器の

辿り行く飛翔を、歌ふであらう。」

次いで間もなくマリネッツィは、宣言書「月の光を打殺せ」の中及び「倍加された人間」及び「機械の治世」を禮讃した著書「未來派」（パリー一九一一年）に於て、彼の思想を發展させた。一九一一年にはパオロ・ブッヂの自由詩集「飛行機」が現はれた。一九一一年乃至一九一二年には全世界で未來派展覽會が開かれ、機械に對する燃へるやうな熱情によつて養はれた交錯、同存、造形的力動主義の新感覺がひろめられた。

一九一一年一〇月マリネッツィは戰爭の機械力の自由な稱揚である「戰爭・重さ プラス 香ひ」を發明した。他の作品も續いて現れた。「ザング・ツゥム・ツゥム――アドリアノポリの包圍」及び「未來派文學表現樣式宣言書」が續いた。そしてその中にはマリネッツィの次の斷言が含まれて居る。卽ら

「鋼鐵板の硬さこそ、それ自ら卽ち例へば砲彈の貫通を妨げる所の分子及び原子の不可解且つ非人間的合一によつて吾々を娛しませる。鐵片或は木片の熱さは、今後は女の微笑や涙よりも更に吾々の心をそそる。」「吾々は文學に於て發動機の生命を表現せんと欲する。發動機

――この本能的な新しい動物の一般的本能は、それを構成する各力の本能を了解すればわかるであらう。未來派詩人にとつては自動ピアノの鍵盤の動搖よりも更に面白いものは一物もない。活動寫眞は、人間の干渉なしに分れ再び組立てられる物體の舞踏を吾々に示す。」

一九一二年に未來派音樂家バリッラ・プラテッラは飛行器の空中の勇武の禮讃である最初の未來派歌劇「飛行家ヅッロ」を作つた。

一九一三年に於てはルイヂ・ルッソロは彼の宣言書及び著書の「騷音藝術」に於て彼の電氣的騷音樂器の構造を說明したあとで

「吾々はエロイックやパストラルを聞くよりも、電車や自動車や車や騷がしい群集の騷音を理想的に結合する事に無限の喜びを持つ………。目よりも更に注意深い耳を持つて、大都會を横切る時、吾々は、導管の中の水や空氣や瓦斯の音や、明かに動物的に呼吸し脈打つ發動機の響や、ピストンの運動や、機械鋸の鋭い叫びや、レイルの上の電車の跳躍を、一々聞き分ける大きな喜びを身に染みて感ずるであらう。」

と云つた。

一九一四年にはボッチョニイは Modernalatria（伊）Modernalatrie（佛）と云ふ魔法的な言葉を創造し、その意味を彼の著書「未來派繪畫彫刻論」で說明した。同時期にルチアノ・フォルゴーレの「發動機の歌」は靈感を受けた工場の抒情的大喧騷を表現した。

一九一四年三月一八日マリネッツィはその宣言書「幾何學的及び機械的榮光と數字感覺」及び續く他の宣言書「快速の新完敎及び道德」の中で、未來派の新美學を完成しそれを定義した。

一九一四年三月二九日ローマの未來派永久畫堂に於てマリネッツィはその宣言書「力動的總括的朗讀法」を實行した。そしてその一つをあげると次の如きものだ。卽ち「機械的身振りにより、自由語によつて朗讀をして、發動機とその旋律を眞似るのが必要である。」そしてカンヂュルロの自由詩「ピエヴィグロッタ」が力動的總括的朗讀法で讀まれた。

一九一五年未來派畫家プランポリニはその宣言書「運動——騷音の絕對的構成」の中で未來派の造形藝術を完成し定義した。一九一六年畫家セベリニは「メルキュール・ヴァ・フランス」誌上の論文で「藝術の機械主義」を說明した。

一九一五年未來派畫家デペロは機械的旋律を持つ「造形的舞踏」を創造した。

オランダのメカノ誌は最近「イタリア精神の近代的造形」と云ふ題で機械の寫眞を發表し、全誌をそれに捧げた。

無數の戰爭や研究や作品や明かな勝利のあとで　現今吾々は機械によつて靈感を與へられた新造形藝術を決定的に創造する爲めに舊い感覺の遺骸から吾々を解放する必要を感じて居る。

ボッチョニイによつて說かれたモデルノラトリアは吾々を益々熱狂させる。未來派である事を特色とする吾々の時代は、新しい神卽ち機械に依つて、有史以來初めての時代となるであらう。滑車よ、はづみ車よ、螺桿（ボルト）よ、煙筒よ、光り輝く鋼鐵よ、芳香ある塗油よ、オゾーンの香ひよ！機關車の猛烈な呼吸よ！　汽笛の叫びよ！　純粹にして正確な機械感はたまらなく吾等の心を誘惑する。聯動機は吾々の眼から優柔不斷の霧を取りのけて吳れる。凡ては銳く、貴族的で、明確である。吾等は機械的に物を感ずる。吾々は自らが鋼鐵で作られて居る事を感ずる。されば吾等、靈感を受けた機械とならうではないか！

崩壞するかのやうに見へそれにも拘らず突進する巨大な身顫ひをして走る快速の貨物自動車

生き、自らをもひき倒し、あたるものの凡てを洗ひざらひさらつて行く快速の貨物自動車の新しき美しさ！

吾等の眼が、金屬で出來て居る起重機の空想的な建築や、冷い鋼鐵や、光るビラの人を感動させる、どつしりした、部厚な、消え行く性質を抱擁する時の無限な喜悦！　此所にこそ吾々の新美學の原則があり、精神的新必要品がある。

古い美學は盲目奴隷的な集團の凡庸の所産である物語や神話や歴史で養はれる。

未來派美學は人間の天分の最も力強く最も複雜な産物によつて養はれる。機械は人間の神秘な創造力の最も豊かな象徴である。機械を起點とし又は機械を通つて人間の凡ての戯曲は發展する。

吾等未來派は、機械が藝術の精神的及び沒利害的生命に迄自らを高め、又崇高な靈感を與へるものになる爲めに、機械の實際的な役目を超越させようとする。

不正確や剽竊の中に潰れる事を欲しない藝術家は、彼が生きる生命及び彼が呼吸する雰圍氣のみを愛すべきである。

美しい機械は吾々の上に媚を湛へて身を近づけながら、吾々を圍む。そして本能的な野蠻人であり凡ての神秘の發見者である吾々は、機械の熱狂的な圓舞が吾等をとりまくにまかせる！機械の愛人である吾等は機械を抱く。男らしく、歡樂的に！

であるからこそ今日吾等は、機械の飽く事を知らぬ心——サンテリアやビルヂリオ・マルキが創始した未來派の新建築卽ち力動的建築がこの心の内で渦卷く——を世界に啓示し得るのである。

必要なのは機械の外形と精神を區別する事である。

吾々が螺桿や鋼鐵や齒車等の話をした時、吾々はよく理解されて居なかつた。だから吾々の考を更に詳說しよう。未來派の宣言書及び作品はイタリア、フランス、オランダ、ベルギイ、ロシアの偉大な藝術家に、機械の藝術の意思をおこさせた。然し彼等は殆んど常に機械の外形まで行つて止まつて了つた。であるから彼等は甚だ幾何學的な無味乾燥な外面的な畫（技師の設計圖のやうな外見の）や、（螺旋、齒車、自在鉤、鋼鐵）のやうな機械的な實際の材料を使つて

作り上げた造形的構成しか出來なかつた。この前者は旋律的には出來て居、調和的には構成されては居やうとも、深さを缺き、科學的價値に比して抒情的な强さに乏しいし、後者は表現性ある物質として創造に參加する事がないのみか、物質それ自體以外の何等の目的も持つて居ない。此等の藝術家はしばしば淺薄に陥入りも興味はあるが、機械よりも劣つた作品をつくる。何故なればかかる作品は、機械の確實性と組織とを持たないから。

吾等未來派は欲する

一、あらゆる表現手段(機械の斷片をも含む)を使つて構成しながら、機械の外形でなくて精神を表現する事。

二、此等の表現手段及び機械の斷片は、人から習つた科學法則によらずに新奇な抒情的法則によつて調和さるべき事。

三、機械の精神とは機械の力、旋律及び無限の相似の意味なる事。

四、かくの如く解された機械が、造形藝術の進化及び發展に對し、靈感を與へる泉となる事

この新機械藝術の各種のスタイルは、物體についての精神的概念と造形的理想との中に交叉する要素として機械から湧出るであらう。

機械は現今、集合的な偉大な精神及び一人々々相異る創造者の旋律を表現する。機械は天才の歌を歌ふ。機械は未來派的な吾等の時代即ち新しい偉大な宗教に捧げられた時代にあつて、光を放ち、支配し、自らの贈物を分配し、罰する神である。

一九二三年一月一一日

ローマに於て

未來派畫家　エンリコ・プランポリニ

イボ・パンナッヂ

ビニチオ・パラヴィニ署名

譯者註。この宣言書は一九二三年五月の未來派雜誌「ノイ」に發表されたものであるが、其れにはアルベル・グレイズ、ヂノ・セベリニ、フェルナン・レッヂェ及びカヌドの論文が添附されて居る。

詩人マリネッツィの肖像

カルロ・カッラ作

この畫はカルロ・カッラの一九一一年の作品だと思はれる。この畫は歐洲の主要都市で展覽されたボッチョニイの所謂「未來派作品の最初の組(セリエ)」に屬するもので當時には「未來派運動の首領によつておこされた凡ての印象の綜合」と說明が付いて居た。

現在もこの畫はローマのマリネッツィのコレクションにある事と思ふ。

家＋光＋空の相互侵入

ルイヂ・ルッソロ作

ルッソロの「家プラス光プラス空の相互侵入」は一九一三年の作で、描れた當時各所で並べられたが、一九二一年五月パリーのレイナール畫堂で未來派の作品が發表された時には「夜に於ける家プラス光」と題されて居る。

この畫で第一に注意すべきは、彼が彼の一九一一年一九一二年頃に受けて居たボッチョニイの強い影響から自由にならうとした時の繪だと云ふ事で、未來派美學の第一次創造者ボッチョニイが主張した力線も、直觀と衝動の世界から物理學の世界へ引降され、未來派が主張した「研ぎすまされ、倍加された吾々の感覺が神通力の秘義を解いて了つた今日、なほかつ物體の不透明性を信ずるものがあり得ようか？」と云ふ或種の徹底も、この畫ではルッソロの個人性に從つて、物理學的に取扱はれて居る。此の點では異常な天才であるボッチョニイの影響に對する反動の氣味もあるし、現今のルッソロの畫よりは、私には同感出來る。

事實彼は畫家であり音樂家であるにもまして物理學者で、若くから音響學の研究にふけり、

一九一〇年に騷音樂器を發明した。

彼を未來派の創立者の一人に數へる一般の歷史には私は賛成出來ない。(未來派の歷史參照)然しマリネッツィが發表した第二回宣言書「月の光を打殺せ」の中に彼の名も數へて居るから、未來派運動の初期からの友達であつたのは確かである。彼は未來派の各種の運動に參加して居るが、彼の傳記として忘れ得ないのは一九一三年三月九日のローマのコスタンチ座でバリッラ・プラテッラが指揮した未來派音樂に異常な興奮を感じて一日おいた一一日に騷音藝術なる宣言書を發表し、ついでモデナで三種の騷音樂器を公衆に紹介し、翌年はロンドンに於て半ば完成した十五種の騷音樂器によつて十二回のコンサートを催した事である。

未來派多年の宿望成就してイタリアが反獨墺の戰爭に參加するや、反オーストリアの急先鋒であつた彼は、第一線に立つて奮戰し、重傷を負ひ銀章を得たが、戰勝後はウゴー・ピアッツィや弟の音樂家アントニオ・ルッソロの助力を得て二十九種の騷音樂器を完成し、現在もなほ研究中だと云はれる。

彼の畫家としての功績は、この畫のやうな傑作もあるにはあるが概して大したものとは云ひ

難い。然しこの二世紀間樂器の種類の方面では何等進步する所がなかつたオーケストラに對して、巨大な改良乃至寄與をなしたものだと論じた人もあつた。（註、此點は私は樂器に對して全然低能だから贊否を云ひ得ない。）

彼は未來派の多くの部門に力を捧げたが、政治運動については拙稿未來派の歷史の中にも彼の名を見られ得る。なほ一九二〇年四月一一日の宣言書「繪畫に於ける凡ての復歸に對して」（前出）の署名者の一人であり、一九二一年六月にはシャンゼリゼ座で三回の騷音藝術のコンサートを開き、それは一九二一年六月一九日のコメヂィア、同六月二五日のロピニォン誌其他で批評され論議された。

彼には又一九一六年版で「騷音藝術」の著があり、一九二一年六月シャンゼリゼのコンサートの時發行されたプログラムにも「未來派の騷音樂器」なる一文をよせて居る。

僚友ボッチョニイに捧げる

若し私が女であつたなら
私は貴方を戀したに違ひない。

あくまでやせた神經質な顏
すき通るやうな澄み切つたおもだち
高貴と典雅と清淨な顏――
針にもまさる鋭い神經
何物をも燃やして悔ひない情熱と
氷よりもつめたい理智の同存――
私は貴方を戀ひ焦れたに違ひない。

ダ・ヴィンチ以後

世界は
君ほど立派な頭を持つた畫家を
一人だつて生みはしなかつた。

君は天才だ！

短命であつた君よ
君がもし
自分の仕事がほんの初期にあつた時に
死んで了つたのを悔ひて居るとしたら
それは大變なあやまりだ。

勿論君の仕事は
ただ一つの芽ばえに過ぎなかつた。

しかし
やがて生れる新しい天才は
君の芽を育て上げて
全世界を蔽ふ大木にするに違ひない。

君は先輩の血の出るやうな辛苦のあとで
甘い汁をたんまりと飲んだ印象派の殘黨であつたよりも
ただ一人の種播く人であつた事を
自ら喜び、滿足していいわけだ。

私は君を限りなく愛する。
神經そのもののやうな美しい青年
ボッチョニイ

――註　未來派研究の第二卷はその大半のページをボッチョニイの研究に捧げる豫定である。
それ故本書ではボッチョニイについて、なまじ不完全の記述をするのは避け得るだけさけた。――



ボッチョニイ作　　訣別

訣　別

ボッチョニイ作

この畫は一九一一年の作で、ボッチョニイの所謂「未來派作品の最初の組」に屬されるものである。

ボッチョニイの作品で云へば彼の「心理狀態」と銘打つた「去り行く人々」「あとに殘る人々」と共に有名な三部作をなすもので、ことにこの「訣別」は善惡ともに初期の未來派繪畫を代表するものである。

ボッチョニイ自らこの「訣別」に註して

「別離の混亂の眞中、入り雜つた具體的及び抽象的な感覺は、力線及び准音樂的諧調の旋律に飜譯されて居る。波打つ線や、人物及び物體の結合から成立つ和諧音を注意せよ。主もな要素即ち機關車の番號、畫の上部に示された機關車の側面圖、別離の象徵のやうな中央にある機關車の風を切る前部等は、心にきざまれて消えない所の別離の光景の狀態を指示する。」

と書いて居る。

（八）

今から考へると隨分昔の事である。

わが國に初めてボッチョニイの本が着いた頃は、世の人は未來派や立體派の存在などは殆んど知らなかつたし、さう云ふ名を知つて居る人達も、山師の根柢のない氣まぐれ仕事だぐらゐに思つて居るのが常であつた。

何時の世にもある幇間畫かきの事は一先づ云はずとも、繪と云へば印象派が最も進歩したものだとして、世の人の喝采を博して居た不思議な時代であつた。

その時の事だ。

景氣のいゝ宣言書の一つ二つを讀んだ以外未來派に對して全然無智であつた私は、偶然の事で手に入つたこの部厚な本を抱へると、その足で、その當時貧乏人の行ける寂しい溫泉であつた伊豆の畑毛へ行つたのだつた。

その時、私は未だ心平かな靑年であつたし、何よりも有難い事には、ふるへながら本の頁切る純な心を持つて居た。

私は今でもその時の興奮をはつきりと思ひ浮べる事が出來る。私は汽車の片隅に腰をおろして、なるべく人の邪魔にもならず人にも妨げられないやうにして、その本にある澤山の複寫に見とれて居た。

そして汽車を捨てゝ歩むがまゝに展開されて行く冬の高原の荒涼たる美しさなどは、この本一杯に惜氣もなく擴げられた新しい世界の魅力に較べれば、餘りに香氣の少いものであつた。

私はかほどまでもボッチョニイの仕事に心ひかれた。だから快よく疲れて宿についた時でさへ女中が火を持つて來て吳れる前に、旣にその本を開けて見ずには居られなかつた。

しかし偶然に對して心から感謝すべき事には、私はその宿で海紅（碧梧桐氏が主宰して居られた雜誌）の同人江田良雄君と知り合ひになつた。

そして私は、同君の

炭　火　し　ろ　梟　か

と云ふ句に感嘆したり、「句は祈りであるべきだ」と云ふ主張に共鳴したりすると、私はもう一刻も早く、私の攜へて行つた本を見せて自分の喜びと興奮を分たずには居られなくなつた。

しかし同君はその本の中の一等初めの畫を見るや否や

「素敵だ！　これは人が別れて行くところだ！」と云はれた。

かくてボッチョニイの訣別は、私には快い思ひ出の種を一つまして呉れた。

それから三、四日たつてある朝、私はその宿を去つて雪の二尺も積つた箱根を越えた。

そして東京に歸つたしらせを出した返事に

「宿屋の窓から貴方が見えなくなる迄じつと見守つて居ました」

と云ふ便りを頂いた。

それはボッチョニイの描いた場面とは、餘りにかけ離れた、心靜かな、しんみりした、遁世的な、しかし名殘惜しい訣別であつた。

△

ボッチョニイのこの作は初期未來派繪畫を代表するものとして、今日では既に立派なクラシックの一つであり、時代を劃する一つの巨大な紀念碑である。だから若し私達がその畫が何時描かれたか？　繪畫がどう云ふものだと思惟されて居た時代にその畫が出現したか？　を考へるな

らば吾々はたゞ嘆賞するの外はないであらう。

しかし私は、この未來派初期の美學の凡てを代表すると同時に、初期未來派思想の凡ての缺陷を物語るこの三部作――ことに最も有名な「訣別」を藝術的な意味から公平に見て、ボッチョニイの他の作品よりも上に評價する事を好まない。

ことにこの畫の最大な缺陷は、餘りに唯物的な見方に囚はれて居る點にあると思ふ。であるから今から四年前私が「神原泰第一回宣言書」を發表した時、その第八節ち「藝術解剖書に於て、所謂畫道の大家の模範圖が彼等の眼より見れば一職工に過ぎざる可き寫眞師の爲めに一蹴し去られしが如く、現在の繪畫藝術は、急速なる人智と科學の進歩に壓倒せられ、藝術の價値及び存在は遠からずして否定せらるゝに至るべし。

是所に於て奮然立てる新たなる藝術の苦鬪者が、既に勇ましくも物體の外面に固着するの愚をやめて、直接に生命を表現せんと欲しながら、怯懦にも皮相なる外面と妥協し、或は幼稚なる暗示及び記號にたよりて得々たるが如きは、そが如何なる表現樣式を採ると雖も既に墮落なり。われ元より藝術の自由なるを知り、生命の生長にとりて一物と雖も回避す可きに

非ざるを知るが故に、時として物體の表面が畫面に表はるゝ事あらんも、そは生命との同存にして、その物體の觀者與ふる概念の綜合及び聯想によりて間接に生命を暗示せんとするものに非ず。」

と主張したあとに附記した長文の説明の末尾に、

「――前略――更らに未來派にあつては、ボッチョニイは自らの作品のいくつかに心理狀態と銘打つたけれど、其の一例として「訣別」をとれば、彼自らの説明によつても明かな如く、別離の混亂や、諸感覺の記號的表現や、畫布の中央にある機關車の番號や、進み行く前半部や、切られた風の記號的表示や、舞臺面として殊に重要な窓や、窓際の人物や、通信事務の暗示は、訣別の限界され枯死され概念化された舞臺光景としては皮相的で又甚だ説明的であり、更らに彼自らは説明と稱する電信符號と引合せる時は、觀者は畫家が何を表現しようと欲するかを知識を通じて知る事が出來、更らに曖昧且つ不完全な程度ではあるが何を云はうとしたかさへ推量する事が出來る。

云換へれば彼の畫は全然暗號電報と普通電報と略字との混用から成る幼稚な數學である。

此の適切極まる何等辨證の必要ない程明から比喩は、何故に自分が未來派に滿足し得ないか、何故に自分にとつて未來派が過去派に過ぎないかを說明する一材料となる。然るに此の誤つた過去派的符號傾向は、同じく心理狀態と銘打つた「去るもの」「とゞまるもの」に至つても少しもあらためられず、他の未來派の人々によつては更らに物質的に更らに皮相的に解釋され展開された。」

と斷言した私は、今でも全然同じ考を――否更にはつきりした反對意見をさへ持つて居る。

さあれ、この作品が劃時代的な大きな紀念碑である效績を、誰が否定し得ようぞ。



ボッチョニイ作　去り行く人々

去り行く人々

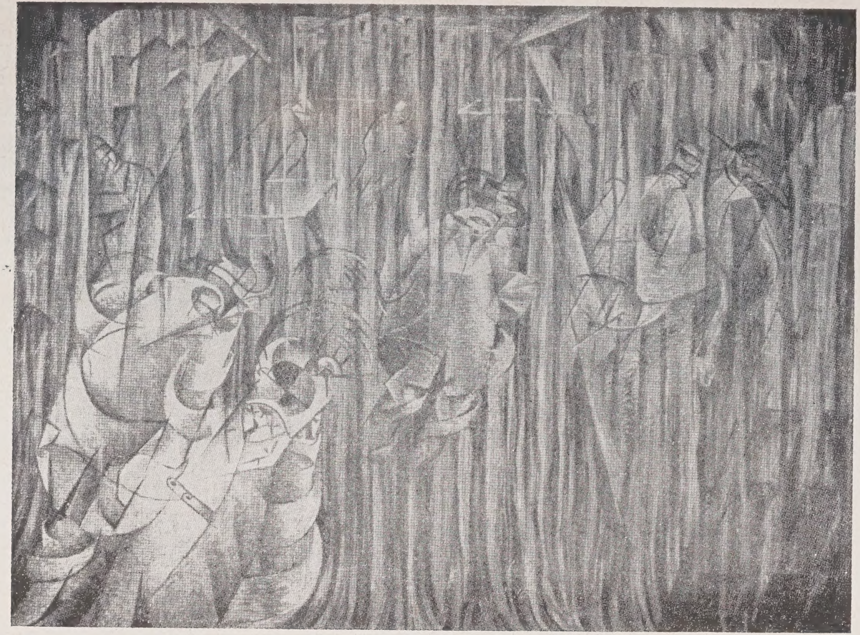
ボッチョニイ作

この畫は一九一一年の作でボッチョニイの所謂「未來派作品の最初の組」に屬されるものであるボッチョニイの作品で云へば「訣別」「あとに殘る人々」と共に「心理狀態」と銘打たれた三部作をなすものである。

ボッチョニイ自ら此の畫に註して

「去つて行く人達の心理狀態は左部にある斜線によつて現はされて居る。色は孤獨、煩悶及び目をくらます混亂を示す。しかし此等は更に、煙や快速の暴力によつて持ち去られる顏によつて說明されて居る。畫面には、ずたずたに切られた電信柱や、汽車が横切つた所景色の斷片もある。」

と書いて居る。



ボッチョニイ作　　あとに残る人々

あとに殘る人々

ボッチョニイ作

この畫は一九一一年の作で前二者と共に三部作をなすものではあるが、私はその三つのうちで一等有名でない(比較的な意味で)この畫に一番心ひかれる。

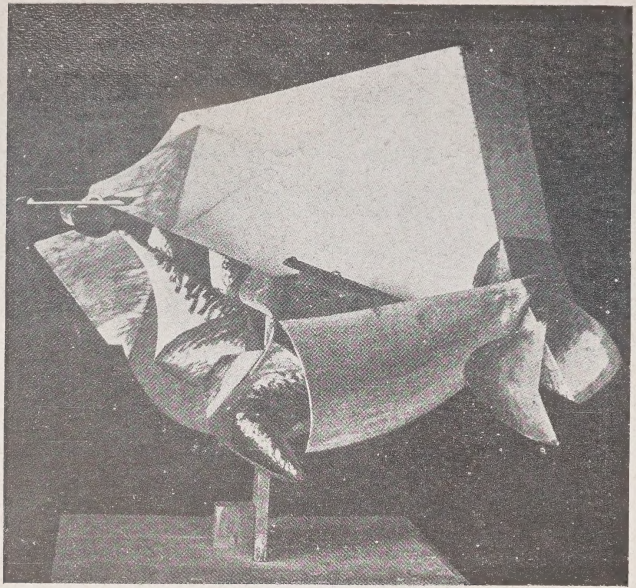
ボッチョニイ自ら

「垂直線はあとに殘つた人々の氣落ちした狀態と凡てを地にひきづり降して了ふ所の彼等の悲しみを表はす。數學的に精神化された肖像は、あとに殘された人々の心のあんたんたる憂欝を表はす。」

と書いて居る。

この三部作は共にマリネッツィのコレクションにある。

私の考に間違ひがなければ、今はローマにあると思ふ。



ボッチョニイ作

馬十家
造型的力動主義

馬プラス家

ボッチョニイ作

私はボッチョニイの彫刻を限りなく愛するものではあるが、彼の初期の作品 Antigrazioso, Testa + Casa + Luce, Dinamismo umano, Espansione spiralica di muscoli in movimento, Muscoli in velocità, Forme uniche della continuità nello spazio 等等のやうな餘りに寫實的にプラスツィックなものよりも、寧ろ、物質感を作者の創造の一素材にまで引下げて了つた Forme forze di una bottiglia のやうな作品に心ひかれる。

この意味で彼の一九一三年の作「馬プラス家」は私の愛着措く能はないものの一つである。

この彫刻に於ては家や馬の寫實的再現は殆んど徹底的に捨てられて、凡てのものは物質それ自體に內在する力動線によつて空間を支配する一つの塊となり、その塊は概念によつて作者と觀者とをつなぐ橋とならずに、直接に物質の生命を主張する。

私にはボッチョニイが、か程まで深く物質に苦しんで行つた事を考へると、彼の行き途には私は澤山の不滿を感ずるにも拘らず、この一人の天才の若死を今更のやうになげかずには居られ

ない。この天才が若しもゝう十年長く生きて居たら、きつと世界の繪畫彫刻は現在のそれとは甚しく違つたものになつた事と思ふ。



街に於ける雑多な力　ボッチヨニイ

街に於ける雜多な力

ボッチョニイ作

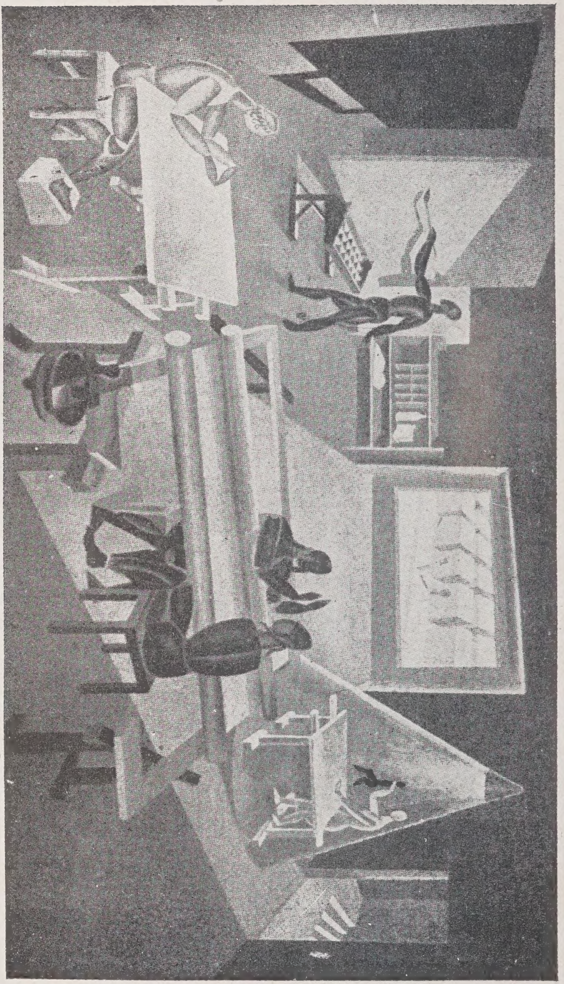
この畫は一九一二年の作でボッチョニイの所謂「未來派作品の最初の組」に屬されるものではあるが、この畫に於てはボッチョニイが段々と物體の外面から自由になつて行くさまが、はつきりと見られる。

この繪についてボッチョニイ自ら

「人が街で經驗する諸傾向、力動力、生活、環境、苦惱等、卽ち近代の雜沓の人を壓し潰すやうな感じ」

を描いたものだと云つて居る。

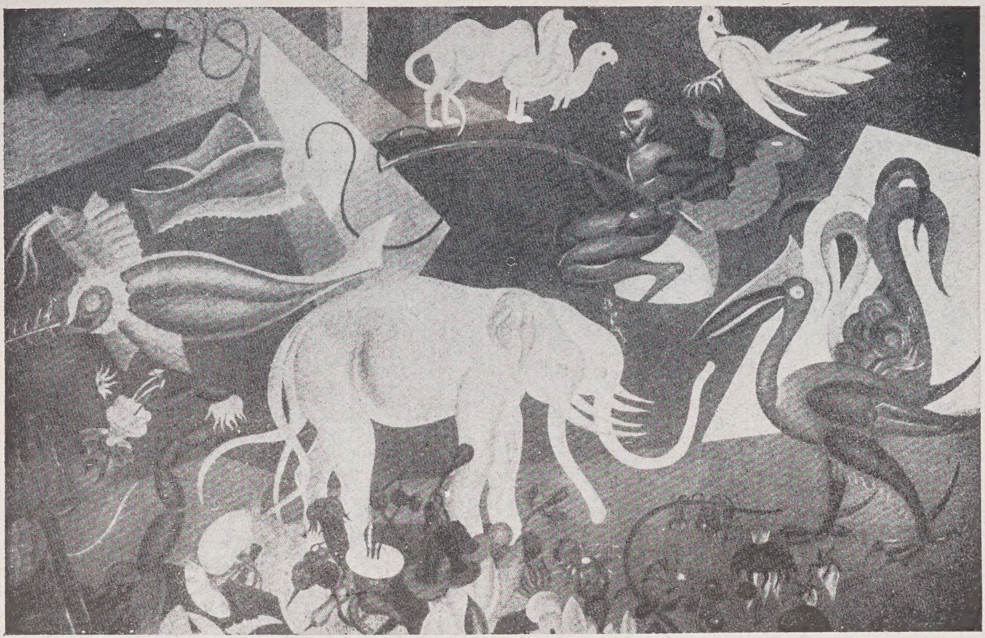
この畫は現在もベルリンの Borchardt のコレクションの中にあると思ふ。



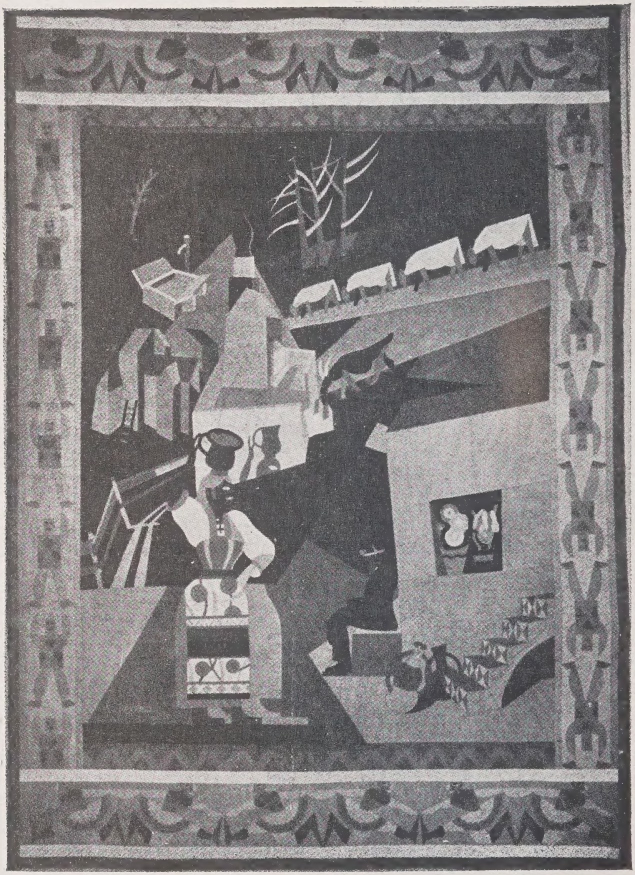
私の魔法の畫室　デペロ作



デペロ作　　ピエタ



デペロ作　魔法の植物誌動物誌



デペロ作　　　　セラッダ



Cavalcata fantastica

Arazzo (m. 2.80 per 3.80) proprieta Umberto Notari 1920

デペロ作　　空想的な騎馬行列

未來派畫家デペロ君に

愛する友デペロ
君は魔術師だ
光と幻想のおとぎ話のおぢさんだ
しかし
君はシヤガルでもスーデーキンでもない
君は聖フランチェスコでもない
君は永遠の嬰兒だ
小鳥は君と遊び
けだものは君の手をなめる
君は暖國の光の王子だ。

未來派作品

未來派雜錄

未來派雜錄（一）

マリネッツイの名について

私は以前からマリネッツィをフル・ネームで云ふ時はフィリッポ・トンマッソ・マリネッツィと呼んで居た。

そして La Testa di Ferro, 19/12/1920 にマリネッツィと題する評傳を書いたネルソン・モルプルゴもアルツゥロ・カラゥツィも亦私と同じに書いて居る。しかしパオロ・ブッヂはマリネッツィと題する詩——それは Racconta Novelle, 15/12/1920 にも彼の詩集 Poema dei qnarant-anni にも載せられて居る——の中でフィリッポ・トマッソとmを一つ少く綴つて居る。

それで氣になるので直接マリネッツィに聞いて見たら、一九二四年一月七日附で「私の名はフィリッポ・トンマッソ・マリネッツィです。然し私はエッフェ・テ・マリネッツィとして世界中の出版物では知られて居ます。」と教へて下さつた。

何時かパオロ・ブッヂに會ふ機會があつたら、何故エンメを一つ少く綴つたかを聞いて見たい

と思つて居る。

未來派雜錄（二）

Le Roi Bombance の最初の上演日について。

その脚本はマリネッツィの最初の劇であるが、その最初の上演の日が何日であつたかについては、吾々の得られる材料は一致して居ない。

私はイタリア譯の Re Baldoria に書かれた材料によつて一九〇九年四月三日ウーブル座で上演されたと書いたが、一九〇九年三月二六日のコメヂィアには "Après le bruit provoqué par le manifeste du futurisme publié recemment par le Figaro, et commenté ici même par notre rédacteur en chef, au moment même où l'on répète, au théâtre Marigny, le Roi Bombance, tragédie satirique du chef de la nourelle école, ..." と書かれて居るし、マリオ・デッシイの「エッフェ・テ・マリネッツィの作品」と云ふ研究によると "Le Roi Bombance, che è il primo lavoro teatrale di Marinetti, venne rappresentato al "Théâtre de l'Œuvre" di Parigi il 5 aprile 1909 ed ebbe un tale successo di

critica e di pubblico da imporre in modo completo e definitivo il suo nome."と書かれて居る。

未來派雜錄（三）

ツゥリエストのロセッツィ座に於ける未來派の第一回の夜の會合の日について

ツゥリエストのロセッツィ座に於ける未來派の第一回の夜の會合の日を私は一九一〇年一月一二日と數へた。

しかし Il Futurismo e la Guerra, によると、それは一九〇九年に數へられて居るし、マリネッツィの著書 Futurismo e Fascismo には「一九〇九年三月ツゥリエストのロセッツィ座に於てなされたツゥリエストの人に對する演說」と題する一文もあるけれど。私にはその日附は疑問である。

よし一九〇九年三月マリネッツィがツゥリエストのロセッツィ座で演說をしたとしても、それは未來派の所謂「ツゥリエストの最初の未來派の勝利」ではなく、その最初の勝利を得さしめた彼の演說はパラツェスキの L'Incendiario の中に附錄的に收められて居るが、全然內容をことに

して居る。

私が一九一〇年一月十二日に數へた據り所は、アウグスト・ダッタの"Il publico che no potè farsi un'idea esatta di ciò che futurismo vuol dire, giudicherà il 12 gennaio……"である。

なほ彼の言葉に"Mercoledi 12 avrà luogo al……"とあるから見て其日が水曜日であるのが知れるが、なほシルヴィオ・ベンコに"Infatti i sei giovani poeti che reciteranno mercoledi i loro versi al Politeama Rossetti hanno accettato come insegna del loro sodalizio il manifesto del futurismo lanciato l'anno scorso dal Marinetti,……"の言あるによつても、その會が一九一〇年一月十二日の水曜日に開かれたものだと數へたのである。

未來派雜錄（四）

アルド・パラッツェスキの詩集「煽動」について

現今私達が手に入れ得るのは一九一三年版の同名の本である。その本は一九一〇年三月に發行された初版に比較して、甚しく相違して居て、再版と云ふ名には不適當ではないかと思はれる。

初版にあつたマリネッツィの Rapporto sulla vittoria del Futurismo a Trieste 及び諸家の Le fanfare della stampa はなくなり、一九〇五年一一月發行の詩集 I Cavalli Bianchi のうちの或もの、一九〇七年二月發行の詩集 Lanterna 中の或もの、一九〇九年四月發行の詩集 Poemi の中の多數、L'Incendiario 初版の殆んど全部、及び未發表の詩若干を含んで居る。

初版に於て「吾等の焔の熱情の中心であるエッフェ・テ・マリネッツィへ」なる捧げの言葉を附して卷頭に置かれた「煽動」と題する長詩——その詩からこの詩集の名はとられた——は再版ではほ

んの所々拔萃されただけで一頁に收められ、その代り再版全部がマリネッツィに捧げられて居る。

この初版は一九一〇年八月マリネッツィの序文が反オーストリア的であるとの理由でツゥレントに於て押收されたが、イタリアに於ては依然として販賣されて居た。

未來派雜錄（五）

「ローマ法王の飛行機」について

此本は歐州大戰勃發し、その要せられる事益々切なるに至るや「二年前パリーに於てフランス語にて發行、今日一九一四年（宣傳の目的の爲め）飜譯」と表紙に綠色で刷られてポエシアから發行された。

原作は一九一一年一一月二九日ツゥリポリのシヅゥ・メッスリの塹壕中で完成され、一九一二年一二日パリーのサンソオ書房から發行された。

未來派雜錄（六）

「アシナリ・ヴィ・ベルネッツォ將軍の讃歌」について

未來派にとつてもイタリアにとつても更に歐州大戰に於ける聯合國にとつても、不斷の感謝の源である所の一九一〇年二月一五日のリ、コ座の未來派の會合が、未來派を藝術運動よりもオーストリアの征服を更に緊急な目的とするに至らしめたのは、有名な「アシナリ・ヅ・ベルネッツォ將軍の讃歌」による所が多い。

その歌は、パオロ・ブッヂの作であるが、マリオ・デッシイはそれについて

「――一九一〇年彼の有名なアシナリ・ヴィ・ベルネッツォへの讃歌」が作られた。その歌はミラノのリリコ座に於ける未來派の夜の會合に於いて、反オーストリアの最初の嵐を引起したものである。そしてその會には數千の聽集に混つてドイツのホーヘンツォルレルン家の王子も出席して居た。」

と書いて居る。

未來派雜錄（七）

未來派が合衆國の文學表現樣式に及ぼせる影響の一例として

薔薇の花びら

――マーヂェリイ・ヴァナー・リードの「未來派物語」より譯す――

三十年過ぎた。

自分を食ひ盡して了つた愛と憎しみに打ち勝たうとする徒しい試みに、三十年は使はれて了つた。殆んど寸暇ない生活の差迫つた用事で、どんなに氣を奪はれて居る時でも、私は絶望――イーヴがもう貴方を愛しては居ませんと告げた時に感じた絶望――が自分の心の底を流れて居るのを感じた。

私達は約婚をして居た。

本當に私を愛したのか、それとも單に乙女らしい氣まぐれであつたのか、私はどつちとも云ひ

得なかつた。然し結婚の日は取り定められ、その日に間もない或る日曜の午後、私はお茶に彼女の家に行つた。

書齊のマホガニイのテーブルは――彼が彼女に送つた薔薇――その薔薇の花びらで蔽はれて居た。部屋のほかの細かな事は何一つ私の記憶に殘らなかつたけれど、今もなほ私は、磨き立つた表面を蔽つた薔薇の花びらを見る事が出來る。ある說明し難い現象で、この赤い花びらは、永へにわが心にきざまれて了つた。

私はその土地を去つて、終に思ひ通りにイーヴの凡ての面影を失つて了つた。

三十年經つた時の事だ。私はお得意と商賣上の約束をした。その人は風邪を引いて居たので、家まで來てほしいと云はれた。私は大きな堂々たる客間に案内された。立派な肖像畫は壁にかゝり、どつしりした家具と美しい東洋の絨氈が部屋を埋め、火は爐に燃えて居た。

其時私はそれを見たのだ――テーブル一杯に――花びらの散つた――薔薇の大きな球を。ナイフのやうに、それが心を刺した――

薔薇の花びら――

イーヴ――彼女が返した指輪、机の暗い陰にそつとかくしてある指輪――

戸は開いた。脊の高いほつそりした女が進んで來た――

イーヴと、私は叫んだ――眼は物が見えない程朦んだ。不思議な、いくらかわざとらしい笑ひ方をして、その乙女は答へた。お母様と同じ名ではないのだけれど、お母様の生きた肖像そつくりだと、よく人に云はれると。

そして乙女は重いカーテンを引いた――私のかすんだ目の前には、イーヴの畫があつた――私のイーヴ――

私は家を逃げ出した。

訪問の目的などは、一瞬間ですら、心に上らなかつた。イーヴも。

過去も。

バラの花びらのみが、わが心を滿した。
ある友達から、イーヴは數年前セント・ローレンス川で溺れて了つたと聞かされた――彼女は新しい戀の爲めに、夫や赤んぼの娘を捨てたのだ。
薔薇の花びら――
到る所、ばらの花びら。

未來派雜錄（八）

眞晝の街道

――この詩は一九一七年九月の雜誌「ワルト」に載せられ、後イタリアで發行されて居る未來派雜誌「ノイ」の一九二三年八月號に掲載された。私がかかる表現様式による詩を初めて日本で發表したのは、一九一七年六月及び八月の雜誌「新潮」に於ける「疲勞」「眞夏」「異端者」「自動車の力動」等であり、丁度其時二科會に私が出品した「麗しき　市街おゝ　複雜よ　いらだちよ」と云ふ未來派的な畫と共に冷嘲的默殺を蒙つた。

然し繪畫の方面では翌年の二科會に出品した「工場に於ける或る勞働者の心理」「自我の分裂」等の時代から後、私は未來派の直接な影響からは全然自由に自分の藝術を創る事が出來るやうになつた――。

眞晝の街道

赤、黑、黃、藍、綠
自動車、カフェ、パラソル
色、光、リズム、雜音——此等凡てエゴイストの華美よ
流動し　合一し　旋轉す　今——眞晝

偉大なる騷音！
太陽は空間を超えてひた走るリズムの象徵
眼に映ゆるものは皆融け
わめきわなゝく
——狂るはまほしき悶えよ

赤よ、黃よ、されば褐色よ
銳角よ、銳角よ、されば眞晝よ――

未來派雜錄（九）

未來派繪畫展覽會の惹起した樣々な評判

未來派が海外に於ける第一回の展覽會を開いた時、各地に於て長文の序や挿畫を含んだカタログを發行し、その中で――例へばロンドンで發表されたものを採れば

「吾々は、最近パリーで開かれ今やロンドンに持ち來られたイタリア未來派繪畫の第一回展覽會は、今迄歐州の批判に提出された伊太利繪畫の最も重要な展覽會である事を、何等の傲慢なしに云ひ得る。

何故なれば吾等は若く吾々の藝術は烈しく革命的であるからである。」

と云つたやうな決然たる態度をもつてのぞんだ。

であるから未來派繪畫展覽會は贊否はとも角すばらしい評判のまととなり、その出品の殆んど全部は賣約されて了つた。

吾々はその正式な報告を未來派が出した Le vittorie della pittura futurista 其他で充分



否十二分に讀む事が出來る。

そして一九一二年三月即ち未來派がその第一回の展覽會をロンドンに開いた當時、その地の雜誌新聞は競つてその寫眞をのせ、記事を集め、現にイラストレィテッド・ロンドン・ニウスなども未來派についてその巻頭言を費して居り、多數の複寫をのせて居る。

しかし最も徹底的なものは一九一二年三月二〇日のスケッチ紙で、同紙は先づ表紙に「附録として原色寫眞による未來派繪畫添附」と書き、その寫眞を挿入し、巻頭にはカッラの描いたマリネッツィの肖像を出したのみか、第三頁目には「ベートマン氏の心理狀態の綜合」と題する戲畫を載せ未來派の主張をそのままに

「未來派展覽會に行つてから描いた畫、吾々の藝術家は彼が見たものと彼が現に記憶するものとを記錄した」と書き更に、ポッチョニイがその時のカタログに一々自分の畫に註釋をつけた口調を眞似て

『ベートマン氏はこの時代を劃すべき作品を說明して曰く「未來派展覽會に行つた事で生じた心理狀態の綜合、卽ちその畫堂の中で畫家が注意し各方面から研究した多數の公衆の肖像

――當世風な靴、街に出るのに必要であつた液體の氣つけ飲料、ピカヴヰリーで見た古い一頭牽の馬車の馬や様々な建物、カタログ、私をサックヴィル街に案內して吳れた巡査の二つの生寫しの肖像等を示す。畫の中央にある角度は目で見た作品を理解しようとする心の努力を現はし、下半部の螺施形は吾々がその建物を去る速力を表現する。』

と書いたのみか、なほ足れりとせず、更に別に

『自然による石炭走向の「未來派繪畫」!　鑛山所有者と鑛夫の心理狀態の綜合!』

と云ふ見出しで、ヨークシヤ石炭の顯微寫眞を載せた。

未來派雜錄（一〇）

よき兵士ギーヨーム・アポリネイルについて

私は未來派の歴史の中でギーヨーム・アポリネイルと未來派の關係に論及した。そしてそれに關連して、眞理に忠である爲めには、アンドレ・ビッリイの僅かな言葉を見逃がすのは公平でないやうな氣持を感ずる。

即ちアンドレ・ビッリイは

「人々が書いて居るやうに、本當にギーヨームがポーランドの將軍を祖父に持つて居たかどうかは、知らないが、彼の血管の中に兵士の血が流れて居たのは、確かである。彼の戰爭の手紙――それは澤山發表されて居るが――はその證據になる。そしてその手紙の書振りは、雄辯にそれを語つては居ないであらうか？」

と書いたあとに

Nîmes, le 22 décembre 1914

Mon cher ami,

Je vous envoie mes meilleurs amitiés. Écrivez-moi.

Je suis à Nîmes.

Dites-moi vos exploits et tout ce que vous faites.

Je vous embrasse.

Votre frère d'armes,

Guillaume Apollinaire.

Adresse : Guillaume Kostrowitzky, 2e canonnier conducteur, 38e régiment d'artillerie de campagne, 70e batterie, Nîmes.

と云ふ1つの短い餘りに軍隊的な手紙を引用して居る。

神原泰著書及び譯書

1. 新しき時代の精神におくる(絶版)

2. ビイナスの誕生(絶版)

3. 神原泰第一回宣言書(絶版)

4. Bilitis no Uta kara.

   Nippon-no-Romazi-Sya.

   Atai 75 sen

5. 藝術の理解

   イデア書院刊行

   定價一圓八十錢

6. 電氣人形(未來派の三幕物)

   マリネッツィ作

   金星堂刊行

   定價六十錢

7. 未來派研究

   イデア書院刊行

   定價二圓六十錢

8. パブロオ・ピカソ

   アルス刊行

   定價一圓五十錢

Z.

I.

K, X.

L, R.

D, J

索　引

讀 者 索 引

讀　者　索　引

讀 者 索 引

讀 者 索 引

讀　者　索　引

讀者索引

大正十四年二月二十五日印刷
大正十四年三月　一　日發行

未來派研究
定價貳圓六拾錢

著者　神原泰

發行者
印刷者　高井能

發兌　東京市牛込區山伏町十四　イデア書院
振替東京一五四二三番
電話牛込三六五六番

發賣元
東京　慶文堂
名古屋　川瀬書店
大阪　金正堂
久留米　菊竹書店

大杉印刷所

一、弊院の理想とその一切の純益は『教育の王國』實現のためにささげるのであります。

一、弊院は主として教育・哲學・藝術・道德・宗教及び兒童讀物に關するものを出版いたします。

一、小西重直先生を顧問とし小原國芳氏指導の下に其恩師先輩學友の作品を主として出版いたします。學界のために責任を重んじ、權威あるものにあらざれば出版いたしませぬ。

一、落丁その他不備の點につきましては一切その責に任じます。

東京　イデア書院

イデア書院兒童圖書館叢書

- 小川未明著　ある夜の星だち　定二、一〇　送三
- 吉田助治編　弓張月　定一、八〇　送八
- 小川未明著　飴チヨコの天使　定二、〇〇　送三
- 赤阪清七編　黄金島（たからじま）　定一、八〇　送八
- 吉田助治編　西遊記　定二、一〇　送八
- 河野伊三郎著　童謠の味ひ方　鈴草　定一、六〇　送八
- 水谷まさる著　マッチの兵隊　定一、八〇　送八
- 沖野岩三郎著　黑船物語　定一、六〇　送八
- 小島政二郎著　コサック騎兵　定一、六〇　送八
- 上里朝秀著　日本の風俗史　祖先の生活　定二、〇〇　送三
- 相良德三著　西洋美術史　埃及から現代まで　定二、〇〇　送三
- 中島孤島著　ギリシャの神話　定二、五〇　送三
- 小島政一郎著　汽車の話　定一、五〇　送八

- 奥野庄太郎著　世界英雄物語　定一、六〇　送八
- 遠藤早泉著　世界偉人物語　（近刊）
- 仲原善忠著　日本の外交史　定一、八〇　送八
- 岸英雄著　こどもイソップ　定一、四〇　送八
- 岸英雄著　こどもグリム　（近刊）
- 奥野庄太郎著　こどもアンダーセン　（近刊）
- 北村壽夫著　おもちゃ箱　定一、三〇　送八
- 田尾一一著　トルストイ物語　四つの話　定一、四〇　送八
- 小鹽義郎著　子供の科學　謎の生物界　定一、六〇　送八
- 山村暮鳥著　童謠　よしきり　（近刊）
- 鷲尾知治著　ふしぎなお庭　定一、一〇　送八
- 近藤宗男編　青い鳥　定一、三〇　送八
- 月刊雑誌イデア No 23（兒童讀物號）　定價、五〇

發兌　東京市牛込區山伏町一四　イデア書院　振替東京一五四二三　振替仙臺六一九二

イデア書院出版書目

- ウヰンデルバンド 哲學概論（九版）松原寛譯 定四、三〇 送一八
- カンヂンスキーの 藝術論（新刊）小原國芳譯 定六、〇〇 送一八
- 教育の根本問題としての 哲學（十六版）小原國芳著 定三、八〇 送一八
- 教育と内省（八版）岡部爲吉著 定三、八〇 送一八
- 科學より宗教への思索（五版）佐藤定吉著 定三、〇〇 送一八
- 藝術の理解（四版）神原泰著 定一、八〇 送〇八
- 未來派研究（新刊）神原泰著 定二、六〇 送二三
- 音樂の法悅境（新刊）山田耕作著 定一、八〇 送〇八
- 魂の故郷（新刊）松浦一著 定一、八〇 送〇八
- 風は草木にさゝやいた（新刊）山村暮鳥著 定一、六〇 送〇八
- 詩集 雲（新刊）山村暮鳥著 定一、六〇 送〇八
- 自由教育論（十六版）小原國芳著 定一、八〇 送〇八
- 學校劇論（十一版）小原國芳著 定一、六〇 送〇八

- 國語教育論（十版）赤阪清七著 定一、三〇 送〇
- 藝術教育（十一版）松原寛著 定一、五〇 送〇八
- 童謠と兒童の教育（九版）野口雨情著 定一、五〇 送〇八
- 數學教育の根本問題（十一版）小倉金之助著 定三、〇〇 送〇八
- 江戸切支丹屋敷の史蹟（新刊）山本秀煌著 定一、〇〇 送〇八
- 教へざる教育（新刊）小島政一郎著 定一、四〇 送〇八
- ドストエフスキー（新刊）山村暮鳥譯 定一、九〇 送〇八
- ニジンスキイの藝術（新刊）澤柳禮次郎譯 定一、七〇 送〇八
- 私の教育（八版）本間俊平著 定二、四〇 送二三
- 私の宗教（八版）本間俊平著 定二、四〇 送二三
- 恩寵の追懷（六版）本間俊平著 定二、四〇 送二三
- 學校教師論（新刊）三浦修吾著 定一、八〇 送〇八
- 母のための教育學（近刊）小原國芳著 定送（未定）

發兌 東京市牛込區山伏町一四 イデア書院 電話牛込三六五六 振替東京一五四二三

二八ム


IL
GES
TO
DI
MAR
INE
TTI